大正七年七月廿五日

關西建築協會雜誌

第一輯第九号



關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ眞實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ設ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ノ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ設ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　主　計　一　名

三　編　輯　三　名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事會ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ顧問委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル調査研究報告ノ發表

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　建築ニ關スル講演會ノ開催

四　建築ニ關スル展覽會ノ公開

五　建築ニ關スル視察

六　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

七　建築ニ關スル圖書ノ刊行

八　建築ニ關スル講演會ノ開催

九　建築ニ關スル有志者ノ計畫

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ノ會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ徵出ス

但例會ニ出席シ總キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ管理ス

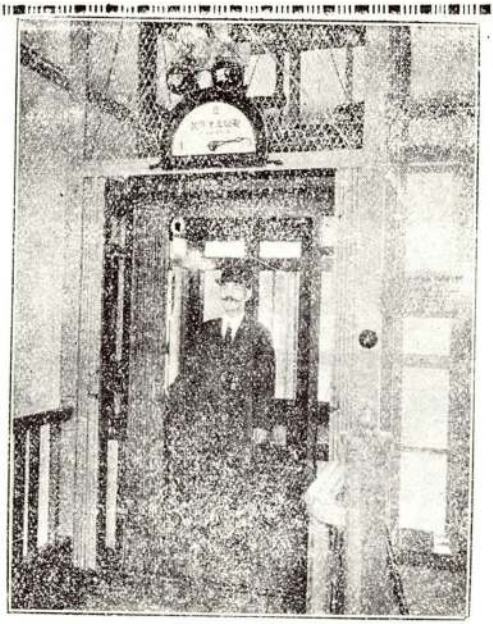
第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

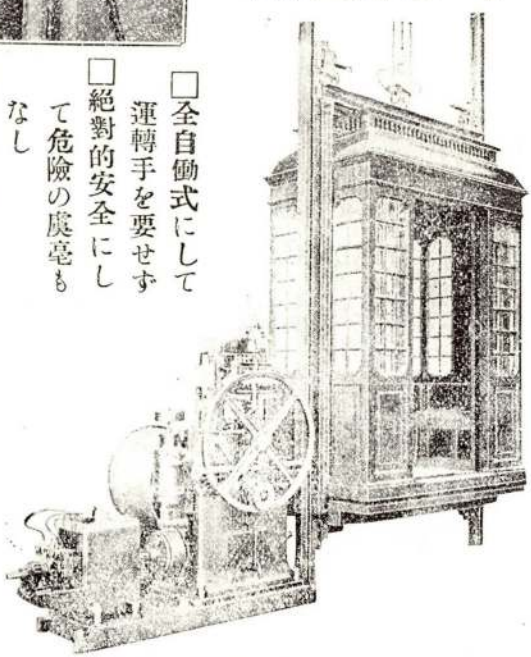
第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

東松式
安全自働エレベーター及リフト



エレベーター、リフト、最近の御注文先
○長野片岡建築事務所○古河鍊銅會社○伊藤忠合名會社○岸本製釘會社○三菱株式會社長崎造船所○竹中工務店○大阪市公會堂○大阪倶樂部○山下汽船合名會社○商海鐵道會社○神戸銀行集會所○大阪電氣倶樂部○東洋紡績會社○石原時計店○日本綿花會社○神戸海員集會所○東京淺野スレート會社○大連島久商會○石原赤金鑛山○米井商店○大阪電燈株式會社心齋橋陳列所○大阪窯業株式會社○小樽塚本商店○兵庫縣立農工銀行○大正貯金銀行○大連南滿鐵道病院

□全自働式にして運轉手を要せず
□絶對的安全にして危險の虞毫もなし
□機械堅牢にして破損の憂ひなし
一電力用、水力用、蒸氣用、手働用、
一客用、荷物用、
料理昇降用



大阪市北區南安治川通一丁目

東松工作所

電話西三六九九番

大阪市西區北境川町一六八番地　分工場

關西建築協會雜誌 第壹輯 第九號

目次

□ 繪
大阪市娛樂地區隨一なる道頓堀(三色版)
倫敦の名所(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)
都市建築の今昔(十四)(十五)

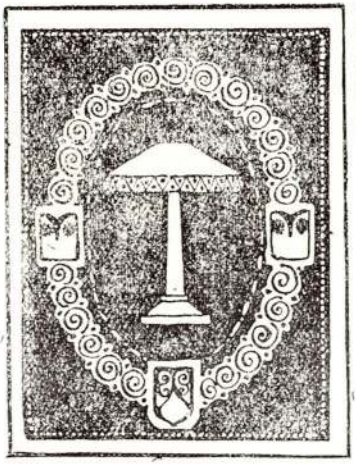
△救濟事業調査會の設置 …… 會員 片岡安 …… 一
△結核病と住宅改良問題 …… 大阪市役所 港灣部 …… 二
△最近の大阪港(二) …… 大阪市役所 港灣部長 直木倫太郎 …… 一七
△技術家とは何ぞや …… 會員 谷民藏 …… 二八
△本邦森林と建築用材に付いて(三) …… 會員 …… 三八
□貯材と運輸軌道(挿繪) …… 會員 …… 三八
△都市と建築 …… 都市研究生 …… 五二
□三十年後の大阪 …… 六〇
□救濟事業調査會と都市計畫調査會 …… 六〇
□都市計畫調査會の經過 …… 六四

△亞米利加の住宅(二)……會員・谷本多喜治・六八
△建築と趣味……會員・香櫨書生・七六
△米國に於ける職工住宅經營法……會員・葛野壯一郎・八二
△懸賞規定と審査員の体度……會員・矮燕生・八八
△東大寺建築史……會員・須藤眞金・九六
△佛寺建築の將來(三)……會員・波江悌夫・一〇二
△帝都通信……普通替助員・丘周生・一九〇
△戀の杜頭……會員・まがね・一一三
△時報……一一六
□故西村愷爾君と高知縣廳舍配景圖
△會報……一二一
△編輯たより

附錄

△墺匈國首府維納市建築條令(下)……一六頁

電燈裝飾器具製作販賣



電氣諸工事設計及請負

原安商會

商會主　原田金次郎

本店　東京市京橋區松川町五番地
電話京橋（特）六二三
長六二四

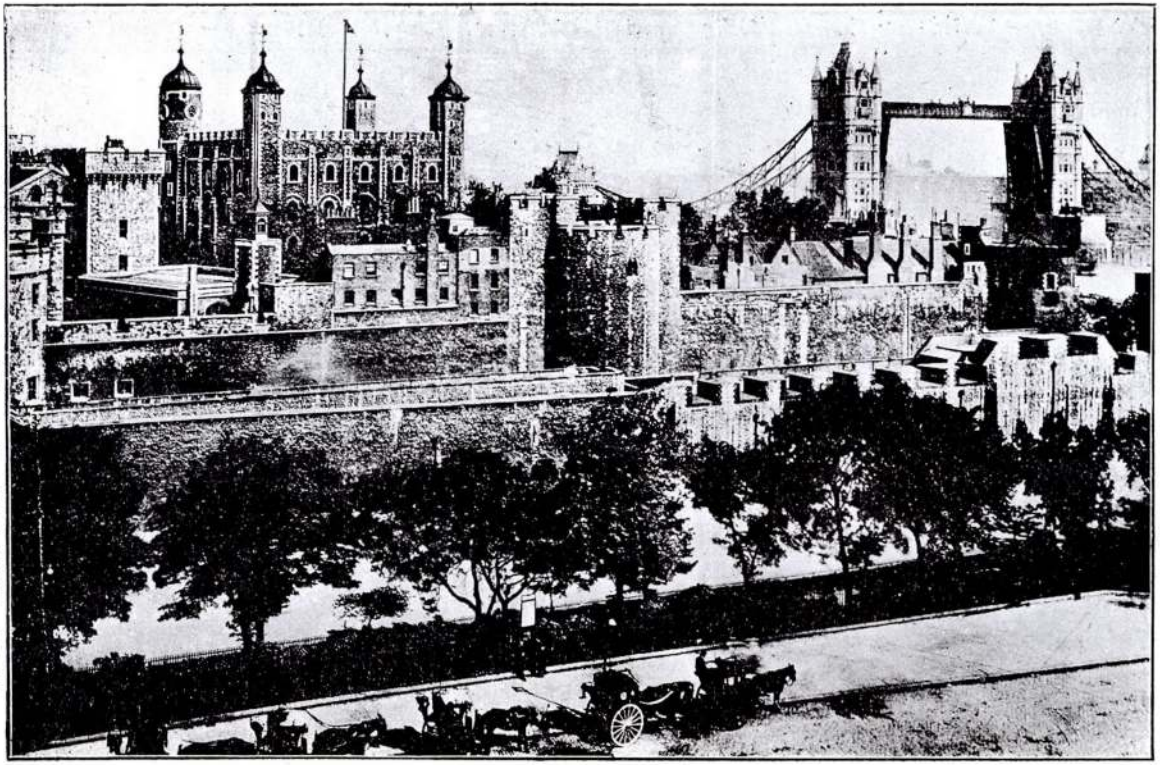
支店　大阪市東區高麗橋筋三丁目
電話本局長一一三八

工場　東京市下谷區竹町
電話下谷　四四〇九



大阪市娯樂地區の隨一たる道頓堀の光景

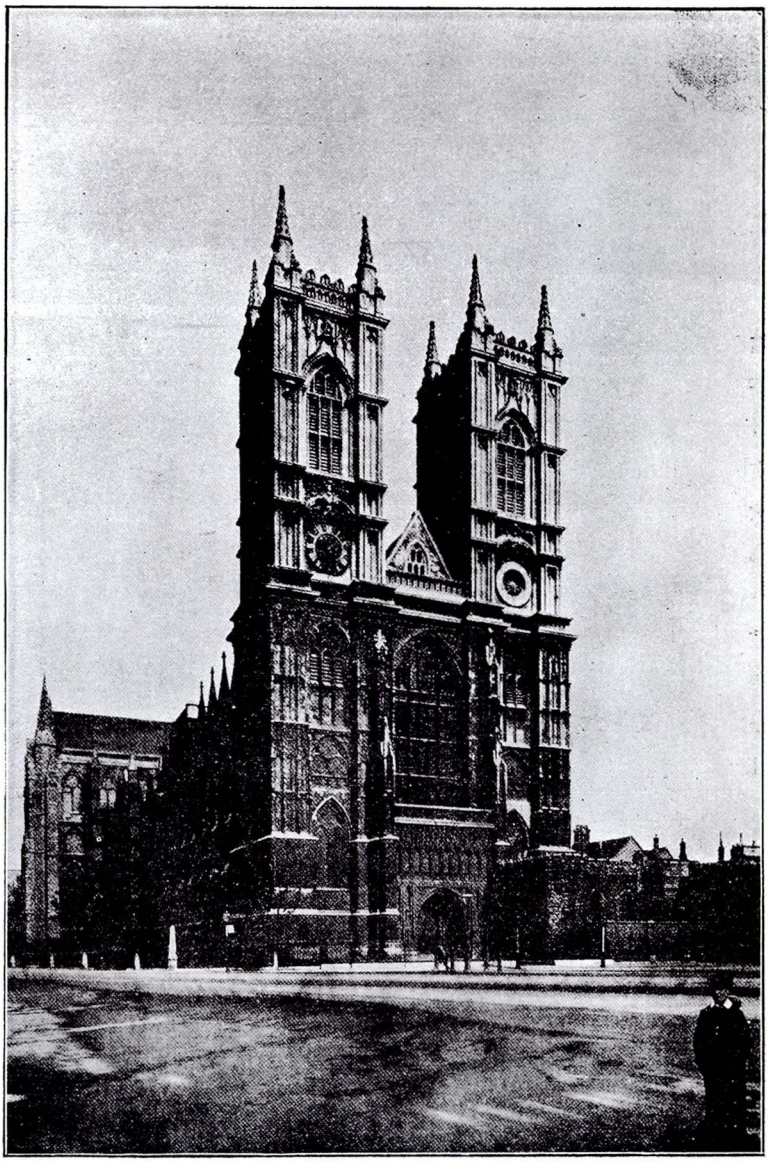
倫敦名所（其一）



二十世紀の倫敦塔と塔橋

ウイリアム征服王が二重の鐵壁と十三塔とを築いて完全な要塞とし、後ヘンリー三世の時に廣大な城郭としたのが倫敦名所の隨一たる倫敦塔である。英國民が過去の悲慘なる血の歴史の一大記念碑たることは今日では誰知らぬものもない筈である

倫敦名所（其二）



ウエストミンスター禮拜堂

一二二〇年ヘンリー三世が大規模に改めた此大伽藍は爾來歷代國王の手に增築改築を試みられ八世紀の久しきに亘つて拮据造營されたものである。されば英國歷世の國王が戴冠式を行ふ勅願寺として又國家に功勞のあつた偉人英雄を奉祀する國民的祭壇として英國の世界に誇るべき古刹である。

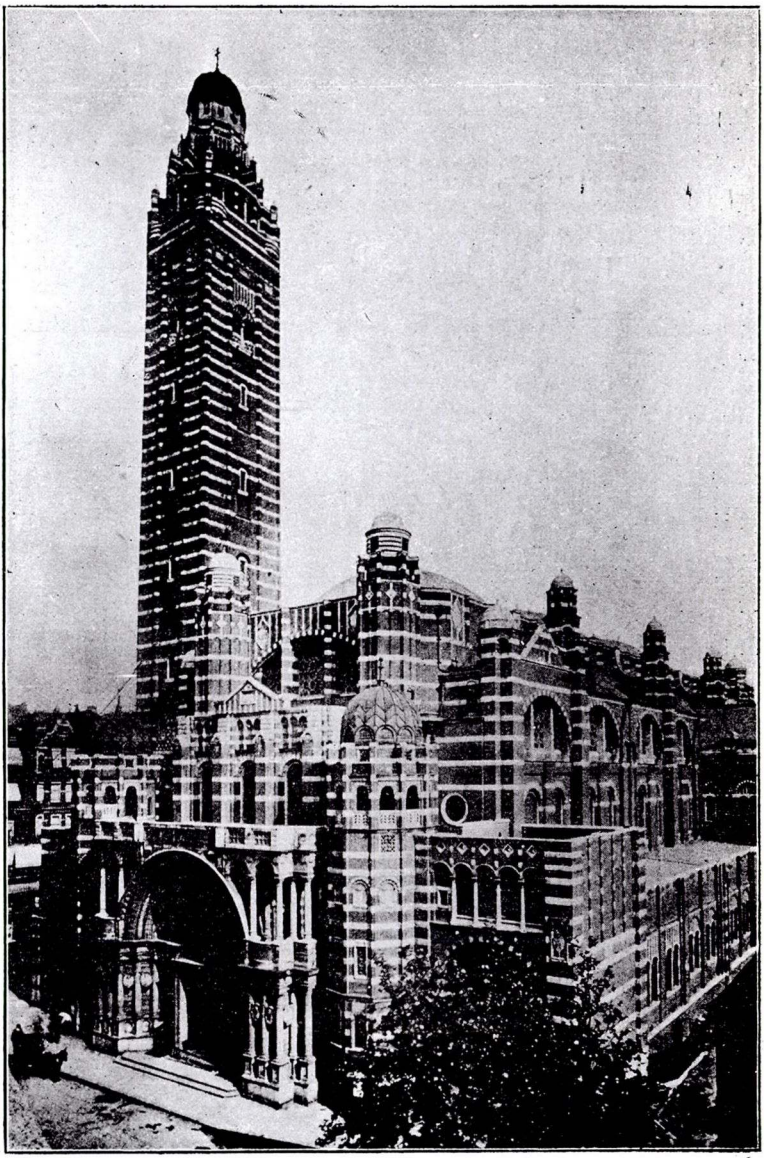
倫敦名所（其二）



セントポール寺院

建築家サークリストファア・レン氏が非常な辛勞苦辭三十五年の長日月の後八十五歳の頽齡を以て一七一〇年に竣工せしめたもの、大倫敦の徽章であり、名譽の神廟として國民の渇仰措く能はざる處である、茲には多く軍事上の勳功を樹てた英雄や著名な畫家の墳墓が安置されてゐる。

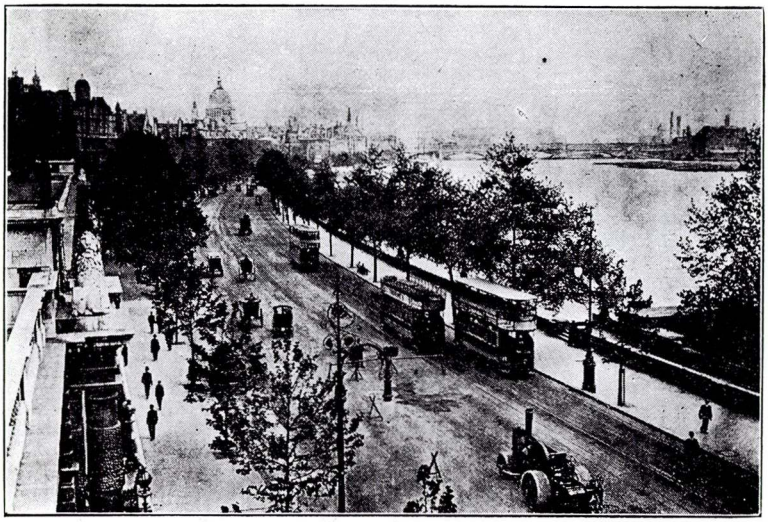
倫敦名所（其四）



ウエストミンスター寺院

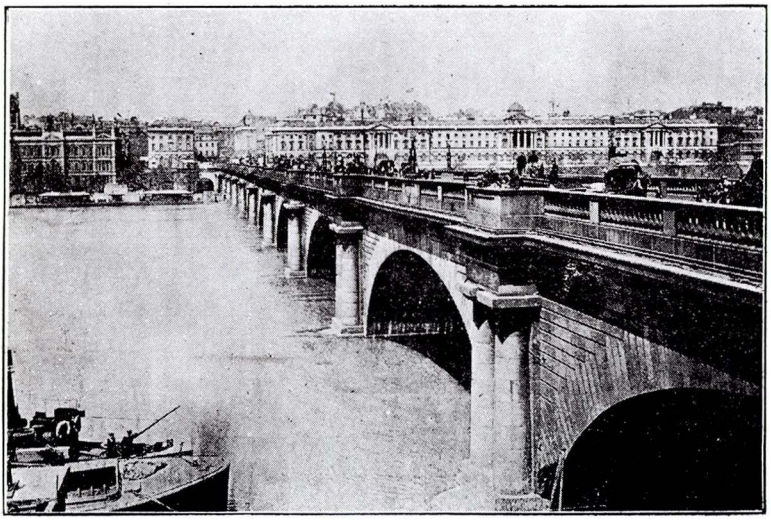
ポートランド石、赤煉瓦とが參考錯綜して組立てられてゐるビザンチン式大寺院であるがベントレー氏の設計に係り一八九五年工を起し一九一三年に竣成してゐる丈に近世的模範建築である。天空に聳えてゐるセント・エドワード塔は高さ二百八十三呎、又混凝土で固めた四個の圓頂蓋は優然と現世を睥睨してゐる。

倫敦名所（其五）



ビクトリアエンバツクメント

倫敦の心臓は「テームス」河である「テームス」河の名所はビクトリア・エンバックメントと倫敦橋にある。前者は河に沿ふて延び、後者は河を横ぎつて架せられ共に倫敦の誇である。



現在の倫敦橋



王立手形交換所と英蘭銀行（左）



ストランド通とアルドウキッチ通
（中央はガイエチー劇場）

王立手形交換所と英蘭銀行は倫敦東部の重要地區に在り、共に世界の金權を左右してゐる建物である。又ストランド通とこれに連絡するフルドウヰッチ街は西部繁街の一地區である。

倫敦名所（其七）



ホルボルンバーの古代建物

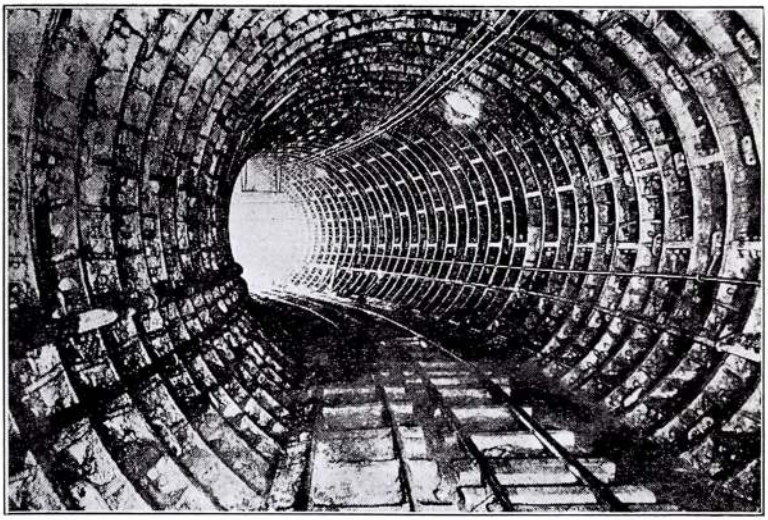
一六六六年の倫敦大火にも焼け残つて今に昔を偲ばせる建物が二十世紀の繁街に其姿を並べてゐる。



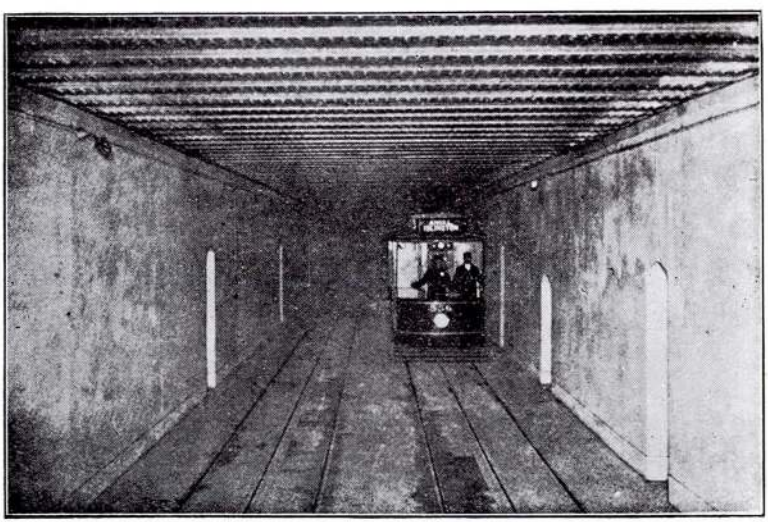
レジエント街の雑沓

レジエント街はオクスフオルド街とピカデリー街とを連絡する繁榮地區である。

倫敦名所（其八）



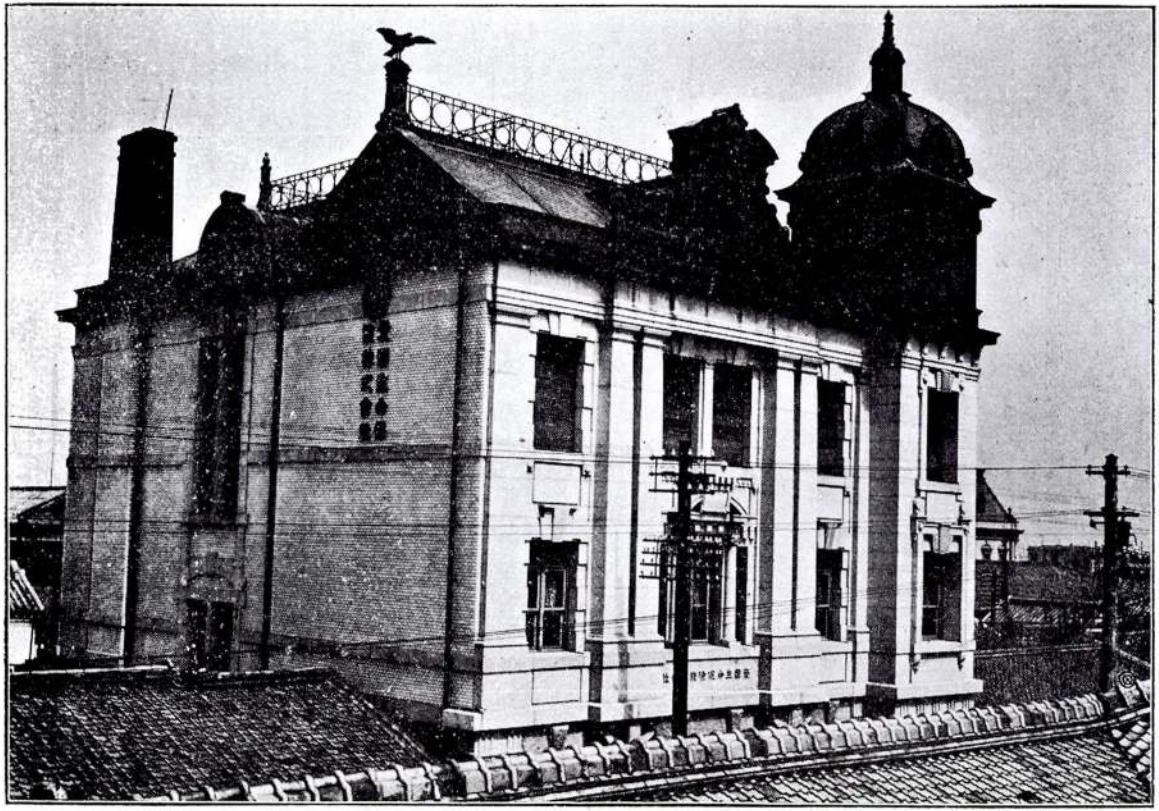
倫敦地下鐵道



倫敦地下電氣鐵道

地下鐵道は一八九〇年頃から不完全ながら架設されたが最近の十ケ年間に鐵管のチューブに改造して四通八達せしめた地下深きは二百尺に達してゐる。電氣鐵道はこれより淺く延長も少ないが市内の重要地點に連絡してゐるので大に便利を與へてゐる。

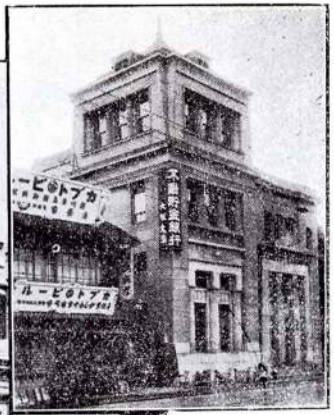
都市建築の今昔（十四）



愛國生命保險株式會社と高麗橋通一丁目の建物、舊館の俤を殘せる）



新裝の不動貯金銀行大阪支店



同心齋橋舊館



救濟事業調査會の設置

凡そ文明國として劃一的の救濟事業を經營せさるはなく、其方法も今や慈惠温情より出發する時代を過ぎて國家的施設と並行するを原則となすに至れり。各種の社會主義は凡て其動機を救濟事業の不徹底に起因するを考ふる時は、斷片的又は慈善的の救濟機關の如きは到底現時の活躍旺盛の民衆を滿足せしむる能はざるは自明の理數なりとす。我國に於ける幼稚なる救濟事業は即かて激烈なる社會主義の勃興を促進せんことを慮る時は、救濟事業の徹底的經營を理想として其計畫を樹て、其實現を一日も早からしめ、以て社會主義者の殺到を防ぐを目下の緊急事とせざるべからず、宜なるかな此次救濟事業調査會の設置さるゝあり、其徹底的計畫の立案を得るも或は近きにあらん歟。唯從來の不熱心なる各種の調査會の如く幾年を經るも其結論を發表し得さる事なきやを恐るゝのみ。吾人は其立案の文明式に徹底せん事を祈ると與に迅速に完結するを切望するものなり。



結核病と住宅改良問題

會員　片岡安

一　總說
二　結核病の大勢
三　都市の結核病と住宅の關係
四　田園都市と結核病
五　住宅改良の要點

一　總說

結核病と住居とは極めて密接なる關係あるは今や一般智識階級のものに知れ渡りたる事柄であつて、敢て事新らしく論議するの要はないけれども、住居の改良と言ふ如き難問題は唯多少の理論や努力によつて直ちに解決出來ないことを考ふると、結核豫防の爲に住居を改良するの必要を漸く感得するに至りたる現時の我智識階級の進歩を慶賀するだけでは何等の目的を達し得ないことを知らねばならぬ。吾人は住宅の改良により結核病者が如何なる程度に減するやの確實なる實例を擧けて

之を敷衍し、我國朝野有識の士をして其事情を徹底的に感得せしめ、社會一般の住宅を改良することの急務なるを悟らしめざれば、我國目下の危險なる結核病蔓延の趨勢を奈何ともすることは出來ないと感ずるものである。もとより結核療養所の設備も漸次に發達するであろふし、箇人衞生の進歩も著しく之を認めらるゝであろふし、其他強制早期診斷により或は血清療法の進歩により、或は又醫化學藥物學の新しき發明によりて結核病の完全治療が非常に容易くなり得る場合を想像すれば、都會密集地の結核病蔓延の危險も、左程將來に悲觀すべきものでないかも知れぬ、けれども斯かる妄想を基礎とする樂觀的態度は現代科學の許さぬ處であるのと、もう一つは結核病以外の急性傳染病たる窒扶斯、虎列拉、赤痢等の退治は矢張り都市の一般的衞生設備の改良に待たねばならぬことである。而して都市の一般的衞生設備の中心たるものは住居であつて、下水系統の完備と家屋排水との關係、家屋内の完全なる汚水處理等は常に住宅改良の眼目とする点である。

住宅改良を唯結核豫防の点のみより提唱するのは多少偏狹の嫌がある、抑も歐米各國の住宅改良の機運は社會政策の徹底せる積極施設より其動機を得たのであつて、結核病退治の爲めに住宅改良が主唱されたのではない。むしろ其結果から見て有効であつた事どもを數へ其中に結核も著しく減少したのに驚いたと言ふ方が本當である。住宅改良を社會改善の意味にて企畫することは大体の立脚點なれども、社會改善なる問題を分解して見れば其最大なる項目は、約まり社會一般の衞生狀態改善に歸着するのであつて、住宅改良が其の具体的施設の中心であることを考ふれば、結局住宅改良は社會の衞生狀態向上殊に都市の結核豫防と窒扶斯赤痢等の傳染病撲滅を其目的とするものであると論斷し得るのである。況して其結果が著しく其目的を達して居ることを歐米各國の事實が証明

するに於ては、吾人が結核豫防の方面より住宅改良を唱ふるは、我國現時の結核蔓延の兆著しき際には必須の努力でなくてはならぬのである。

二　結核病の大勢

我國の結核病が如何なる狀況にあるや又歐米文明國のそれが如何なる程度に豫防されつゝあるやの大勢を知るは最も肝要の事柄である。吾人は不幸にして其精細なる事實を知悉せざるものなれども我國の衛生年表其他各國の醫事雜錄より知り得る貧弱なる統計を基礎として之を大觀するも、其大体に就ての觀察は之を誤らざるを得ると信せしめるのである。何となればあらゆる統計と報告は衛生設備の進歩と共に正しき比例を以て各種の傳染病殊に結核病の退勢を表示するのみならず、家屋改良の徹底するとせざるにより其住民の傳染病感染率に多大の差異あるを實証するが故に、たとへ他に幾何かの理由が存在するとしても、其大勢の曲折を左右するものではない。

都會密集地に於ける結核死亡者は歐米各國にては十九世紀の下半期に於て可なり甚しき狀態となつたのである、之れ一つは社會衛生の設備が箇人衛生の思想と共に貧弱なりしにも依り、又半面には十九世紀末の產業革命の趨勢が急激に都市の發展を來たし人口集中を餘儀なくせしめたからである中古時代より傳來の狹隘なるしかも衛生設備なき都市に人口の集中するとの衛生上危險なるは今日に於ては寔に明白なる事柄なれども、其當時に於ては生理學者以外のものには容易に了解されなかつたのも無理はない。ペッテンコッフェル氏が衛生生理學の立場より率先して獨逸都市の衛生設備改善を唱へし當時は一般社會を動かすには尙ほ薄弱なりしも、其後の衛生統計は着々彼の提唱を

實際に証明したので、今や都市衛生の徹底的施設は文明國としては最大にして最要の努力となつたと言ふも過言ではない。而して其効果の著しきことは二十世紀文明の精華の一として數へらるゝのである。吾人は今茲に各方面の統計材料を列擧して其事情を詳説するの餘白を持たぬけれども、其著しき二三の事實を擧げて置きたい。

一八八〇年前後にては歐米の大都市なるものも、可なり高度の死亡率を示したのである、倫敦の二〇・九（千人に付き）市俄古の二一・五を其優逸なるものとし、巴里の二四・四、伯林の二六・五、紐育の二七・五、ミュンヘンの三〇・四の如きは普通一般の狀態であつた、併るに其後の三十年間に衛生設備の施設改善さるゝと共に、此等の大都市の健康狀態は非常に向上して今や倫敦は死亡率一四・〇以下に下り、市俄古は一四、伯林は一五に下つたのである。唯露國、澳洪國及巴耳幹半島の諸都市か其死亡率尚ほ可なり高きを示すは、彼等の衛生設備未だ不充分なると一般衛生思想の普及程度に起因するものと見ねばならぬ。之を我國の大都市に比較するに、我東京及大阪の如きは最近二十年間に其死亡率二〇以上より漸次低下して近年は一八内外に達したるに過きないことを發見するのである。而して歐米の都市は凡て確實に其健康向上を期待し得るの狀態に達したに拘らず、我國都市のそれは漸く一七乃至一八の死亡率を維持するに止まり、ぞうかすると逆戻りをするの傾向が見へる。之れ全く都市衛生設備の徹底的施設を勵行せぬからである。若し箇人箇人の衛生思想が更に普及し、醫事療養の方法、防疫事務等の整備が行き届くも、唯それだけでは到底我國都市の現時の衛生狀態を十分なる程度に向上せしめることは出來ないものと思はねばならぬ。

更に之を結核病の趨勢に就て見るに、歐米都市の成功は著しきものがある。左表の結核死亡率に

見る如く歐米都市の結核蔓延の兆候は一八八〇年代には可なり甚しきものがあつたけれども、療養法と豫防法の徹底的努力は個人衛生思想の普及と相待つて、遂に甚大の良成績を擧げ今や益々其向上を確實にするに達したのである。

都市名	一八八一年ヨリ一八八五年ニ至ル	一九〇一年ヨリ一九〇五年ニ至ル	一九一二年度（人口一萬に付き肺結核死亡者）
倫敦	二二・二	一六・〇	一三・五
巴里	四四・一	三九・〇	三三・二
伯林	三三・九	二二・六	一六・八
ライプチッヒ	三七・〇	一九・三	一五・九
維那	六八・五	三三・六	二三・七
紐育	三九・八	二一・五	一七・〇
市俄古	一八・〇	一五・二	一四・四
トロント	二〇・三	一七・四	――
ベノスアイレス	二七・〇	一八・二	一六・六
ベルファスト	三八・二	三〇・七	二〇・五
グラスゴー	三一・一	一七・六	一三・一
ダブリン	三四・六	三〇・九	二四・五
エヂンバラ	二一・二	一六・一	一〇・八
ペトログラード	五四・九	三一・二	二八・七
モスコー	四一・一	二六・八	二四・四
ベニス	三〇・六	二〇・〇	二一・六
ミラン	三三・五	二三・二	一六・九
コツペンハーゲン	二七・三	一四・四	一三・七
アムステルダム	二三・八	一四・四	一二・二
メルボルン	二三・三	一三・九	一〇・四

右表によれば世界の各都市は結核病の魔手より急速に其災厄を免れつゝあるを知ることが出來る而して今後彼等の徹底的努力更に進捗する曉には、窒扶斯が今や文明都市に其跡を絶つに至りしと同樣に、核結病も全く其魔手を收むるに至ることを推定せしめるのである。飜て我國都市の結核病蔓延の狀態を見んか、吾人は其一般衛生の不滿足なるよりも、更に更に不快の念慮を禁することが出來ないのである。

都市名	大正三年度結核死亡者（人口一萬ニ付）	明治四十三年度同上
東京	三五・四八	三六・〇六
大阪	二五・一八	三〇・九四
京都	三七・一八	四四・九七
名古屋	二三・一四	二八・二四
神戸	二九・七〇	三五・〇九
横濱	二七・三八	三〇・七一

右表によれば我國の六大都市に於ける結核病蔓延の狀態は歐米都市の二十年前のそれにも劣るのであつて、彼等の中に就て最も成績あしきモスコー、ペトログラード、ダブリン、維那及巴里に比肩するのである。若しそれ我國都市中結核病蔓延の甚しきものを列擧せんか、恐らく世界中之に及ぶものはないであろふ。

都市名	大正三年度結核死亡者人口一萬ニ付	（人口）	都市名	大正三年度結核死亡者人口一萬ニ付	（人口）
札幌（區）	三七・三一	（九六、九四四）	金澤	三四・四六	（三九、八四四）
東京	三五・四八	（二、〇五〇、一三六）	福井	三四・二六	（五六、二一八）
函館（區）	三五・二〇	（九九、七九五）	京都	三二・一八	（五〇九、三八〇）

豊橋	三二・八	(五四・六三)	鹿兒島	三〇・二六	(七五・九〇七)
熊本	三二・一〇	(六八・二六七)	新潟	二九・蓋	(六六・六三)
靜岡	三〇・三二	(六四・一〇八)	神戸	二九・七〇	(四四三・二六七)

以上列記の各都市は最近結核病蔓延の豫防に付き相當努力をなした結果、漸く以上の數字に達したのであるけれども、今後如何にして其蔓延を豫防する徹底的方策を立つるかは、都市それ自身に又國家の發展上に最も重大なる問題である。尙以上の外人口五萬以上の都市にして結核死亡率二〇以下（大正三年度人口一萬に付き）の都市は僅かに佐世保（一三・七八）福岡（一三・八一）横須賀（一九・六四）の三市あるのみで、其他の大阪、堺、横濱、長崎、宇都宮、名古屋、甲府、岐阜、仙臺、富山、岡山、廣島、下關、和歌山、德島、吳、門司、那覇、小樽、の諸都市（區）は何れも、其人口一萬に對する結核死亡者二十人以上三十人に近きものである。吾人は我國都市が殆んど凡て結核病の爲めに甚だしく惱されつゝあるを知る時に、何となしに一種悲哀の感に打たれざるを得ない。

三　都市の結核と其住宅の關係

結核は都會病である。而して都會に於て其密集地帶に最も多く蔓延すること他の傳染病と異るなきも、其傳染の初期に於て感知することが出來ない爲めに、其蔓延を甚しくするのである。故に之を豫防する手段は最も緻密細心でなければならぬのであるが、又一方に於て生活の時間を最も多く費す各箇人の住居をして其採光、通氣、排除等に完備を期し、常に身心を爽快ならしめ、自然に体質の抵抗力を增進せしめ置くことが、あらゆる豫防行爲の基礎であることは、生理上一點の疑なき

處であり、又實際統計の明示するところである。即ち箇人の細心なる豫防行爲も其根本に於て採光通風の十分にして排除其他の清潔法の行届きたる生活狀態が之を支ふるにあらざれば、其効果を擧くることは出來ないのである。住居改良の必要なる所以は即ちそれを意味する。

英吉利の如く商工業を以て立國の方針となし來りし國にては、都市集中傾向が世界中最も甚しかりしは當然であつて、敢て怪しむに足らぬけれども、今後世界の經濟上の競爭益激甚となると共に各國の都市が凡て其傾向を益々甚だしく促進するは今日にては最早一點の疑を存せざるようになつて來たのである。我國の都市も近時漸く其傾向を明かにし、將來の發展と其膨脹は約を推定するに難からぬのである。東京の人口が三百萬となり、大阪のそれが貳百五十萬となり、京都が八十萬、名古屋、神戸、横濱がそれ〳〵八十萬の人口を算するに至るは恐らく今後二三十年を出でざるべく廣島、長崎、吳、金澤はそれ〳〵人口二十萬級の都市となり、佐世保、福岡、札幌、小樽、函館、横須賀は又それ〳〵人口十五萬級の都市となるも、或は今後三十年を出でざるべきは、吾人の推理的に打算し得るところである。

都市の膨脹と其人口集中より生ずる各種の難問題は、所謂『都市計畫』なる現代の一大畫策に依つて之を處理するより外に途はないのであるが、其半面に常に陰影を投する最大なるものを都市の衛生問題とする。而して其衛生問題の中に就て結核病豫防は最も急迫せる事柄であつて、我國都市が殊に大なる努力を要するは、前陳の我國都市の結核病狀態と今後の都市膨脹との傾向より十分に之を了解すべきである。

都市膨脹より生ずる難問題の中に就て、適當なる住宅を得ることの困難即ち『住居飢饉』は可な

り重大なる問題となつて來るのである。住宅問題は即ちそれである。歐米各國に於ては住宅問題は十九世紀の末つ方より都市膨脹に連れて喧しくなつて來たのであつて、英國の如きは遂に一八八四年に彼の有名なる住宅問題調査會を設け當時の大政治家チャーレス、ヂルク卿其會長となり、故エドワード七世陛下尚皇儲にあられし時其委員の一人となり、朝野の名士を糾合して其研究をなしたのである。一八九〇年に發布されたる勞働階級住宅法は即ち其結果と言つても可いのである。英國に於ては早くより住居改良の爲めに各種の慈惠的團体が組織され、都市の勞働階級に衛生上利便多き住居を供給することは、可なり廣く行はれたのであるけれでも、斯かる手緩き手段にては漸次急迫を告げんとする都市の住宅問題を解決することは到底出來ないのであつた、之れ英國政府が住宅法を發布して各都市をして強制的に又指導的に住宅を公營せしめた所以である。

英國の各都市は住宅法發布以來極力其經營を開始し、所謂貧民窟の一掃、部落改築を斷行し、衛生上合理的の清潔堅牢なる長屋を逐次新築して來たことは、歐米各國中に異彩を放つて居るのである。英國に於ては社會政策の一問題として之を取扱つたのであるが、其政策の根底には都市に密集する職工階級の健康を增進しその結核病を豫防せんとの深き考慮を有して居たことは爭ふべからざる事實である。英國第六十五統計年鑑には同國の農民結核死亡率と各種職工のそれとの間には非常の差異あるを報告して居るところを見れば、英國の政治家が職工階級の家屋改良により其危機を救はんとしたのは、最も賢明なる手段であつたことを承認せねばならぬ。

農民の結核死亡率	一〇〇	美術職工	一五六
大工建具職工	一五〇	鐵工	一五八

毛糸職工	一五九	印刷職工	三〇〇	
麵麭燒	一六五	毛皮職工	三一六	
煉瓦職工	一九四	刷毛職工	三二六	
綿糸職工	一九七	小賣店番人	三八七	
裁縫師	二四八	鑢職工	三八七	金屬粉末を呼吸するもの
帽子職工	二八〇	銅職工	五七四	
煙突掃除人夫	二八四	錫職工	八一六	

右表の示す如く從來英國都市の職工階級には結核病が如何にも甚しく蔓延して居つたのであつて工業を生命とする英國都市などにては其豫防の徹底的方策を講じたのは當然であるかも知れぬが、現時の我國都市下級民の間には或は英國の其當時の如き結核病蔓延の事實なきやを考ふる毎に、吾人は其研究の一刻も忽に出來ないことを感ぜざるを得ないのである。不幸にして我國の都市は英國の如きセンサスなく、急迫せる貧民窟住民或は一般職工階級のものゝ結核死亡率を知るに由なき爲めに、彼等の住居狀態が如何なる程度に結核病の罹疫を助長しつゝあるやの數字を知ることは出來ないけれども、大阪其他の大都市の巡回治療醫の斷片的報告を見るも、其狀況は可なり悲慘のものと推測し得るのである。

第二章に於て歐米各國の都市が最近三十年間に著しく結核病擊退に成効しつゝ來りし事を示したのであるが、今茲に其實際的の一例として倫敦市の住宅法實施の効果に就ての一報告を記述すれば。

一結核死亡者及麻疹死亡者は三分の一に減じ、喘息死亡者及一般急性傳染病死亡者は二分の一と

なり、殊にチブスは全滅して其跡を絶てり。

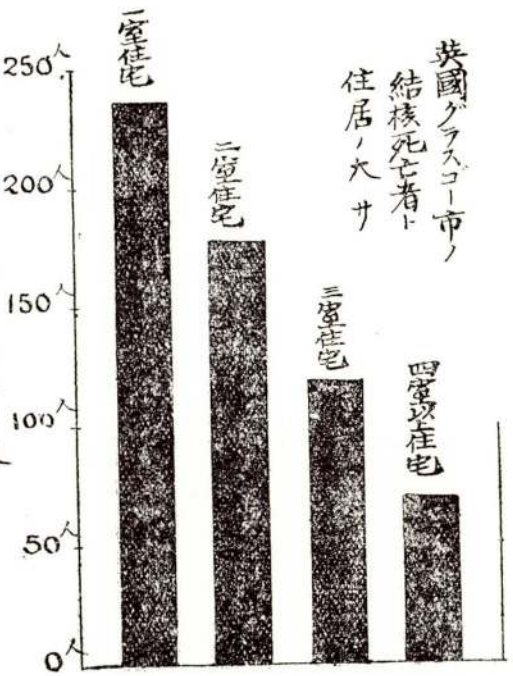
一模範住宅を新設した部落にては、其改築以前の時死亡率千人に付き四〇なりしものも、激減して一三即ち其三分の一となれり。

（英國國民住宅改良會報告…一九〇七年…の一節）

住宅改良は獨り英國の輿論のみではなく、各國共に其必要を唱へ、或は國法により或は行政處分により、それ〳〵可なり之に努力しつゝあるのは事實である。

大工場主が其專屬の住宅經營によりて、職工の健康狀態を向上しつゝあるは、近代の美談として盛んに稱揚されて居るのである。

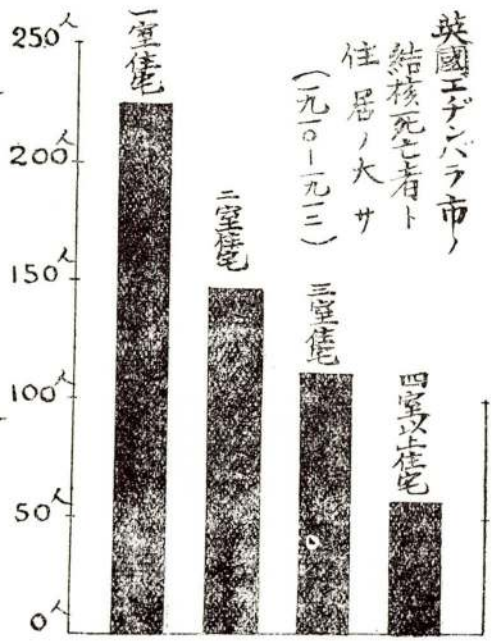
挿圖に示すは英國スコツトランド衛生局の發表せる住居狀態と結核死亡率の圖解にして、狹隘なる家屋生活の悲慘なる健康狀態を十分に說明して餘りあるものである。



四　田園都市と結核病

田園都市の理想は都市の密集生活より生ずるあらゆる風紀の弊害や健康上の危險より市民を救はんとするにあるは言ふまでもない。歐米に於ける此の提案は今より約三十年前英人ハワード氏とゼンチット氏により唱へられ、慈善心深き大工場主たるカドバレー氏やリバー氏の贊同により、大に輿論を喚起したのである。而して其實現は一九〇二年の第一田園都市株式會社創立を初めとし、リバー氏經營のポート、サンライト町やカドバレー氏經營のボルンビル町に於て其成績を示し、倫敦の郊外に於けるハムステッド田園町信託會社の經營の如きも近來着々其事業を進めつゝあると言ふことである。其他有名なる獨逸エッセン市郊外のクルップ製作所の職工町が世界に比類なき大規模の田園都市の一例であることや、米國のプルマン車輛會社の專屬職工住宅經營の成效せることは、凡て近代の田園都市論歌の理由となるものである

田園都市に於ける住宅經營の理想とするところは、家屋の一區劃をなるべく餘裕ある廣さに定め、家屋の周圍より十分なる日光と空風を採り、街路、庭園の廣濶なる空地と空間



には綠叢花壇並樹等を配置して、なるべく天然の景色に接近せしめ、街路の築造、下水の設備、上水の配給等も凡て一組織の下に之を經營して、家屋内外の秩序と清潔を統一的に徹底實行せしめるのである。一宅地の敷地は英國の田園都市には一エーカー（千二百二十四坪）の六分の一乃至八分の一を最小限度として居る（二百坪乃至百五十坪）、又住宅其ものは極めて簡易質朴を主義とし、階下には談話室と食事室及臺處を取り階上は二三ケの寢室を配置する、其工費の如きも一軒に付き二千圓内外のものを主とし、餘り多くの種類を許さぬのである。斯かる住宅の住ひ心地のよきは殆んど其說明のみを聞くも之を首肯し得るのである、況して其經營には資本家の博愛心と、社會改良論者の熱心と、更に堪能なる技術家の後援あるに於ては、住民の幸福は恐らく想像以上のものあるべく、其結果として彼等の健康を增進し、風紀を向上するは疑ふ餘地がないのである。

英國其他各地に於ける田園都市の健康狀態は一般に好良にして其死亡率の小なるは驚くべきものがあると言はれて居る、殊に結核死亡者の少數なるは著しき特徵にしてレッチウオース田園都市の如きは一九〇七年の統計によれば人口一萬に付き五人であつた之を倫敦の一三人餘エヂンバラの一〇人餘に比するも半數にも充たず、我國の首都東京の三五人餘に比すれば正さに其七分の一にしか當つて居ないのである。以て田園都市が如何に結核豫防に成効しつゝあるやを知ることが出來る。

五　住宅改良の要點

住宅改良により都市民の結核病蔓延を防ぎ、其都市の健康狀態を漸次向上せしめ得るものとすれ

ば、尋で起る問題は其改良の方針及其要點を如何にすべきやと言ふ、現實の研究事項に移るのである。歐米の各都市に於ける實例は直ちに採て之を我國に應用することの出來ないのは明白なる事柄であるけれども、又多少の參考となるべきものと思ふのである。歐米各國の田園都市に於ける結核病の少きは正さに其家屋が日光通氣共に十分なる爲めであると見るを至當とする。乍併日光通氣共に十分なる家屋を設計することは必ずしも田園都市ならずとも、出來得ないことはない、殊に都市の外廓地帶にては其衛生狀態に於て田園都市の住宅のそれと何等劣らぬものを造り得るのである。近時或る論者は我國の明け放し流の家屋は結核豫防上非常に有効なれども椽側に硝子障子を建て廻はしたり、或は純西洋流の密閉式の室の流行に連れて、結核患者の增加するは眞に憂ふべき狀態であると言ふを聞く。此等は一面に於て多少の眞理を言ひ現はすものなれども、強ち之を以て家屋改良の要點と見做すべきものではない。若し論者の意見を正當とすれば、西洋各國の都市は漸次結核の蔓延を來す筈なれども、事實はそうではないのである。唯通氣が多ければ多い程利益あると如く考へるのは、恰かも營養を取らん爲めに甚しき多食をなすと同樣であつて、其思想の根底に誤りがあると言ふを憚らぬ。大体人間の身体にはそれ程多量の酸素を必要とするのではない、其呼吸する空氣が清鮮にして多くの細菌や黴菌を含まぬものでありさへすればそれで十分である。其目的を達するには、各室のあらゆる部分に光線の十分透達すること、掃除其他の清潔法が容易く行屆き得ることが最大重要の事柄である。唯無暗夜に通風を十分にすればとて、押入の多い暗き部屋などでは所詮其室を健康に適すると言ふ譯にはゆかない。一般に手廣き家屋は兎角暗き室を生じ易く又室の部分にも暗き面積を生じ易いのである、況して木造建築にては庇の突出大なる爲め日光の直射少く

全体に於て薄暗い様な間接光線に支配さるゝ處が多いのである。故に大厦高樓必ずしも衛生上適當のものと言ふを得ない、小屋なりとも健康上には適切のものもあり得る筈である。要は各室を平均に明るくして掃除清潔法の徹底的に實行し得らるゝようにすることを最大目的とせねばならぬ。

而して家屋の內外の關係及構造物と地盤との關係は其排泄物處理上最も重大なる問題なれども、我國の從來の家屋は其點には殆んど無關心であつた。此等は衛生上最も注意すべき事項であつて、臺處、便所、洗面所、湯殿等の清潔を保つには絶對的必要のことに屬する。乍併公共下水、給水事業等が一般に普及せざる時には此等の設備も十分に徹底せしめることは出來ないのである。我國の都市にては帝都その他の大都市と雖も半ば不滿足の狀態にして之を實行して居ない、況して地方の都市にては其不充分なることは想像に難からぬのである。

上述の如く住宅改良の要點は、日光と通氣を十分にすると同時に排水、給水を完全になすを以て足れりとする、けれども、更に其根本を考ふるに住宅改良は其徹底的の清潔法にあると言ひ得るのである。而して清潔法の實行は唯常識的に肉眼のみにて滿足することは出來ないのであつて、衛生生理學の教ふる程度にまで之を徹底せしむるよう努めねばならぬのである。若し此等の原理を適用するものとすれば、我國の家屋も所詮從來の如く木材と泥壁を組合せたる構造物に甘んじて居ることが出來ないのではないかと思はしめる。堅實なる基礎と床を有し、水運法によりて凡ての排除を完全にせざれば眞實の清潔法を實行し得ざるは賭易き道理にして、此の方面のみより觀察しても我國の家屋大革命の時期は已に到着して居るのである。（畢）



最近の大阪港 (二)

大阪市役所港灣部

第四　築港出入船舶の趨勢

歐洲戰亂勃發以來船舶の不足、外國船舶の寄港減少等により、各何れも出入船舶の激減を示せるに際し、獨り大阪港のみ比年遞增して止まず、近く臨港鐵道の敷設、船渠の築造、其他水陸の設備にして完成せば、船舶の出入蓋本邦諸港に冠たるに至るべし。

今最近五箇年間に於ける築港入港船舶のみに就て見るに、大正元年に於ける入港船舶は各種船舶を合せて五千九百餘隻百五十四萬餘噸なりしが、同二年には一躍して八千四百餘隻二百三萬餘噸となり、更に同三年には八千餘隻二百四十萬餘噸に達し、同四年には九千五百餘隻二百六十七噸餘、同五年には九千五百餘隻二百四十一萬餘噸に及びたるが如き、歐洲戰亂に因る船腹不足の影響を受くるも猶增加の趨勢あるを窺ふに足るべく、此大增加は主として汽船殊に大型汽船の增加に因るものにして、其他解船の格段なる增加を示すは、神戸經由大阪出入貨物の從來河川沿岸に陸揚げせられたるものが次第に築港埠頭に陸揚げせらるゝに至りたるが爲めなり。

殊に近時船型增大の傾項著るしく、安治川の如き規模狹小にして設備不完全なる河港にありては、其大勢に應ずる能はざるを以て、今後大阪に於ける入港船舶は築港に集注するに至るな

るべし。

大阪入港船舶五ヶ年對照表

	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
汽船	隻數	九、七二六	九、四九五	九、八九九	一〇、四六一	一〇、六〇九
	噸數	三、二五四、一四六	三、六〇三、〇四四	四、〇四四、〇八四	四、二六〇、六五四	四、〇八二、七五九
洋型帆船	隻數	一四、五二九	一六、〇五三	一七、二五七	二一、〇二八	二三、六〇一
	噸數	一〇五、八八一	一一三、五〇七	一二〇、六八〇	一五九、三六一	一三〇、二九六
和型帆船	隻數	一四一、五二六	三七、九八八	二九、七八八	三三、一〇四	二五、六五五
	石數	五〇三、六八三	四、五〇七、〇三三	四、三〇、六四九	三、七二、六九五	三、九七三
艀船	隻數	五六、三四三	五二、六二五	五四、六〇五	六〇、三七四	六九、八一九
計	隻數	二三、一四	二六、一六〇	二一、四九	二五、〇六七	二九、六八四
	換算噸數	五九、六五五、五五五	六、三四、七五四	六、四六、八三一	八、八三、六三九	七、〇七九、七七三

備一　噸數は登簿噸を石數船は十噸を一噸に艀船は一隻を二十噸に換算計上せり（以下同じ）

築港入港船舶五ヶ年對照表

	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年
汽船	隻數	一、七一六	一、八一六	二、〇二三	二、八六〇	二、七六九
	噸數	一、四三、三七三	一、八四九、四五三	二、二五五、四三二	二、五〇五、八八一	二、三七、九四三

安治川入港船舶五ヶ年對照表

	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年
汽船	隻數	七、八二〇	七、六七九	七、七七七	七、六〇一	七、五四〇
	噸數	二、八一六、五二三	二、三五二、五九二	二、七八八、六〇五	二、七四四、八一六	二、八四〇、〇五
洋型帆船	隻數	七、九二四	八、四五四	九、六七三	一三、一四〇	一四、〇九四
	噸數	六八、八二四	六四七、九六五	六〇六、八八七	六七四、六五八	八〇八、七九八
和型帆船	隻數	一、五四〇	一〇、四一四	七、〇一四	六、七六一	八、一九九
	石數	一四四七四三六	一、二九一、七三〇	八九三、八八〇	八四五、七九〇	一、〇三四、五一〇
艀船	隻數	二五、一二〇	二八、六〇七	二九、〇九一	三七、三〇八	四一、〇九七
計	隻數	五二、四八五	五五、一五四	五六、一五五	六四、八一〇	七一、二三〇
	換算噸數	三、〇八三、八二一	三、一〇一、九七三	三、一〇六、七〇三	三、二八〇、一六三	三、五七八、〇〇五

木津川入津舩舶五ケ年對照表

	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年
汽船	艘數	一五〇	―	―	―	―
	噸數	一五、二五〇	―	―	―	―
洋型帆船	艘數	五、七九〇	六、四一三	六、一六九	五、八二五	六、一三八
	噸數	三七一、四六九	四〇二、五七〇	三九五、五六一	三五四、四〇七	三七五、四七〇
和型帆船	艘數	一七、〇九三	一四、七五五	一〇、八九二	六、三一四	六、七三七
	石數	二七、七一九、八	一、八九九、八二〇	一、三八五、四三〇	八〇六、九四〇	八六〇、六七二
解船艘數		一一、三一九	七、〇四七	八、一九三	六、一四八	九、三五二
計	艘數	三四、二五二	二八、二三五	二五、二四四	一八、二六七	三一、三六八
	換算噸數	八四〇、八一七	七三三、〇九三	六九七、七二五	五五八、〇六一	六四八、五五七

尻無川入津舩舶五ケ年對照

	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年
汽船	艘數	―	―	―	―	―
	噸數	―	―	―	―	―
洋型帆船	艘數	二三〇	四四三	九六一	一、五二六	二、六九八
	噸數	六、六三四	一〇、八〇八	二四、五六六	三八、九四三	六三、六九九
和型帆船	艘數	二三、三八四	二三、三四三	二一、四九〇	九、六二一	一〇、四〇〇
	石數	一一、三三四、〇一〇	一〇、九六〇、六六〇	一〇、〇三一、八二〇	一、〇二七、七九〇	

更に出入舩舶の從事航路に就て見るに、大阪港は現在に於て水陸の施設尙完備せざるものあるを以て、歐米航路舩の定期寄港するもの比較的少きも、內地沿岸朝鮮及北支那航路の各定期舩は殆ど大阪を起點とし、浦鹽航路の如きは戰亂の結果軍需品輸送の爲め新に開始せられたるものに係り、其他孟買線上海線等定期線の臨時寄港するもの亦少からず、殊に原料品を搭載せる不定期貨物舩に至りては、歐米濠洲等の原產地より當港に直舩し來るもの頗る多し。

現在當港に於ける定期航路の主なるもの左の如し

大阪港定期航路

外路

線名	起點會社名	從事舩數	一月入港延噸數	一ヶ月延登簿噸數
神戶大阪上海線	築港日本郵舩會社	二	一六、三六	九、九二〇
神戶北支那線	同 同	四	一三、八二〇	八、二一〇
大阪天津線	同 同	二	一、九二八	一、七四

內航

線名	起點	會社名	從事船數	一月入港度數	一ケ月延總噸數	一ケ月延登簿噸數
神戸小樽線	築港	日本郵船會社	四	六	三、八七四	八、七二七
横濱泰澤線	同	同	四	四	七、九八七	四、八八八
大阪基隆線	同	大阪商船會社	二	三	二、八八六	一、七〇三
大阪沖繩線	同	同	三	三	六、三三六	三、七〇三
大阪別府線	同	同	一	六	七、七五六	四、四八八
同	安治川	尼崎汽船部	二	一四	二、五七〇	一、四九八
横濱沖繩線	築港	大阪商船會社	一	二	二、四二六	一、六七〇
東廻大阪鹿兒島線	安治川	同	三	一五	一二、九九五	六、六五八
山陽經過大阪別府線	同	同	一	七	二、六八九	一、五五四
大阪山陽線	同	同	五	三〇	一六、八三〇	九、七四
大阪四國線	安治川	大阪商船會社	六	三〇	一五、六五五	九、二一〇
大阪大川線	同	同	一	三	一、三二七	八九七
同	同	大川運輸會社	一	三	一、六八九	一、〇三八
同	同	大阪商船會社	四	一四	四、八七八	二、八四四
同	同	日本郵船會社	一	二	五、六九八	三、〇三二
同	同	大阪商船會社	二	二	四、九六四	三、〇四四
同	同	原田汽船會社	一	二	三、七一〇	二、三五〇
同	同	日本郵船會社	一	一又八二	三、七二六	二、三六二
同	同	大阪商船會社	六	三	一六、九六八	一〇、四九
同	同	同	三	八	二七、七六二	一七、〇八二
同	同	三上合資會社	二	四	六、三六六	三、五七二
同	同	大阪商船會社	一	一又八二	二、八四八	一、九八九
同	同	同	四	一二	一四、六〇四	六、三二八
同	同	尼崎汽船部	四	一〇	一三、三八五	八、四二一
同	同	同	四	六	四、四八二	二、七〇四
大阪内海線	同	大阪商船會社	三	三〇	二一、二四五	一三、三一〇
大阪田邊線	同	同	二	三〇	六、〇一〇	二、五八〇
大阪勝浦急行線	同	同	二	三〇	三一、一九〇	七、三三〇
大阪名古屋線	同	同	五	三〇	二一、七一八	六、九二〇
大阪德島線	同	同	三	六〇	八、五八〇	三、一六〇
大阪山陰線	同	同	三	一〇	五、八〇六	三、四九三
大阪岡山線	同	尼崎汽船部	四	一七	三、〇一九	一、六一五
大阪下關線	同	同	二	一五	四、〇八〇	二、四四五
大阪中國線	同	同	五	六〇	二四、二〇〇	一〇、五六
大阪九州線	同	同	七	一二	五、七一八	三、五六四
大阪高松線	同	摩津商船會社	二	三〇	五、六七〇	三、四〇五
大阪由良線	築港	同	二	六〇	一三、五九〇	七、二九〇
同	安治川	同	一	三〇	三、八四〇	二、一五〇
大阪甲浦線	同	同	三	三〇	五、九〇〇	三、四七〇
大阪四阪島線	同	住友汽船部	一	二五	四、二六〇	二、一三〇

第五　築港集散貨物の消長

大阪港に於ける出入貨物も、大体に於て、出入船舶の増加と比例し、大正元年に於ては出貨二百二十六萬餘噸四億一千四百餘萬圓入貨五百八十七萬餘噸三億六千餘萬圓なりしが、同五年に至りて出貨二百五十六萬餘噸五億七千四百餘萬圓入貨六百一萬餘噸五億餘萬圓に達したるが如き、累年増加の傾向あり。殊に別表に示すが如く築港設備の進捗に伴ひ、從來神戸港を經由

したる貨物にして、直接大阪港に於て本船に積卸せらるゝもの漸次增加するに至れり。

今安治、木津、尻無三川の出入貨物に就ては姑く措き、築港のみの最近に於ける出入貨物に就て見るに、大正元年は出貨三十九萬六千噸入貨百十一萬九千噸なりしが、同二年には出貨五十三萬六千噸百二十四萬九千噸に增加し、同三年は出貨四十五萬四千噸入貨百二十五萬七千噸となり、更に同四年は出貨五十六萬二千噸入貨物は約二割三分の增加を示したるが如き、多少時局の影響に因るものなきにあらずと雖主として自然的發達の然らしむるものにして、如斯急激なる增進は本邦諸港中其比を見ざる所なり。

大阪港海運集散貨物貿易別五ヶ年對照表

		大正元年		同二年		同三年		同四年		同五年	
		噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額
內地	出貨	一、六〇五、六八〇噸	二四五、二九〇千圓	一、五九三、一〇一噸	二四八、一七五千圓	一、四四六、六九九噸	二九、五二〇千圓	一、四九七、八七五噸	三〇、四四二千圓	一、六二四、九二六噸	二九〇、三九九千圓
	入貨	四、六四八、一三〇	二〇一、七七八	四、六五八、六三三	二〇〇、二五四	四、一九六、一九一	一〇〇、〇一三	四、一〇〇、四三五	二三七、九二三	四、七六、五一二	二七九、三五〇
	計	六、二五四、〇一八	四四七、〇七七	六、二五一、七三四	四四八、四二九	五、六四二、八九〇	四二九、五三三	五、六三八、二九〇	四六八、四二五	六、三四一、四三七	五六九、七五〇
朝鮮	出貨	一四二、六五三	二五、二一九	一五七、八〇二	二一、六八九	一四五、七七五	三一、九二七	一〇九、〇二四	二一、一二五	一一〇、六二八	二四、三二九
	入貨	二一七、三五五	一一、八八四	二三九、二八九	一四、一二五	二〇四、四一二	三〇五、九三三	三二三、七四四	三三、七四四	二四九、四〇三	二一、六四九
	計	二六〇、〇〇八	三七、一〇三	三九七、〇九一	三五、八一四	三五〇、一八六	四一、七二八	四一四、九四六	四四、八二九	三五九、八八六	四五、九二九
外國	出貨	五一五、二九一	一四三、七六五	六三三、三六三	七一、七七四	五七一、〇六一	一六一、三一〇	七二五、三七一	一九一、四〇三	八三五、四六〇	二六〇、〇七七
	入貨	一、〇五七、六一五	一四六、四五三	一、一三〇、一八一	一四五、八〇三	一、一〇五、四五八	二一四、三二九	八九六、四〇五	一五三、一〇〇	一、〇三八、四三一	一九九、一二七
	計	一、五七二、九〇六	二九〇、二五七	一、七四二、二五四	三一七、五七七	一、六七六、五一九	二八九、二三九	一、六二一、七七六	三四四、一〇三	一、八七三、八九一	四五九、一二七

合計	出貨	二、三六三、六三三	四一四、二七五	二、三七三、二六九	四四一、六三八	二、一六三、三五五	四〇三、六七	二、三三二、二七〇	四三三、〇六〇	二、五六一、〇二四	五七四、八一七
計	入貨	五、八七三、三〇〇	三六〇、一七四	五、九一八、一〇三	三六〇、一八三	五、九〇六、〇六〇	七四六、八五〇	五、九〇六、〇六〇	四一四、八〇八	六、〇一四、三四五	五〇〇、二七
	入貨	八、一三六、九三三	七七四、四五〇	八、二九一、二六八	八〇一、八二〇	七、六六九、九五九	七四六、八五〇	七、六七五、〇一三	八五七、八六九	八、五七五、三六一	一、〇七四、九四四

備考　噸數は容積四十立方尺を一噸とし重量品のみ千五百斤噸を用ふ。價額は當時の市價に基き算出したり（以下同じ）

大阪築港及河川出入貨物
五ヶ年對照表（單位噸）

		大正元年	同　二年	同　三年	同　四年	同　五年
築港	出貨	三九六、七五一	五三六、五六	四五四、〇四五	五六二、七一四	六〇一、〇三三
	入貨	一、一九三、五九九	一、三四九、三六一	一、三五七、三三八	一、三五〇、七四七	一、三五三、九一八
	計	一、五九〇、三五三	一、七八五、九一七	一、七七一、七八三	一、九一三、四六一	一、九五四、九四一
安治川	出貨	一、四三四、六五三	一、四六七、九九三	一、三三九、〇九八	一、三八二、五三三	一、四〇〇、八五一
	入貨	三〇八、四五七	三一七、九六七	二、九二二、六六六	二、八四八、八〇二	三、四七二、七六二
	計	四、六四四、一一〇	四、六四六、九四七	四、二五一、七三四	四、二三一、二四三	四、九三三、六一七
木津川	出貨	二五一、四八三	二六三、七三三	二六三、二二三	二八七、九七五	三三三、七四八
	入貨	一、〇五三、三五九	一、〇三一、五六五	八九〇、一七四	六七八、〇二六	六九三、三五七
	計	一、三〇四、七四三	一、二九八、三九八	一、一五三、三八六	九九六、〇〇一	一、〇一七、一〇五
尻無川	出貨	八〇、七四二	一（四、九八四	一〇七、一八〇	九九、〇五八	一三五、〇三三
	入貨	五三六、九八五	四六八、二〇〇	四四六、〇三一	四五五、三六八	四九四、三〇四
	計	六一七、七二七	五七三、二八四	五五三、二一二	五六四、四二六	六三九、七〇六

次に大正五年に於ける大阪港出入貨物中其主なるものゝ數量及價額を示せば左の如し。

大正五年大阪港出入貨物重要品（單位噸）

	出貨	合計		
		出貨	入貨	計
綿糸	二九、〇一六（五八、七〇二、二八〇圓）	二、三六三、六三三	五、八七三、三〇〇	八、一三六、九三三
鐵材	一三〇、八八七（二一、〇八八、七〇〇圓）	二、三七三、二六九	五、九一八、一〇三	八、二九一、二六八
綿布	一三、〇三七（七三、六四九、四八五圓）	三五、一六三、三五五	五、九〇六、〇六〇	七、六六九、九五九
硝子及同製品	一〇五、六五〇（二一、三四三、八四〇圓）	二、三三三、二七〇	五三四、七四三	六、〇一四、三四五
鑛物	一〇一、九五五（二、三四三、〇一〇圓）	二、三六一、〇二四	五七四、八一七	八、五七五、三六一
人造肥料	九七、九六二（六、三六九、五六八圓）			
鐵製品	八三、五四四（一三、六三八、〇八〇圓）			
木材	八二、九四四（四、七〇五、七九二圓）			
燐寸	七七、九六九（六、六二七、三六五圓）			
砂糖	七〇、九〇〇（二、〇〇九、〇六〇圓）			

金屬材　六八、五九二（四、八四三、一二〇圓）
雜肥料　六四、一〇四（三、一四一、〇九六圓）
和洋紙　六〇、六七九（一五、九一八、五三〇圓）
工業用藥品　四八、二四五（七、五三一、一七三圓）

入貨

石炭　二、一二三、〇八六（一七、九六一、二三三圓）
鐵材　三八〇、一一〇（四一、〇七九、七九五圓）
米　三四、一二四（二、七一、六八九、〇六九圓）
木材　三九七、六一四（一一、六四六、三二〇圓）
棉花　一七六、四七八（八四九、四一五圓）
金屬材　一七九、六六八（三四六、六三〇圓）
土及砂　一七〇、五七七（一七八、一四五圓）
石材　一六〇、九〇三（六六三、一六六圓）
砂糖　一六〇、四五二（二三、八〇九、九五四圓）
煉瓦　一五五、三四九（六〇五、八六一圓）
工業用藥品　一〇九、〇七九（一七、四五二、六四〇圓）
雜肥料　一二六、五三七（四、一〇五、七一二圓）
果實　七五、一五三（三、〇〇六、二九六圓）
豆　七二、七〇一（五、二三九、六九六圓）
和洋紙　七二、三五六（二、五八〇、〇五〇圓）
綿實　五五、〇八〇（二、二〇三、二〇〇圓）
薪　二五一、一五五（一、一〇五、〇八三圓）

大正五年築港出入貨物重要品（單位噸）

出貨

燐寸	四二、四二七	
綿糸	二六、二四〇	
和洋紙	二六、一五〇	
人造肥料	三二、四九二	
木材	一九、〇四四	
砂糖	一七、六七三	

入貨

石炭	二三四、一一七	
米	一二三、一〇一	
砂糖	一一三、三六七	
石材	五一、三二八	
豆	四〇、八二	
和洋紙	三一、三二九	

大正五年安治川出入貨物重要品（單位噸）

出貨

鑛油	九三、八三	
人造肥料	六九、三八	
鐵材	六六、四一〇	
金屬材	四八、八八九	
鐵製品	四四、五七五	
客	三一、九〇三	
綿糸	八四、〇九七	
綿布	六七、二五〇	
硝子及製品	五六、八四四	
砂糖	四六、九二〇	
雜肥料	三七、二八〇	

入貨

石炭	鐵材	一六〇、一三五
米	金屬材	一三七、三三九
雜肥料	工業用藥品	六八、六六二
煉瓦	果實	六〇、八九七
土及砂	棉花	四九、四七三
木材	砂糖	四五、九一八
敷物	和洋紙	三九、六三五
綿絲		

大正五年木津川出入貨物重要品（單位噸）

出貨

木材	鐵材	一六、九三八
加工木材	硝子及同製品	一五、一〇九
鐵製品	陶磁器	一三、一七三
雜肥料	襤褸及屑物	一〇、五五二

入貨

薪炭	石炭	一六〇、一三三
木材	石材	三九、一三一
鐵材	土及砂	二七、八四〇
棉花	煉瓦	二〇、三三八

大正五年尻無川出入貨物重要品（單位噸）

出貨

硝子及同製品	八、〇九四	
鐵製品	五、五九〇	
綿絲	四、二四四	
陶磁器	四、〇四〇	

入貨

煉瓦	六九、三五七	
石材	五二、五九四	
木材	四二、二四四	
鐵材	二二、〇四〇	
工業用藥品	一五、〇〇〇	

雜肥料	六、一五九	
木材	五、四三	
鐵材	四、二七	
乾物	四、〇〇一	

土及砂	五六、二四四	
薪炭	四四、一九四	
和洋酒	二七、四六二	
棉花	一七、三八	

神戸港經由貨物五ヶ年對照表（單位噸）

	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年
出貨	六三四、八二七	七〇二、三六九	六〇一、九二五	六二三、三二二	七一八、九六六
入貨	一、二三〇、七二一	一、〇八七、三二七	八七一、三二〇	八二五、六〇七	九六九、五六一
計	一、七九五、五一八	一、七八九、六九六	一、四七三、二二五	一、四二九、二九一	一、六八八、五二七

之を内地朝鮮及外國の三貿易地方別に其集散狀況を調ぶるに。

（一）内地貿易　大阪港出入海運貨物の内地分布地域は、瀬戸内海沿岸地方を中心として、南は

沖繩、臺灣北は北海道、樺太に亘り、全國の各港に普及するも、概して大阪以西に濃密にして以東に稀薄なるを免れず。今大正五年中に於ける大阪港對地方集散狀態を示せば左の如し。

地方別	出貨	入貨	計
大阪附近沿岸	一七三、二四九噸	五六一、五七八噸	七三四、八二七噸
四國內海沿岸	三〇〇、一三一	三六二、七九八	六六二、八七九
四國外海沿岸	五八、四四一	一三七、一三六	一九五、五七七
中國沿岸	四〇三、九一〇	四〇七、四六〇	八一一、三六〇
九州東沿岸	一〇三、六六四	二三九、六三七	三四三、三〇一
九州西沿岸	一七五、二四三	二、一〇三、一八〇	二、三七六、四二三
紀伊沿岸	五九、九九三	二三一、三四七	二八一、三四〇
尾勢沿岸	二一、九〇六	二、五四二	三三、四四八
東海沿岸	一二八、一〇九	八九、一四九	二一七、二五八
三陸沿岸	七七四	二一、八八一	二二、六五五
兩羽沿岸	一八、七一七	三五、三七五	五四、一〇九二
山陰沿岸	五、四四九	二、八八三	八、三三二
北陸沿岸	三三、五四五	三六、五〇九	六〇、〇五四
琉球諸島	七八、六一三	二六、三七一	一九四、九八三
臺灣沿岸	六六、一〇三	二七九、七〇六	三四五、九〇九
北海道及樺太	一、六二四、九二六	四、七六六、五一二	六、三四一、四三七

大阪港移出入貨物地方別五ヶ年對照表

移出之部

(二)朝鮮貿易　朝鮮移出入貨物中南朝鮮は大正元年の出入二十一萬六千噸三千一百萬圓よりして、同五年の三十二萬五千噸三千八百萬圓に增加したるが、是れ主として米穀移入と砂糖移出の激增したるに因る、北朝鮮は南朝鮮に比し文化の度低く、良港に乏しきを以て、朝鮮貿易の大部は、南鮮諸港に占有せられ、大正五年中の出入三萬四千噸七百萬圓に過ぎざるの狀況なり

		南朝鮮		北朝鮮		總合計	
		噸數	價格	噸數	價格	噸數	價額
大正元年	大阪港積 大阪稅關手數	一〇六、八八四	一七、三一、一五三	二五、一二五	四、五四一、五七八	三一、八九九	三三、三五、七三一
	神戶經由積 (大阪稅關手數 (神戶稅關手數	七、四二七	二、〇三〇、六四八	三、三三七	八三、四一三	一〇、六四	二、九五四、〇二〇
	計	一一四、二九一	一九、七五四、八〇一	二八、二六二	五、四六四、九九〇	一四二、六五三	三五、二九、七九一
大正二年	大阪港積 大阪稅關手數	一二〇、六七一	二二、二〇三、九八〇	一九、七七五	四、五四一、五七八	一四〇、四四六	一七、七三五、一四九
	神戶經由積 (大阪稅關手數 (神戶稅關手數	八、八六四	二、七二一、七三三	八、四九二	一、一三二、八八八	一七、三六六	三、九六四、五九〇
	計	一二九、五三五	一四、九三四、六八八	二八、二六七	五、五三三、一六三	一五七、八〇三	二一、六八九、七三九
大正三年	大阪港積 大阪稅關手數	一〇七、四一六	一四、一七九、七五〇	二三、三〇九	五、九〇二、四〇八	一二九、七二五	二〇、〇八二、一五八
	神戶經由積 (大阪稅關手數 (神戶稅關手數	一〇、三四九	二、〇〇一、九五二	五、七〇二	八三、三五	一六、〇五〇	二、八三五、二七七
	計	一一七、七六五	一六、一八一、七〇二	二六、〇一〇	六、七五五、〇五一	一四五、七七五	二三、九一七、四三五
大正四年	大阪港積 大阪稅關手數	八三、九二九	一四、五二五、一六五	一八、九一〇	五、五二二、一六三	一四〇、四四六	一七、七三五、一四九
	神戶經由積 (大阪稅關手數 (神戶稅關手數	四、四六一	五四七、二六三	一、七二四	一一三、八八八	一七、三六六	三、九六四、五九〇
	計	八八、三九〇	一五、〇七二、四二八	二〇、六三四	六、六三五、〇五一	一五七、八〇三	二一、六八九、七三九
大正五年	大阪港積 大阪稅關手數	八六、八二六	一六、七八六、七三八	一八、六七七	五、三八三、七八四	一二五、四八三	二三、一五〇、五二三
	神戶經由積 (大阪稅關手數 (神戶稅關手數	三、九七六	一、五七六、九二六	一、一七九	五九四、三三六	五、一二五	二、一六九、一六二
	計	九〇、八〇三	一八、三六一、六六四	一九、八五六	五、九七八、一〇二〇	一三〇、六〇八	二四、三三九、六八四

移入之部

		南朝鮮		北朝鮮		總合計	
		噸數	價格	噸數	價格	噸數	價額
		噸	円	噸	円	噸	円
大正元年	大阪港卸 大阪稅關手數	九六、一四二	九、七一〇、三四二	三、九五一	一、四〇九、一九〇	一一〇、〇九三	一一、一二九、五三二
	神戶經由卸 大阪稅關手數	五、三五七	五三九、二八九	一、二八四	一二五、一三九	六、五二一	六四四、一八〇
	神戶稅關手數	六七七	一二四、三四八	六四	六、〇三二	七四一	一三〇、三八〇
	計	一〇二、一七六	一〇、三五三、九七九	一五、一七九	一、五三〇、三五一	一一七、三五五	一一、八四四、三三〇
大正二年	大阪港卸 大阪稅關手數	一三一、一七九	一三、四九七、八八九	七、八五三	六〇五、七一八	一三九、〇三二	一四、一〇三、六〇七
	神戶經由卸 大阪稅關手數	——	——	——	——	——	——
	神戶稅關手數	一三二	一一、七八二	一二五	一〇、五〇八	二五七	二二、二九〇
	計	一三一、三一一	一三、五〇九、六七一	七、九七八	六一六、二二六	一三九、二八九	一四、一二五、八九七
大正三年	大阪港卸 大阪稅關手數	一八六、一一三	一六、五五一、五四二	四、〇五七	一〇〇、四四二	一九〇、一八〇	一六、六五一、九八四
	神戶經由卸 大阪稅關手數	九、八一八	一、七九九、三七〇	——	——	九、八一八	一、七九九、三七〇
	神戶稅關手數	四、四一三	三七〇、五五六	——	——	四、四一三	三七〇、五五六
	計	二〇〇、三五四	一八、七二一、四六八	四、〇五七	一〇〇、四四二	二〇四、四一一	一八、八二一、九一〇
大正四年	大阪港卸 大阪稅關手數	二六五、八五四	二〇、四七六、八五二	一、六四〇	二六八、〇四六	二六七、四九四	二〇、七四四、八九八
	神戶經由卸 大阪稅關手數	一五、九九八	一、八一八、七六七	一〇、三五五	一、〇四五、二六二	二六、三五三	二、一六四、〇二九
	神戶稅關手數	一二、〇七五	八二五、七八〇	——	——	一二、〇七五	八二五、七八〇
	計	二九三、九二七	二二、一一三、三九九	一一、九九五	一、三一三、三〇八	三〇五、九三三	二三、七二四、七〇七
大正五年	大阪港卸 大阪稅關手數	二〇一、九四八	一六、一四二、八五四	三、二五五	四三五、五九三	二〇五、二一〇	一七、九四四、三二五
	神戶經由卸 大阪稅關手數	一四、〇三七	一、二七三、三〇九	三、四四四	一、〇六七、六八六	二五、五二一	二、三三九、九九五
	神戶稅關手數	一八、六八一	一、三六五、一〇五	——	——	一八、六八一	一、三六五、一〇五
	計	二三四、六六六	一九、一八一、二六八	七、二九九	一、四九二、二七九	二四九、四〇三	二一、六四九、四二五



技術家とは何ぞや（續）

大阪市役所
港灣部長　直木倫太郎

（八）點睛を缺ぐ

が併しながら茲に『技術家とは何ぞや』と云ふ主題を前にして考へ廻らす時、我等はトレツドゴールド氏の斯程の名文句にすら尚何となく喰ひ足らぬ節がある。それは決して技術が『汎ねく人類の利便の爲めに自然界の偉大なる力を利導する所以の術』たることに異議ある爲めではないが、然しそれだけではまだ何だかも一つ大事な要素が缺けて居るやうに感ずる。今日の技術家をして眞から自家の立場に覺醒せしめんが爲めには何うやら今一きは刺激の强烈ならざる恨みがある。實際今の我技術界は他の何の社會よりも眠つて居る。渠等は階級としても團體としても個人としても悉く眠つて居る、その熟睡の最中を搖り起して『技術は自然界の偉大なる力を利導する所以の術である』と高唱した處で、それ丈けで以て果して渠等を其眠りから呼覺すに十分なるであらうか。彼等は『夫れ位のことなら、疾くから心得て居るのだ』と云ふかも知れない、『心得ては居るが此頃の不景氣だから手が出せぬのだ』と云ふかも知れない『相手が動かぬ自然界だから餘計眠むいのだ』と再び寢入つてしまふかも知れない。

如何にも日本が貧乏な所爲もある、不景氣な所爲もある、折角大いに自然力を捕捉し操縱したくとも其着眼其企畫を實現せしむる所以の手

段方法に於て窮する所爲もある。彼等が折角多年の苦學を嘗めて然かも容易に其職を求め兼ねたり、隨分熱心なる研究を盡くして然かも實地に其手腕を試みかねたりする場合の甚だ多きを見ても、今の技術家の境涯には隨分屈託勝ちなるものである。從て單に『偉大なる自然力の利導』と許りでは、未だ痛切に現實に彼等を感發奮起せしむる所以の熱を喚ばぬかとも疑はるゝ

殊に技術家の目的が『自然力の利導』にあると云ふ言葉は、取りやうによつては彼等の頭を尙更自然界に沒入せしめて、例の學者らしく仙人らしく、世間離れ人間離れのした境涯にのみ自己を沈湎せしむるのが即ち斯道の本領だと穿違へしむべき懸念がある。之れを活社會の活人たるべき本來の立場へ引き戻すが爲めには『人類一般の利便の爲めに』だけでは甚だ手緩い。もつと手強い活々した意味で以て、如何に我等が『人類の利便の爲めに』現實に働く可きか又働かざる可からざるかが示されねばならぬ、何故に我等が寸時もゆるみなき用意を以て火花を散らさん許りに活動せねばかゝ敎へられねばならぬ。狂熱なる發明家若しくは技術家が隨分『人類の利便の爲めに』と思惟して全力を傾倒した考案若くは研究の往々にして實用に遠く實果を生まざることがある、その不幸なる原因の果して何に存するかゞ明かに說明されねばならぬ我等技術家が全体として甘くも安くも一般社會の眼から見倒し踏倒されつゝある所以の眞因が抑も何に基づくかが烈焰々と燃え立つ炬火の如くに我等の面前に突き付けられねばならぬ。それ等凡ての活きた鋭い刺激があの定義の何處から我等を搏つであらうか。

（九）天地の化に參す

我からはづみ立つた話の鋒尖を折るやうではあるが、併し此處にトレッドゴールド氏の名文句を說いた次手に、是非見逃す可らざる一插話を附加へて置かねばならぬ。それは頗る愉快な話である、右のトレッドゴールド氏の名文句と其旨を同うして更に其以上に雄大なる文字が、

現に疾く我國に於て説破されてあるのだから。

西歴一七三〇年(享保十五年)に七十七歳を以て逝いた當代の碩學、八代將軍德川吉宗の侍講駿臺先生室鳩巣は、其著『不亡鈔』の中に説くらく、『工人は天地器用の材を掌り天下の用に勞す』と。見よ『天下の用に勞す』とは即ち汎ねく吾人々類の利便の爲めにと云ふのと何の異る處がある、『天地器用の材を掌る』とは之れ自然力の利導を目的とすと云ふのと何の相違である。面白いではないか。

加之、鳩巣は、進んでこれに立派な注脚を施して居る、『工人は天下に器用の足らざることを患へ、天地の寶の草昧に有つて、人の用に立たざることを悲み、萬物の材を用ひ萬器を作り其衣服を作る時は、天下の寒暑に堪へざることを恐れ、其甲冑を作る時は、天下の矢石に堪へざることを恐れ、其農器を作る時は天下の耕作に堪へざることを恐れ、鍋釜を作る時は天下の食事に堪へざることを恐れ、其室宅を作る時は其人の風霜に堪へざることを恐れて、皆久しく破れざらんことを勤む。尤も筋力と竭して勞倦を厭はし朝より夕より夜陰に至るまで徒に手足を置くこと勿れ』と。況や又曰く『此人何が故にか斯の如くなる。是れ天地の心を心とし、天地の道を道と爲し、天地の化を業となし、人々相見ること一家の如く人に勞することを好み、人を勞することを悲み天地の道を助け天地の化をほどこし、我幸勤を顧ざるものなり』と、其堂々たる意氣に於て、これぞ寧ろ彼のトレッドゴールド氏の定義を凌がん許りの名文句ではないか。少くとも此舍蓄を參酌するによつて彼の定義の權威が一段の光輝を加ふべきは云ふまでもない。

再記す『工人は天地の心を心とし天地の道を道と爲し、天地の化を業とし、人に勞することを好み、人を勞することを悲み。天地の道を助け、天地の化をほどこし、以て我幸勤を顧みざるものなり』と。

之れ抑も何たる卓拔雄偉の文字である。當時の工人の爲めにさへ、我が故人は既に斯程の氣

を吐けるを思へ。二重の感興は頓に我等をして勇躍一番せしむるではないか。世にトレッドゴールト氏の名を記憶する技術家は多い、が同時に日本人たる我室鳩巣の存在をすら能く知つて居るか何うか。敢て此一挿話を試みたのである

（一〇）技術と經濟

其處で問題が成立つ　即ち技術が『汎く人類の利便の爲めに偉大なる自然力を操縱利導する所以のもの』であるとしてもよし、又は『人に勞することを好み、人を勞することを悲み、天地の道を助け、天地の化を施し、以て我辛勤を意とせざるもの』としてもよいが。さて然かく威張つて見た處で、果してそれ程技術家自身が自己に感得する權威を、左右なく他の一般社會に認めしめ得ざるは抑も何の爲めであらうか。

今の經濟學及それを透して今の一般社會に承認せらるゝ通說からすれば吾人々類の經濟生活上『技術』の實地に活動し得べき範圍は頗る狹いものである。彼等は常に曰く『技術』と『經濟』とは必ずしも常に調和し能ふものではない加之其凡ての不調和に對しては當然『技術』が他の指揮と制御と命令と甘受せざる可からざる割合であると。

即ち此處に經濟學者の口吻を借りていさゝか之れを詳說せんに。凡て技術の目的が自然力利導の術である以上、勢ひ技術は常に其目的を完成する所以の術にのみ拘泥して、敢て其意外の一切の、事情例せば其完成に要する費用、其完成の齎す經濟的効果の如きを顧慮しない。例せば一個の生產をなすに就ても、成るべく其生產の結果を良好ならしめ、又はなるべく生產の結果を多大ならしめんとは計るが、然かも其際その爲めに要する生產費の多少如何の如きは、當然之れを度外に措いて問はざるものである。然るに之れに反して『經濟』の目的とする處は生產の結果を成るたけ良好ならしめ又は成る丈け多大ならしめんとするには非ずして、却て生產の結果として收むる處の剩餘、營利の場合ならばこそ純益を成るたけ多大ならしめんとするにあ

らば、當然之れが生産に要する費用は、成るたけ其節約を企圖せざるを得ぬのである。此故に凡そ一個の生産には常に技術の一面と、經濟の一面とを備へ、然も兩者の利害は常に當然相容れざるものである。即ち技術に偏すれば利潤薄く、經濟を重んずれば設備全たからず。兩者の利害は斯くして相反撥し相衝突せざるを得ざる場合の多きを豫想すべく、殊に其事業が營利を目的として成り立つ以上、尙更容易に技術の方面に偏依し難き所以を察するに足らう。故に結局、最初の勞費を以て最大の効果を收めんとする經濟主義に適合する範圍内に於てのみ、初めて技術の存在を認めざる可からざる譯である。

其昔、青砥藤綱は五文の錢を滑川に落し、十文にて人を雇ふて之れを拾はしめた。そは藤綱にあつてこそ當時の勤儉主義の勵行のために用ゐた奇警の一策だつたであらうが。若し單に此行爲のみに就て見れば、それは技術に成功して經濟に失敗したるものである。水底の錢を化して懷中の錢とする技術の働きには申分なけれども、其實十文を捨てゝ五文を得たるに過ぎざるからである。今の經濟生活上技術の占め得る位置もあらましこんなものであると。

其處だ、其處に此經濟學上の通說を通じて一般社會が技術と技術家とに對する日頃の見解、批判、若しくば待遇の根底が据ゑられてあるのだ。

低くも、狹くも、甘くも、安つぽくも、目先が見ゑぬとも、偏狹過ぐるとも、機械的とも、非常識とも、勝手に推測し豫斷し若しくば曲解せらるゝ根本理由が成立つのだ。

が技術とは果して左樣に間の抜けた氣の利かぬものなのであらうか、技術家とは果して左樣に經濟的にも社會的にも血の氣の薄い目先の見ゑぬ勝手氣儘なものであらうか、我等が畢生の心血を爛らす努力も結句は、或目的に對する單なる術の完成に止まつて然かも其研究に如何の意味あるかを思はすば、其實現の可否を決するものは技術家自身にあらずして、却て他の人間と他の事情、それば經濟學者の所謂企業家の見

込みと經濟狀態の如何とにのみ歸着すべきものなのであらうか。我等技術家は只左樣の術の完成に向つてのみ專門であり堪能であるに止まつて、其意外又はそれ以上に何の廣がりも、深みも、强味もなく、單に餘所の世界の支配を受け其都合を窺つてのみ進退するに過ぎざる從屬的立場より外には何の權威をも持ち得ぬ、けちな憐れなものたるであらうか。

狂熱に盲ひたる或種の發明家、若くは極めて偏固なる一部低級の技術家ならざる限り、抑も左樣な簡單な經濟的原則ぐらいをいまだに會得し能はぬ程に我等は呑氣なものであらうか。否左樣の事柄をば、もつと綿密隱微な點まで押進めて常に科學的に調査研究して我打算上のファンクションと爲すべく頗る心得切つたるものが技術家ではないか。口にはすれば單純でも、實地には頗る複雜錯綜せる所謂『經濟』と『技術』との關係をば科學的に將た常識的に、仔細に探査し批判し分析し咀嚼して以て我設計と構造との重もなるフワクターたらしむべく夙に習熟し切つたるものが我等ではないか。でなくして何處から斯道の發展が湧かう、何處から世運の進轉が導かれやう。早い話が技術を以て單に與へられたる目的の完成だとすれば、即ち護岸の築造には只到る處に往時の築城の如く巨大なる石材を疊み十二分裏詰めを施して、その萬代不易を誇るに越したることはない、がさすれば何處に土壓論の研究が生れ又は何處から鐵筋混凝土擁壁の經濟が導かれやう。今の「技術」は「經濟」との關係を無視して只一圖に或目的の完成をのみ企圖する如く然も簡單なる學問ではない技術家の働きをジャスチフワイする者が技術家自身でなくて、別に其人あらねばならぬといふまで無能な我等でも無い。疑ふものは近よつて今の技術の生彩を見よ、今の技術の脈動に觸れよ。其光彩の陸離として日に倍々新たなるは、之は明かに「科學」と「經濟」との色絲が我等の手に親しく經緯として最も精巧に織込まるるが爲めではないか、其生氣の脈々として瞬時の皷動をも止めぬものは畢竟「科學」と「經濟」との血球が交

々我等が血管を流れて滾々として常に新たなる所以の證據ではないか。

「技術」は現に此の如くに「經濟」自体を其内に包含するによつて愈々其精進に資し、益々其間斷なき發展を遂げつつあるのである然るを今に於て尚且つ「技術」と「經濟」との齟齬を說き杆格を擧げ其幼稚なる感想下に、直ちに「技術」をして能く「經濟」の下風に屈服せしめ能ふと信ずるが如きは之れ餘りに今の「技術」を解せざるものの言である。今の技術は單に、「吾人人類の意思を成るべく完全に行爲に實現せしむる所以の術」たるを以て甘んずるが如く最早然かく幼稚な單純な不調法なものではない。我等に云はすれば技術の研究は其一面に於て直ちに經濟其ものゝ研究である。技術の發現に向つて必要とする程度の經濟關係は當然技術自体の解決によつて解決さるゝのみならず、寧ろ「科學」と「經濟」との關係を最も適切に調和し今一しをて以て最善の實際的効果を生ましむる處に今の我「技術」の立場が存するのである。それをすら理解せずして今尚幼稚な前提に謬られ、よつて濫りに技術の抑制を豫期するのさても何たる不詮議の沙汰である。

とは云へ殘念ながら此意味を社會の表に徹底せしめんがためにも我等は寧ろ顧みて我技術家の臆病過ぎたる態度を今更の如くに見廻はさねばならぬ　我技術家の依然として細故の探査を得意として絕えて廣く社會經濟學上の智識にすら觸れんとも爲さゞる心事を悲まねばならぬ。

即ち又顧みて彼のトレッドゴールド氏の定義も其處に「自然力の利導」をのみ說いて然かも其「利導」と「經濟」との交涉を適當に明白に表示せざりし點に、今の技術家として最も大切なる一要素を逸脫したりし遺憾を切思せざるを得ぬのある。

（一一）技術即事業

『魯叟五經を講じ白髮章句に死す、問ふに經濟の策を以てすれば、茫として煙霧に墜つるが若し』縱しむば技術家にして如何に自然力利導の

術に耽るも、若しこれを約するに一の「經濟」を以てせずんば、渠等の勞苦も畢竟魯叟の嚢みではないが、如何に白髪章句に死すとも其實價や遂に如何である。

即ち技術が單に「人類一般の利便の爲めに偉大なる自然力を利導する所以の術」たるのみでは、未だ以て其意義に徹したものでは無い、少くともそれは「吾人々類の爲めに最も經濟的に自然力を利導する所以のものであらねばならぬ「最も經濟的に」それが技術の眼睛である、これを點するによつて始めて技術が活きるのである、技術家の面目が甦へるのである。但一茲に云ふ「經濟」とは單に技術上に現るゝ或は率(ロープ)とか最小自乘法(アプロクシマシヨン)とかをのみ指すのでは無い、單に技術上の細故其ものゝ經濟ばかりを指すのでもない。即ち彼のサー、ケチヂー氏の所謂「幾通りかの解決方法(ソリューション)」の内から眞に最上のものを擇むに方つて最も必要とする技術とする技術家自身の活眼と活識とを生むべき一般社會經濟學上の理解である常識である判斷力である。

然かも斯かる理解と常識と判斷力とを眼目として、重ねて技術を見返へる時に、我等は最早左樣な生温るな穩當過ぎたる文字の末に拘はつて徒らに技術の定義を修正加除するばかりに滿足しては居られぬ、もつと〳〵鋭利な痛切な明快な意義を追ふて、新しき技術家の活く可き道を高調せねばならぬ、今のいぎたなく眠れる凡ての技術家を直下に一齊に覺醒せしむるほどの力ある號びを叫ばねばならぬ。

即ち其處に頗る快心の一句曰く「技術は事業であり、事業は技術である」(スエーン教授)と。見よ是れ何たる直截である、何たる透徹である技術が直ちに經濟であることも、技術が直ちに時代の活人たることも悉く此簡單なる一句に横溢せるではないか。我等が言下に雀躍して奮起すべき所以悉く此一句に括約さるゝではないか

技術家が單にストレッスとデイメンションとの領域にのみ閉ぢ込められてあらねばならぬが如く、又は只默つて溫和しく其特殊の技能にのみ働かねばならぬが如くに思惟することの今更

何たる謂れなさである。左様なけちな窮屈な觀念に囚はれ來るが爲めに、却て其專門にすら活きた研究も力ある企畫も價値ある實行も生れ能はぬではないか。技術以外の思想に眼を閉ぢ技術以外の社會に耳を掩ふて、然かも能く社會の爲めに圖となすの、それこそ何たる矛盾である。今の技術家の任務は、最早單に或目的の完全に對する術の最善を見出す爲めでない、其見出されたる方法を與げて他の人々の取捨選擇に提供せんが爲めではない。否進んで我等自身が直接其立案の適否を定め、其主張を力說し、其實行を決して、而して敢て自ら其全責を負ふて事業其ものゝ遂行に任ずるのである。我等は企畫し且つ實行するのである、我等は建設し且つ運用するのである。今の經濟界が資本と企事と勞働とを區別する時代に、我等は單に敎育ある勞働者としてのみ滿足すべきではない、宜しく其堅實周到なる技術修養を根據として以て有力なる企業家たるべく蔓進せねばならぬのである。工事用材のストレッスから惹て建設工費のストレーンを迄日毎に手がくる我等が事業が事業の人として立のに今何のひけめである。凡ての企業の進行と現に密接の關係を有する我等が敢て一步を進めて企業其ものゝ爲めに直接活きたる手腕を揮ふに於て何である。技術は目的では無い寧ろ手段である。「技術即事業事業即技術」さても何たる簡單さである然かも其意義の何たる深長さである。

我等は其學びし所のものによつて、敢て技術家なるレッテルを貼られた。が此レッテルの記號に適合するやうにと許り、必ずしも窮屈なる小壜の中に其身を縮めて、只管レッテル並の色合と風味とを損せぬやうにと氣遣ふには及ばぬ酸味苦味、澁味、寧ろ勝手氣儘の一味を醱酵して、それに相應しいレッテルを他人に貼りかへさしたがよいのである。

我等が技術家として技術を重んずるはよい然かも技術に囚はるゝは如何に。技術を基礎として廣く天下を見廻すはよい、然かも技術に魅せられて空しく其偏執に老ゆるは如何に。

技術を足駄の如く我脚底に踏占めてこそ、初めて我欲する處に自由に行き得る道があらう。これを恭しく頭巾の如くに引被りては、殆ど眼も口も開かざる沙汰ではあるまいか。

手段の研究に始まりたる技術は、事業の研究によつて初めて完結するのである。「事業即技術技術即事業」斯く觀ずるによつて新しき技術の意義技術家の活く可き道が初めて開かるべきである。

▽手足之辯△

汶村

甲冑のよろひかぶとをあやまり、行燈提灯をとりちがへたるは、昔より國中みな誤り覺ければ、却つてあらためたる人をあやまりといふを理ならん。こゝに一身の中、足を賤しとし手を貴しと定め置きたるは、いづれか賤しとしいづれか貴しとせむや。賤しとて終に斬捨てたる人も聞かざれば、持にこそ定め置きたけれ。

それ足は行歩を産として、外の用を知らず。沓木履をかけ草履草鞋を穿きて、直ちに土を踏まず、居る時は足袋韈に包みまはし、あゆみつかるれば馬駕籠に扶け乘られ、千山萬水の間に坐して風情に嘯く。手は一身の奴にして定めたる産なし。頭の虱を捫り踝のあかぎれを撫つる。至らざる所なく、又なさずと云ふ事なし。是賤しき事の第一なるべし。貴人高家の傍に侍女小姓のつゝめあれど、厠の役ある事を聞かず、されば我脚にて他の鼻端の塵を拂はじ、人怒つて我れを罪せむ。人また我が頭の蠅を足にて追はゞ我れ是を貴しと思へど、世の人我れを罪せむ。人また我が頭の蠅を足にて追はゞ、我れ是を貴しと思へど、世の人我に代つて、にくみのゝしり、怒をうつして我を阿方と號するこそ、おほきなる潜上なれ。其潜上人、蒲團簟に臥して休する時も、必ず足を伸すを一番とす、湯に入る人も足からならでは這入がたし。向後足にあたらしみをつけて、手を古風のふるみにおとさむ。但し德利子は各別の沙汰なるべし。



本邦森林と建築用材に就いて（三）

會員　谷民藏

◆本邦主要木材産出地の林況

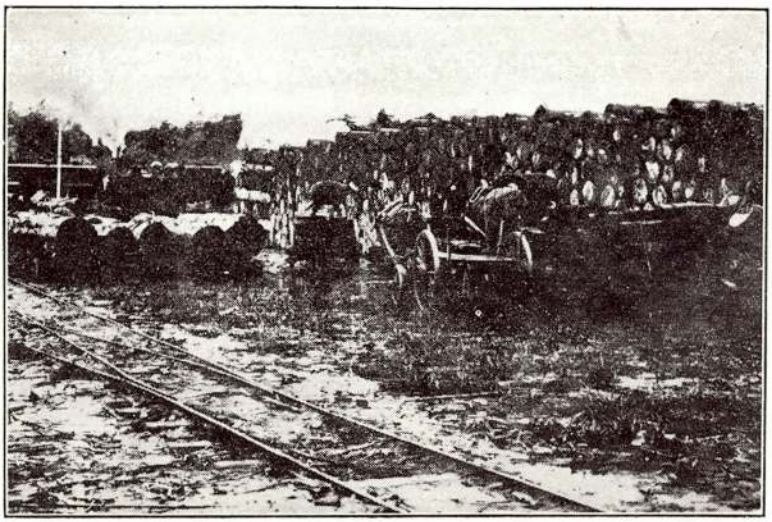
□秋田大林區署管内主要樹木

△地　勢　△氣　象
△管内一般森林の分布　△濶葉樹林の分布
△施　業　△砂　伐
△造　材　△運材機關
△方　法　△木材の市場

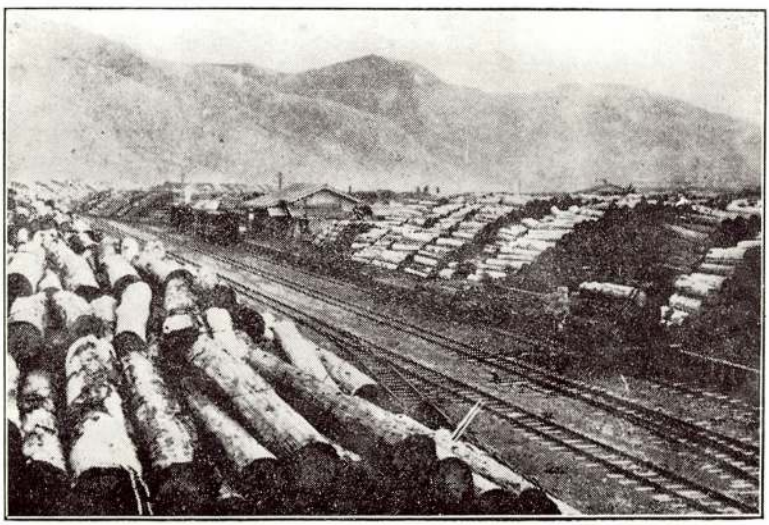
□秋田大林區署管内主要樹木概要

△地　勢

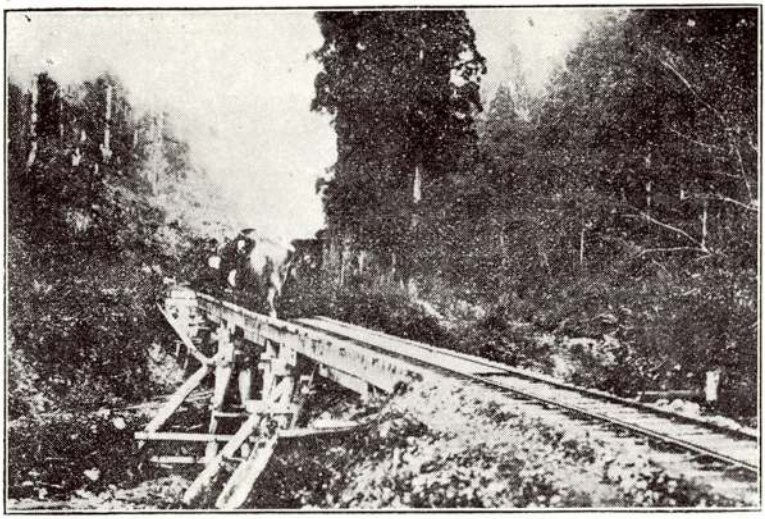
本管内は奥羽脊梁山脈より西走する一條の山脈烏海山に連りて山形、秋田の縣界を成し、山形縣下に在つては福島縣界飯豊山より起りて縣内を縦貫し、遙に烏海山に連る一帶の山脈がある祝瓶岳、朝日岳、龍ヶ岳、石見堂、月山等海抜三千尺以上の高峰其間に聳立し重疊起伏して地勢嶮を極む。更に其の西部に於ては前者に比すれば高からざれど摩耶山、湯澤山、母狩岳、金峰山等の諸峰崛起して日本海を壓してゐる、秋田縣下に在りては奥羽脊梁山嶺の支脈は廣く縣内に展びて山岳重疊し之に屬する森吉山、白子森等の高嶺中央に蟠居し、大平山々脈其の西に當りて南北に縦走してゐる、又其の西部日本海に突出する男鹿半島には眞山、本山、及寒風山の相對峙するあり、岩手縣に於ては奥羽脊梁山脈の餘勢縦横に走りて管内二戸郡田山村は山岳を以て圍繞せられ恰も擂鉢状を爲してゐる、河川の主なるもの四あり。一は山形線に屬する最上川にして源を東南境の山間を發し北流して米澤山形の平野を過ぎ最上の平原に於て西折し、酒田港に至りて日本海に注ぐ、延長五十餘里、沿岸の沃野一望千里有數なる米産地である。他の三は共に秋田縣内に在り、雄物川、米代川及子吉川是なり。雄物川は源を秋田縣の東南境奥羽脊梁山脈に發し、北流して大小幾多の支流を合せ、五崎港に至つて海に注ぐ。流走三十五里、沿岸に仙北、平鹿の平野あり米代川は陸中四角岳附近に源を發し西流して能代港に注ぐ流走は二十六里子吉川は就中小にして僅に由利一郡を灌漑する丈である。源を烏海山に發し西北走約二十里。本莊港に至りて日本海に注いでゐる。



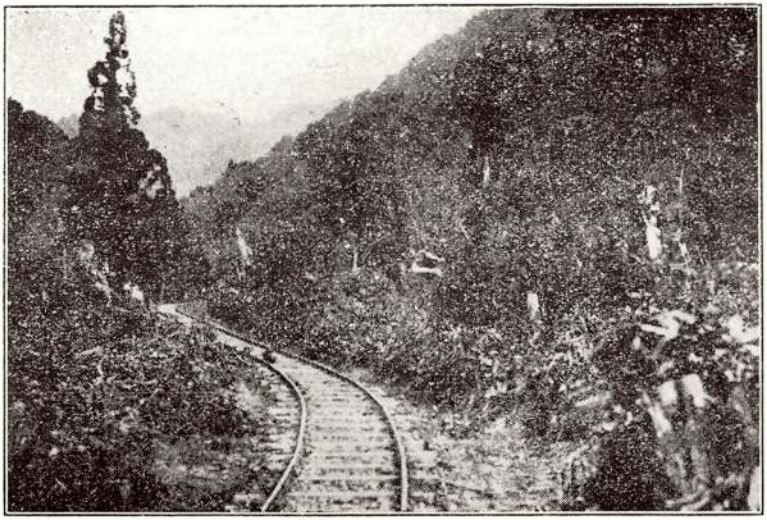
秋田驛貯木場（旭川村）



二ッ屋貯木場（長木村）



長木澤森林鐵道（秋田）



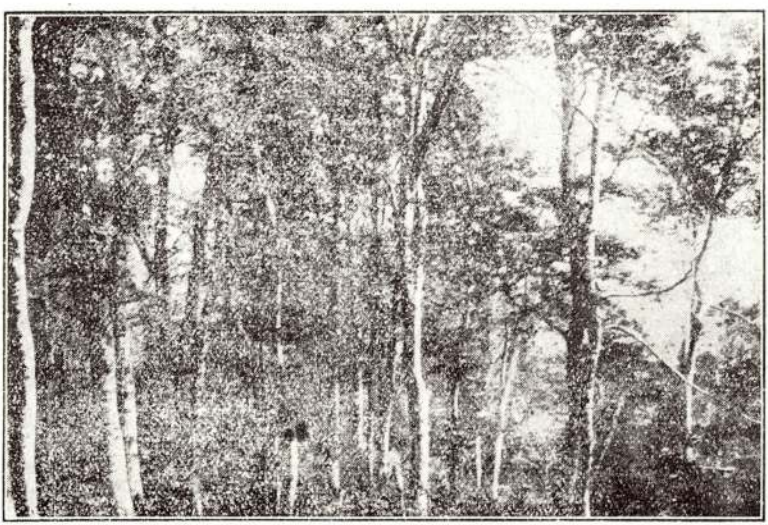
及位林道（山形）

△氣　象

秋田大林區所管區域は北緯三十七度より四十度の間に亙り、年平均氣溫は四十度乃至五十度に及び大陸的性質を帶び寒暑共に酷烈なり。西海岸地方殊に秋田縣内利以南は管内中最も溫暖なる地方にして地内に入るに從ひ漸次其の度を減じ、奥羽脊梁山脈地方溫度最も低く、之れを溫暖なる海岸地方に比較し、年平均氣溫に於て約二度の差異がある。雨量は頗る多く年平均千七百粍に達す。之れを各地に就きて見る時は海岸地方若くは海岸に向つて山を負へる地方は一般に雨量多く、之れに反して海岸との間に山脈を以て隔てられたる地方は少し。而して山形市附近内管内中に於て雨量最も少なる樣である。

△管内一般森林の分布

林況は山岳の地況に依り自ら差異がある、最上川流域は全部濶葉樹林を以て蓋はれ、其の北部秋田縣雄物川流域に接する所に至りては僅かに針葉樹を見るを得べく雄物川流域及子吉川流域は濶葉樹林中に針葉樹を交へ、其の漸く北するに從ひ針葉樹の數を增し、北米代川流域に至りては針葉樹頗る多くなつて所々其純林を見ることが出來る茲に所謂針葉樹は杉であつて、一般に枝下長く樹幹通直にして邊材薄く、木理緻密にして色澤頗る鮮麗である。其の純林は三十平方里に渉り、林相整音翁鬱として翠綠滴るが如しといはれてゐる、一町歩の材積多くは四千



鮭川事業區林相（山形）

八百石を越ゑ、少なきは千百石を下らず樹齢概ね百二十年乃至二百年にして、大なるものは胸高直徑四尺樹高三十間に達するものがある。世に日本三大美林の一と稱して秋田杉を推稱措からざるものは實に此の米代川流域の隨所に產する杉樹林である。今重なる森林分布の狀況に就き畧述することにする。

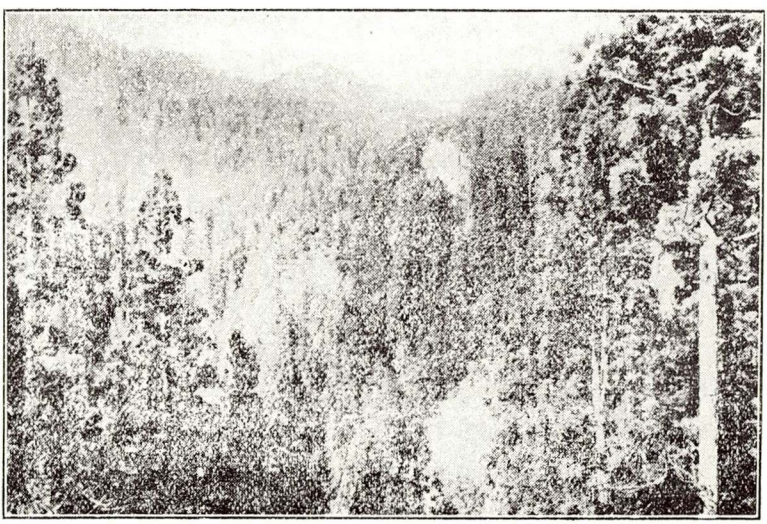
△杉林の分布

杉の分布を明瞭ならしめん爲め之を四區に分ち一を米代川北岸地方とし二を同南岸地方（鹿角北秋田兩郡と仙北南秋田三郡との界線以北但し男鹿國有林を含む）とし、之を雄物川北岸地方（角館町境驛とを連繫する一線を境とし其の以北）とし四を山形縣鮭川地方とし其の各區域に就き說明すれば左の如くなる。

(A)米代川北岸地方　鹿角仙北兩郡の界は其海面高く杉の鄕土以上に位し、「シラベ」の山頂を占領するものなり、其下流十二箇町の對岸に至りて甫めて千數百町歩の杉林がある毎年一萬一千石を伐採する事を得られる秋田鐵道（大館より鹿角を經て盛岡に至るものにして目下毛馬內附近松木迄開通す）通じて輸送の便あり大館附近に於て合流するものに二川あり一を長木川と云ひ他を下內川といふ、長木川の水源地は有名なる長木澤であるが九千町歩の純林を成す老樹鬱然として晝尙ほ暗く樹齢百九六十年にして長幹通直材質秀美色澤鮮麗實に秋田の巨擘と稱られてゐる。然るに近時小坂鑛山の煙害を蒙り漸次に枯損するの慘狀を呈して來た、其林相は全く破壞し盡されたるは惜むべきの至である。下內川の流域は長木澤の北端に連り三千町歩の杉純林を有す、毎年四萬五千石を伐採し得可し、奥羽鐵道其の間を貫通し輸送甚だ至便であるが。續きて早口小林區部內に岩瀨川があり此の流域には約五千町歩の杉の純林を有し毎年の斫伐額杉六萬五千石樽四千石に達する。早口川流域には約三千町歩の杉の純林ありて、年伐額三萬を得られるし。早口。岩瀨兩川流域何れも軌道の設備ありて容易に早口驛に搬出し得られ

る。早口川の西に糖澤川。綴子川及今泉川の三支流があり其の水源地には約二千町歩の杉の純林ありて三萬石の年伐額を有し、鷹巣又は二ツ井驛に致すを得可く運搬至便である。是れと接續する藤琴川流域には毎年四萬石の伐採額を有する杉純林及杉雜混淆林あり、藤琴軌道によりて荷上場に運搬し是れより十町にして二ツ井停車場に到る可く、又米代川によりて直に能代港に運搬するの便がある。

(B) 米代川南岸地方　扇田驛附近に於て合流する才川流域に於ては三萬五千石の年伐額を有する杉の純林及杉雜混淆林がある。西に隣りて日影川の流域亦二千町歩の杉純を有し、毎年二萬五千石を伐採することを得可く、七日市村を貫流する七日市川の流域に五萬三千石の年伐額を有する三千町歩の杉林及一萬三千石の年伐額を有する五千町歩の杉雜混淆林がある。阿仁川は米代川の支流中最大なるものであつて、其の上流には杉雜混淆林を有すと雖も未だ利用の域に達せず。小阿仁川の流域は著大の蓄積を有し殊に羽根山附近は水運の便を以て稱せらる。杉の純林九千町歩に及び年



矢立事業區林相（秋田）

伐額十一萬石を越え、又西に隣れる仁鮒川流域は有名なる仁鮒の大森林にして、全部仁鮒森林鐵道に依りて仁鮒に運搬し、夫れより能代市場迄で筏下げの便ありて運材の至便なると巨大なる良材を産するので其名大に高い。余尙西方に延いて一は米代川最終の支流たる母体川流域地方に至て一萬石の年伐額を有する森林を成し、他は八郎湖に注ぐ三種川流域には明治四十四年度軌道を布設し運搬甚だ便利である。男鹿山國有林千七百町歩は男鹿半島の西端に孤立し鬱然として亦々航海の目標となる大岱と稱する個所の如きは一町歩材積五千石に餘り、樹幹鑽立の狀壯觀を極む此の年伐額二萬六千石あり男鹿軌道に依りて船川港迄運搬するを得可く船川港川港は鐵道の開通目前に在り築港亦近き將來に成らんとするあり竣工の曉は輸送の便益し今日に倍蓰するに至るのであらう。

(C) 雄物川北岸地方　雄物川の支流玉川の上流地方に田澤潮南岸に五千町歩の杉混淆林あり、一萬石を伐採し得可く、其の東境岩手　界には面積三千町歩年伐額八千石を有する杉、椹雜の混淆林あり。淀川流域に於て荒川鑛山附近には二萬八千石の年伐額を有する二千町歩の杉の純林あり。岩見川の水源地には三内鵜養附近に杉及椹と雜木との混淆林あり、一萬九千石を伐採し得可く旭川の上流に於ては太平山の西麓より馬場目岳の東麓に亘りて三千町歩の杉林あり、毎年三萬四千石の伐採額を有し仁別軌道によりて秋田市場に搬出し得可く西隣して新城川の流域に於ては千町歩餘の杉林ありて八千石の年伐額を有し、直に日本海に流送することが出來る。

(D) 鮭川地方　最上川の支流鮭川の上流なる秋田縣界地方には面積五千町歩の杉雜混淆林あり年伐額一萬八千石に上り及位軌道により奥羽線釜淵驛に致し鐵路直ちに輸送の便がある。尙ほ試に濶葉樹林の分布をも摘錄して參考にする。

△濶葉樹林の分布

濶葉樹林は海抜二千尺以上の土地及二千尺以下にして薪炭材の需要多く、針葉樹の成立少き地方を占領す、管内幾多の鑛山に支柱材及燃料を供給し、又管下市町村部落の薪炭材となつて年々伐採せらるゝもの甚だ多い。樹種は「ブナ」「ナラ」等を主とし、其他器具鏇作等諸種の用途を有する有用樹種に富み老木枝を交へて鬱乎たる林相を呈してゐる、其占有する面積廣漠なれども大体に於て青森縣界地方、北部岩手縣界地方、森吉山より太平山に亘る秋田縣の中央山脈地方、内帶山脈地方及南部宮城縣界地方の七に分ちて說明して見たい。

一、青森縣界地方　十和田湖附近には二萬町歩の濶葉樹林あり、岩瀨川の上流にも四千町歩の同種の森林ありて其の一部は直に青森縣に搬出するを便利とする。之れに接續する早口川の上流に於ける六千町歩の濶葉樹林よりは數次縣界を越へて青森縣へ搬出したることがあつたが此等森林の木材の大部分は地勢の關係上早口軌道に依つて早口驛に搬出するを順序とする。藤琴川の上流は實に一萬三千町歩の濶葉樹林を有し、遠く縣界に亘つて大なる蓄積を保有してゐる。

二、北部岩手縣界地方　米代川の上流田山地方に於て約二萬町歩の面積を有する濶葉樹林あり。盛岡街道其の中央を貫通し、米代川と共に花輪地方に至る運輸の機關を成してゐる。

三、中央山脈地方　鹿角、仙北、雨郡の界には凡そ三萬町歩、阿仁本川の上流地方に凡そ四萬町歩、小阿仁川の上流地方に六千町歩、河邊、南秋田郡界に亘れるもの凡そ一萬五千町歩、合計約十萬町歩の濶葉樹林鬱然として大古の面影を存すといはれてゐる。

四、中央横斷山脈地方並に脊梁山脈地方　子吉川の上流地方烏海山附近には凡そ一萬五千町歩の濶葉林ありて老樹繁茂し中には樹幹蟲々として美良なる「ブナ」の林相を有する部分あり。雄物川上流地方宮城縣界に於ける四萬町歩森林は少許の檜を混淆し、其蓄積甚だ大なり。其他岩手縣に亘りて六鄕町附近に約一萬

町歩の濶葉樹林あり、烏海山の南面高瀬川、日向川、相澤川等の流域に約三百町歩の濶葉樹林あり、田野開け運搬に便なり。之れに隣りて最上川の支流なる鮭川の流域には宮城縣に亘りて約五萬町歩の森林あり、最上平野を擁み奥羽線中央を縦斷し、運搬至便である。尚最上川の一支流にして宮城縣界よりする小國川の流域にも亦二萬五千町歩の濶葉樹林あり、陸羽横斷線は此森林を横貫し、現に布設中にして已に一部の開通を見たり。竣工の曉は利用其の度を増すに至るや明である。

五、内帶山脈地方　月山より朝日岳に亘り南北に蜿蜒たる内帶山脈を中心とする一圍の林地あり。西面赤川及立谷川流域に於て約六萬町歩、東面角川、大藏川、寒河江川、月布川、旭川等の流域に於て約六萬餘町歩、合計十二萬町歩の濶葉樹林あり。之等は山深く運搬便ならず。將來利用の餘地を存してゐる。

六、南部宮城縣界地方　南部宮城縣界をなせる脊梁山脈藏王山より舟形山に亘る地方を占領せる濶葉樹林あり、面積四萬町歩を有す。水陸兩者運搬の便あるも特に奥羽線其の西方を通ずるありて搬出頗る便利である。

縣名＼林野種別	要存置	不要存置	森林附屬地	計
山形	二九一、七〇〇町	三一、九三六、二三	一〇町 五八	三三三、六三七、〇三
秋田	五七、四四一、四二	五、二三四、五五	二三六、九二	四〇二、八二三、五一
岩手	二〇、二八七、四一	一九九、七八	九、一二	三〇、四九六、三〇
合計	〇九四八、六八	三七、三三〇、五五	一五六、六〇	七四六、九四五、八四

要存置林野は二角點を基礎とし細部を測量せるものにして正確なる面積である。

今要存置國有林野に分布せる林野面積を區分せば左の如くなる。

樹種別	面積	樹種別	面積
スギ純林	四三、三七三町	スギ、ネツコ混淆林	四三九、九八町
ヒバ純林	九六、二九	クリ純林	四四三、一四
ネツコ純林	四、三	クリ雜混淆林	二三五、五五
スギ、ヒバ混淆林	二、六九三、〇八	ケヤキ雜混淆林	三三、三

樹種別	面積	樹種別	面積
スギヒバネツコ混淆林	三九〇、四三町	除地	一四、一四〇、六町
其他針葉樹林	三、六四一、六五	スギネツコ雜混淆林	一、八三四、八七
スギ雜混淆林	四〇、七四二、三	ヒバ雜混淆	七、一四〇、三五
スギ雜混淆林	三、八〇五、五〇	ヒバネツコ雜混淆林	二、五三七、九七
ヒバスギネツコ雜混淆林	一、九三、〇三	其他針濶混淆林	一九八、六二
其他濶葉樹林	五三、三七、三六	計	一七、八四、七九
未立木地	三五、七五、〇三		七九、四六、六六

以上の面積に蓄積せる樹種別を擧くれば左の如くなる。

樹種	材積	樹種	材積
スキ	六一、一〇〇 九四石	針葉樹計	六八、四九九、六六四石
ヒバ	三、六一、五五二	ナナ	一、四一六、四七二
ツコ	九四四、八三五	ナラ	二、三〇二、〇四一
アカマツ	五〇九、七〇二	クリ	二三五、一四五
ヒメコマツ	一、〇一八、五九五	其他濶葉樹	一九五、五八七、六四七
ゴエウマツ	二四、二三〇	濶葉樹計	二六三、五二一、三〇五
其他針葉樹	一、二七九、八三	合計	三三、〇三〇、九六九

右表は大正三年度末現在の調査とす

◆施業

△施業の方針

管内現在の要存置國有林七十萬九千四百二十八町歩の蓄積は、針葉樹六千八百四十九萬九千石、濶葉樹一億六千三百五十三萬一千石、合計二億三千二百三萬石に達してゐる而して林相を改善し保續的の施業を經營し且つ國土の安定を期する方針の下に、明治三十二年以來順次施業案を編成し、已に殆ど其全部に對し完了を告げてゐる。今施業の方針を述ぶるに方り主なる作業法の二三を擧げれば左の如くなる。

作業級	面積	
スギ	一八六、五九九 五八町	連年皆伐喬林
スギ、ヒノキ、アカマツ、	三三、八五一、六二 同上	
スギ、ヒノキ、	二〇、二四八、四九 同上	
スギ、ヒノキ、カラマツ、ザツ	二〇、一五〇、九二 同上	
ケヤキ、シオジ、ホウ、ザツ	二〇、〇五四、三六 同上	
スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ、	一五、三八〇、五六 同上	
ヒノキ、アカマツ、	一四、〇三二、二五 同上	
各種樹木	三〇、二四四、六三	擇伐喬林
同上	二五、九六六、七四	矮林中林其他
合計	五六六、五五三、四四	

之が內譯は左記A表に依るべし。

即ち皆伐喬林作業級は概ね地勢急峻ならず、氣候穩和なる個所に在りて、針葉樹に在りては輪伐期百年、整理期八十年を標準とし、濶葉樹に有りては樹種に依り異なるも其大材を產するものに在りては百八十年を標準としてゐる。此等期間は民有地に比し稍長きが如きも、是れ國有林は多く澤山にして氣候荒き所に在るが故に林木の生長遲緩なるに加へ大材を產出するの目的に出でた樣である。而も國土保安上の關係を顧慮し、同作業級に於ても大面積の伐採更新を容る可からざる處は各個所の皆伐面積を十町步以下に制限してゐる。

擇伐作業級は主として地勢險阻氣候迂寒なる個所で專ら國土の保安上重要の個所である。輪伐期百二十年回歸年四十年を標準とし、直徑一尺以上の林木を擇伐する。然れども就中地勢較々緩斜にして地味肥沃なる個所は小面積の皆伐を行ひ跡地に造林を行ふことがある。

區分皆伐作業級は水源涵養其他保安上の目的を有する林地に施業するのであつて、元來擇伐作業を以て理想の施業法とするも實行の容易なるを尙び小面積の皆伐を行ひ、擇伐を實行すると同樣の効果を收めんとする方法である。而して其の折伐材積は總材積の三分一及五分の一を限度とする。

前更喬林、中林、矮林等の諸作業級は亦夫々適當の個所に在つて益々林況の改善せらる可きを期すべく以て合理の施業を行ふ蓋し百年の後同管內國有林は概ね改良せられ、林木の老幼別を正し、齡級の配置整然として土地の生產力は充分發揮せられ樹木の生長自ら期して待つべきである。而して此の時に至りて秋田を代表する杉は其の純林十九萬町步となりて其現在面積の五倍に近く、密林鬱々、巨幹森々空を摩するの偉觀は蓋し遠きにあらず。尙ほ杉、椹、櫪、落葉松及雜其の他の各種混淆林は十七萬餘町步となりて秋田杉の名聲永久に盡くる所なきと共に洽く必要の建築用材を生產すべく、又山形縣に於ては檜、柏、槲、朴 栃雜等の濶樹葉林は所

所杉、檜等針葉樹を雜へて有用の器具材及薪炭材を生産するであらう。而して大材を産出し且つ國の需用に應ずる諸種の工藝用材を生産するは國有林施業の目的であつて是れ實に國有林經營の本旨である。然れ共山形縣に濶葉樹あるに反し、秋田縣は杉を以て全土を蔽ふに至らば遂には杉材の供給過多を來し、且つ薪炭材の缺乏を告ぐるに至らんかの問題に付ては亦茲に一言いはなければならぬ。凡て科學の進歩發達と共に諸工藝の進歩するに從ひ、用途の廣き針葉樹は益々其需要を增加し、僅かに一部の用途に過ぎざる特殊材の森林は漸次針葉樹に換り行は當然にして、今日各國の林業の趨勢皆同轍なるか如く、殊に杉、檜は材質鮮麗木理通直にして工作容易なるが故に林木の覇王と稱すべく我國を措て他に求むべき限りでない。加之造林容易にして土地に對する要求も濶葉樹に比し少き反し其收穫は濶葉樹に比して更に大なるものあるが故に杉の造林は國家經濟上遙かに利益多きものなりとす。次に用材と燃料とは兩立すべからざるは勿論なりと雖も施業案は大体の計畫なり、作業種必ずしも其標榜する樹種の成立を容れざる個所がある。茲に於てか杉の作業級中に濶葉樹あり、濶葉樹作業級中杉樹林のあるに至るは必然なり。假令作業級の全体に杉が成立したりとするも其間伐材は以て燃料に供するを得べし故に燃料缺乏の問題は敢て憂ふるに足らず、即ち國有林が直接社會に必須の材料を供給し、永遠に保續の實を擧げると共に兼て國土の安全を保持すれども尙特に必要の個所には一層嚴密なる保安的作業をなし、以て水源を涵養し土砂を杆止し、其の他各保安の目的を遂行せり。然も諸種産業の發達と共に林地に對して要求する所亦鮮少ならず。即ち農地あり、牛馬の放牧地あり、生草肥料の採取地あるが如し。此等何れも必要の事故なるが故に林業の經營と調節を圖り以て其要求を滿足せしむるの要あり。茲に於て林地を割ち除地と爲し制限地となし、以て普通の施業地と區別して各々專ら其目的に供することゝせらる。

今施業案の事業區別に作業級其蓄積及び年伐額等を示せば左の如くなる。

但し輪伐齡（更新期、回歸期）整理期又は輪伐齡は既に前述せる如く本欄には之が事業區所屬の合算したるものを記して參考に資す。

A面積	蓄積		
作業級面積	施業制限地	合計	針葉樹	濶葉樹
五三、九三三、一九 町	二三、七九三、八 町	六七七、六五二、五三、八五七、一五五 石	二六一、〇九九、八三七 石

一ケ年の伐材額

主伐	間伐	計
面積	材積	面積	材積	材積
六、七二〇、六二 町	二、五二六、六二〇 石	一九九、九九 町	三二、八二 石	二、五五九、四八一 石

平均一町歩當の材積

主伐	間伐	計
三四、石	一四、石	四八、石

即ち平均一町歩の材料は主伐間伐を合しても僅かに四百八十八石に過ず然れども本邦隨一の誇とせる秋田杉の鄉土なりと稱する鬱蒼たる密林には流石に面積一町歩の杉蓄積連年皆伐喬林にして主伐のみにても二千六百八十六石又羽根山小仁區域同種材一千六百十三石に達す、更に仁鮒能代區にしても同杉の連年皆伐喬林一千五百七十三石を蓄積すると云ふ。

更に秋田大林區署管內に於て、最近五年間に處分せられたる立木並に製品の材積並に價格を表示せば左の如くなる。

製品處分

年度	甲材		薪材		合計	
	材積	價格	材積	價格	材積	價格
四三、	五七三、四二 石	五一七〇、〇 円	四一七、八七四 石	三一四、八 円	九九一、〇二五 石	六八九四八九 円
四四、	三一四、七四九	四八四〇、七	四〇六、七三八	三一、七一七	七二一、五二	五一六八〇二
四五、	二五四、七三	四〇八、九三〇	四五六、一二七	三七、八〇九	七一〇、九一〇	四四六、七三九
元年	三五〇、一一八	五五六、八八七	一、二一〇、八五三	一〇五、三五八	一、四六〇、九七一	六六二、二四五
二、	二六四、三三六	三四七、六六六	一、三四九、四五五	一〇二、九二七	一、六一三、六八	四五〇、五九三
三、	二五四、五五八	三四一、〇三七	一、三四九、四五五	一〇二、九二七	一、六一三、六八	四五〇、五九三
計	一、七五一、四五二	二、三四五、五五八	五、八三一、〇三七	三一二、三〇五	九、八四八九二	六、七五八、五八

年度	材積	價格	年度	材積	價格
四三、	八九五、七八二、三一四	八五五、四五四円	二、	六八四、一三四石	二、六三〇、一〇九円
四四、	九五三、六五三、〇三〇	一、四六一、五八九	三、	七七五、五八四	二、二六一、五八九
四五、元年	九二九、七五九、三一五	一、一五八、九二七	計	四、三五九、〇四三	三、三七七、九二七

△矸　伐

凡そ十數年以前に在りては林産物の大部分は林地に於て立木の儘賣却し、其傍杉材に就き小規模の官行矸伐造材を行ひたりしが、薪炭材の如き又其他稀に林地生立の儘賣却するを以て便利とする針葉樹の如きは立木の儘賣却し、其他は力めて官行を以て矸伐材を行ひ一定個所に搬出して廣く販賣するの方針を採り來れりと云ふ。因て今左に杉材の事業に付て順次說明をする

(1)**伐木**　矸伐は夏季又は冬季に於て實行す。夏季の矸伐は樹皮を利用し且つ木材の乾燥速にして材色鮮麗を增すの利あり冬季の矸伐は多少の不利あるも林地中の運材に積雪を利用し得べきが故に夏季に於ける運材に比し經濟上の利益あると、雪國の常に冬季勞働者の閑散に苦しむの時期なれば容易に勞働者を得るの便あり近時冬季伐採するものと、夏季伐採するものとは何れも同樣の便利あらん爲め、立皮剝と稱して夏季立木の儘にて皮剝を行ふこと多く地況及び其他操業の便否を査察して、林地によりては夏季に伐採し又は冬季に於て之をなすのである。

△造　材

木材の徑級は普通實間ものは九寸以下、尺乃至尺四寸、尺五寸乃至尺九寸及二尺以上の四級とし、二間材にありては四寸以下、五寸乃至七寸、八寸乃至九寸、尺乃至尺四寸及尺五寸以上の五級に分類すべし。而して之が最後の檢尺を行ひ、數量と材積とを明確にしたい。

更に造材の種類には丸太、寸甫の二種がある、丸太は甲乙丙種とし、甲種は長さ六尺五寸、乙種は十三尺五寸を主とし、關の東西何れの向にも適當する寸法に造材し其他特種の必要ある場合若くは注文等ある場合の外は特別長材を取ることなく甲種材は末口經一尺五寸以上のものなり、乙種は三寸以上より造材するを一般とする。寸甫は秋田獨得の造材法であつて、主として樽樽に供せられ。本木。大本木。二半木。四半木の各種ありて何れも木理通直にして枝節なき良材を選擇し、長さ七尺に切斷し鉈及楔等を利用し所謂密柑割を爲すものである。其兩邊の柾一尺一寸弦一尺二寸五分のものを本木と云ふ。兩邊八寸弦一尺五分のものを二半木と稱す。本木より大形のものを大本木と稱す。二半木より少なるものを四半木と云ふ。此種の材は其質良好にして內部に些の瑕疵なく且つ船積に最も便利なる形狀をなせるが爲め、從來特に高價にして移出材として賞讃せられたりや然れども三割內外の造材減りを生じ木材利用上不得策なるを以て右の造材法は漸次廢棄せられんとする傾向がある。

△**運材機關**

秋田縣北部に於ける米代川、南部に於ける雄物川共に主要國

有林であつて之れが運材は往昔は總て水運を利用せし爲め運材上特種の固定設備を要せざりしも、春秋の增水季節以外の時季に於ける運材の爲め、支流到る所木材を用て一種の堰堤を造り一時溪流を堰き止め水を滿へ、時機を見て開門を開き其の上下に散亂集團せる木材を放流する設備を爲す。然るに木材の流下の損傷を來し減耗を招くこと多く、往々灌漑設備と河岸とに損害を及ぼし、延いて土砂流出の爲め主川の水底を高むることあり。依つて最も安全敏速に多量の木材を運搬するの目的を以て數年前より漸次林道を開き其の多くは十二封度軌條を布設してゐる。尚ほ今後遂年主要國有林に地勢に容るす限り總ての陸運の設備を普及するの傾向なり。今既設軌條を擧げんに大雜區小阪鐵道二ツ屋驛より長木澤本流に沿ひて鐵道の布設距離四哩五分。能代仁鮒林道の（濁川に至る）鐵道約十一哩あり其他軌條のみにても已に百十余哩に及ぶ其他牛馬車步道等搬路の開拓は日を追て完成するであらう。



△運材の方法

溪谷に於ける檮出は青森大林區署に於けるも殆ど選ぶ處なしと雖も大低は之を細川小路より流下し網場に於て大筏を拵へ之が大筏にありては幅十四尺長さ八十四尺材積九十石内外なり乘組人員は普通二人である小筏は壹人乘とし幅七尺長さ四十二尺を普通とす尚ほ筏は組織と稱し扁平生狀に編みたる藁繩を用ひ竹木材の兩端を緊縛し、内尚ほ組衆を廻縛して木材林間の動搖を止むることあり、之れ等は普通の筏法通り、（杭）なりと雖も山間急流の地（内）に於ては特に注意を加へ之が損傷を防がなければならぬ、又長木澤國有林の如きは伐採量多大なり加ふるに搬道稍緩傾斜なるが爲め森林鐵道を布設し流罐車に依り運材を爲す。之れ等の森林鐵道は十二封度軌條にして四噸流罐車を使用してゐる。貯木尚ほ之が貯材は運材したる圓材を陸運に依るものと水運に依るものとを問はず、一定貯木場に搬出の上卷立を爲す。而し

て巻立は普通出材個所、樹種、品質の良否（上等疵）及び木材の長短大小に依りて區分すべし、之れが貯材設備は陸運に依る設備の進行に伴ひ尚擴張增設の見込であつて、現在に於ける主要なる場所を擧げて見ると。

小林區名	貯木場名	所在地	面積	摘要
大館	代野貯木場	長森上代野	三、〇〇〇坪	小阪鐵道代野驛に接續す
同上	二ツ屋貯木場	同上二ツ屋	七、二〇〇	小阪鐵道二ツ屋驛に接續す
早口	早口驛貯木場	早口村早口驛	二、八〇〇	岩瀬林道起點にして奥羽線早口驛に接續す
能代	仁鮒貯木場	鄉音村仁鮒	二、二〇〇	仁鮒鐵道の起點にして米代川畔にあり
同上	能代貯木場	能代港町	七、二〇〇	米代川岸能代小林區所在地電力捲上げ機一臺備付あり

以上五ヶ所の貯木場に堆積せる木材は大約壹百拾萬余石にして其他一小區の貯材場十五ヶ所之れが貯木約三十五萬石を有してゐる。

△木材の市場

管内國有林に於て毎年斫伐する杉材の大部分は米代川流域に屬し、一部は雄物川流域す。其他子吉川流域及山形縣新庄小林區部内生産に係るものあり又子吉川流域生産の分を除くの外殆ど全部奥羽線各驛之が主なる驛名は釜淵、境、秋田、鹿渡、能代、早口、大館、白澤、陣場等にして之等鐵道便に依りて各地に運搬せらる。民間よりの出材は遂年減少し現今にては殆ど計上するに足らざるものである。而して丸太の消費量最も多きは秋田縣能代港にして、秋田、大館、土崎之に亞くものなら更に能代港にありては大小十ヶ所の製材工場あり、特に秋田木材株式會社の如きは機械鋸約九十臺を据付け、一ヶ年の製材力約四十萬石、其他工場の製材力亦合計三十万石以上に達する尚之れに加ふに多數の手挽工場あり、木材の消費量莫大なりと雖も原料製産量に比し民間製材能力遙かに大なるを以て、各工場孰れも其製材力を充分に發揮する事不可能の狀況である。

亦秋田市には大小七ヶ所の製材工場を有し、其製能力二十餘石に達すべし、而して從來秋田市に於ける製材の大部分は土崎港を經て京阪地方に輸送されしが近來主客轉倒して陸運の量を增加し、土崎港を經て海運に依るもの漸次減少するに至れり。尚他の一部は直接東京方面に移出するものなり。近時長木澤國有林は鑛煙被害木の伐採量多數となりたるも漸次民間製材力著しく增大し能代秋田に亞ぐの市場となつてゐる。

尚ほ土崎港は從來能代港に次々木材市場として、仙北郡地方より流送せらるゝ木材多量となり秋田市より輸送せらるゝもの尠からず。製材工場亦大小四ヶ所を有し孰れも數臺の機械鋸を据付け關西地方への移出盛なりしも近時陸運の便大に開け且つ歐洲戰亂の爲め船舶の拂底と運賃の暴騰とにより、船運移出頓に量減じ又昔日の如くでない。



都市と建築

都市研究生

三十年後の大阪

（一）都市計畫と都市の將來

人間の智識を以て三十年後のことを推定するは事實上不可能であるであろう、若し推定したところで石龍子の人相を觀るよりも當てにならぬ場合が多いかも知れぬ、『一寸先きは暗夜』と言ふいろはだとへは千古の名言である。乍併吾人は其日其日を樂むと言ふ太古草昧の時代の人間ではないから、將來の爲めに何等かの畫策をなすの考を有つのも當然である。近代の文明國民が其都市の將來に對して色々の計畫をなす現時の大勢は、全く人文發達の標象にして、殊に最近五十年間世界の大都市が其驚くべき膨脹をなした爲めに破りつゝある苦痛を將來に殘さいらんとの一努力であると考へねばならぬ。而して此畫策を立つるにはどうしても將來數十年又は百數十年に亘る都市の進境を推定するを要するのであるから、吾人は今試みに大阪の三十年後の狀況を空中樓閣の如くに描き出して讀者の參考に供するのも必ずしも無駄事ではないの

である、其當ると當らぬは時世の變遷であるから致方なしとするも、可及的緻密なる推算を基礎として少しく判斷苦夢想して見たい。近來我國にも都市計畫熱の勃興し來りしは全く世界的潮流に自覺したる爲めであるが、之を一般的に見る時は都市の將來を推定することの理解力を有するもの未だ極めて少く、折角起り來りし此機運を實現するを妨ぐる處なしとも限らぬのである。中には百年の長計とは何事であるか時々刻々進み行く此の文明の世の中にたとへ十年後と雖も想像出來ぬではないないかと、しかるに百年後に差支なきような計畫を立つると言ふようなことは絕對に不可能である、若しかゝる計畫があるものとして之を實行したとすれば現在には全く不適當のものであつて到底認容すべきではないと唱へる人も少くない。此に於て吾人は大に力說するの必要を感ずるのである。

都市の建設は古來大低は失敗に終つて居るのである、中に就て最近四五十年來の都市大發展の此の現狀に對して適切なる建設を企て得たものは世界を通して寔に少數に過ぎなかつたのである。佛蘭西の巴里、北米合衆國の華盛頓、獨逸のデユッセルドルフ、澳他利の維那等は稍見るべき永遠計畫を確立したけれども、それとても若し此上過大なる膨脹をなす時は色々の不便を感ずるであらふと思はれる。現に現代文明都市の精華と見られて居る巴里の如きも其人口密度は一エーカー當り百二十五人に上り世界中人口の最稠密都市の一となり其市民の肺結核に斃るゝもの每年人口十萬に付き二十四五人の率を示し文明都市としては其衛生狀態が甚だしく低劣なることを知る時は今後更に大改造を企つるの時期が近づきつゝあると言ふことも出來る。又北米の華盛頓は一八八〇年代に其都市計畫を確立し現在に於ては甚だ整備せる文明的模範都市となつたけれども、今日まで約百年間其都市建築が一と通り街路の兩側に建て並ぶまでの荒蕪せる狀態は可なり久しく市民に不便不快を與へたであらふと思はれる。此等の事實を綜合すれば永遠の計畫なるものは大体に於て餘り賞讃

出來ないものであつて又同時に事實上不可能のものではないかとも論斷出來るのである。

乍併若し巴里が五十年前に其大改造計畫を企てなかつたならば、今日の整備せる巴里市街は現出しなかつたであらふし、又現時の華盛頓も其當時の必要の程度に建設したならば、今日は模範的の都市とはなり得なかつたであろふ。故に徹底的に永遠の發展に副ふべき都市を建設せんことは事實上不可能であり又其建設なるものも現代市民の勝ゆべからざることであるが、さればとて其日暮し式に姑息の建設に安んずる時は遂年其不便不利に惱まされ、遂には其都市の當然の發展を妨げ、社會の進歩をも害するに至るのであるから、吾人はなるべく其將來の發展に副ふべき彈力性に富む計畫を立案し、現時には最も小なる苦痛を與へ、しかも永遠の逐次の發展に副ひ得るように之を運用し行くことを理想とせねばならぬのである。要は其計畫の彈力性に富む積極案であることが最も須要なる條件であつて、其立案の基礎は其都市の數十年後の發展を見越したる推定にあることを知らねばならぬ。

(二) 三十年後の大阪の人口

今後三十年を經たる大正三十七年頃の大阪の人口は幾何に達するやは凡そ推定し得られるのであるが、此處に斷つて置きたいのは、其推定なるものは大阪の經濟狀態が凡て現時の活動力を逐次發展しつゝ進む場合を假定したのであつて、其途中に不測の大變化を生ずることは少しも打算しては居ないのである、故に大戰亂が勃發して兵火の巷となつたり、大震災火災に遭遇して再び起つことの出來ない狀態に逆轉することや、或は大發明及大偉人の力により雄大なる生產事業が隆起して一氣に人口大集中の趨勢を馴致したり、或は又帝都が此地に遷るの時期に際會したりすることは凡て考慮しては居ない。けれども實際にはそれ等の事柄は我大阪の地には今後數十年の間には凡て起り得る可能性を有することを知らねばならぬのである。

本誌に數次記載された如く我國都市の大震災や大火災は其可能率頗る大にして、現に安政元年の大平洋底の大地震は關西一帶に可なりの被害を與へたのであつた。それより數ふれば今日は星霜已に六十四年を經るが故に、近き將來には可なりの震災が襲來するを覺悟せねばならぬのである。大火災に至つては其可能率は常に吾人を惱ましつゝある程に危險性に富み、我大阪の富力も經濟活動力も一朝にして大滅殺の悲運に際會すること、何時出來せぬとも限らぬのである。

大阪遷都の議は明治の初年大久保甲東公によつて唱へられ、其後明治三十二年中橋德ヵ郎氏の提唱するあり、最近には木崎愛吉氏の大阪遷都の論文が發表された。此等は大体に於て社會を刺擊し得なかつたけれども、我國の地の利を研究する時は必ずしも之を空論と見做す譯にゆかないのである。吾人は東京が帝都である爲めに現在我國が一般經濟上又南方及滿韓經營上に受けつゝある損害の如何にも莫大なるに鑑みて將來の國都は幾內の平原にあるべきものではないかと考ふるものであるが、今此處にはそれを深く論ずることを避ける。

大發明を利用し又は偉人の大計畫等に依りて我大阪の附近は將來一大工業地となる可能性を有することは他諸都市の及ぶところではない。現代の都市大發展は主として大工業の背景に據るのであることを知るものは、斯かる可能性を有する都市は一氣に大發展の趨勢を提ふる場合を想像するであらふ。最近獨逸諸都市の發展の大變動を見ても其一端を知り得るのである、獨逸に於てウエストファリヤ地方の一工業都市たるボヒユーム市が一九一〇年に僅かに十三萬七千の人口を有せしに過ぎざりしが、戰前より戰時にかけて石炭と鐵の大生產に連れ其發展實に驚くべきものあり・現に其人口は七十六萬人を起へたのである。又クルップ工場を中心とするエッセン市の如きも人口十數萬を唱へたるは最近の事と覺ゆるに現在は已に五十六萬人を算する大都市となつたのである。其他紐育の最近の

大發展を見るも其原因は其偉大なる商取引のみならず、彼の生産力の著しき大發展に歸着するのであることを知らねばならぬ。紐育は今や三萬五千の大工場と七十萬人の職工を有し約二十五億圓以上の製品を産出するのであつて、最近又戰時工業の發展により更に更に其生産力を增すべき機運に到達して居るのである。

以上の如き各種の事情が我大阪の前途に横はるものと考ふる時は、其發展の屈曲は到底神ならぬ身の吾人の推定は許さぬのであるけれども それ等の事情が急速に襲來せぬものとして又逐次の漸進狀態が繼續するものと假定すれば、我大阪市は今後毎年の人口增殖は三萬六千人乃至四萬人と假定し得るのである。人口の增殖は其出産と死亡の差により生するものとすれば人口の增大するに從ひ其率は高まる筈なれども、大都市の人口增加は主として外來者によりて增大を致すのであるから、其增加率は大体に於て等差級數の率によるものと見るを至當とする。

六大都市の最近十年間の逐年人口增加數

	明治三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	大正元年	二年	三年
東京	九九、二〇五	九三、九五五	八三、二二五	三三、一〇八	五四五、〇三二	一八三、七二	一〇一、四七三	一〇二、七〇八	三三、三四〇	
大阪	四三、六九二	四七、六九三	五四、九八七	四五、六二七	一三、一八八	三四、七、六	三四、三〇九	五八、三一四	五六、九一五	六六、九八七
京都	二、二六八	一一、七七三	一一、四四三	三三、四一	二一、七八三	六、九八七	三、三一七	二一、〇九七	二一、六三五	三五、六八七
神戸	二四、八五五	二三、八二一	一七、七四一	一三、六五	一〇、七〇七	一四、〇一七	一三、四一七	一六、〇三九	九、三一八	九、四一五
名古屋	六、三七〇	八、七〇六	四七、一〇九	一九、四一三	一五、六一五	一四、八五五	一四、九六二	一四、六一二	二一、七三二	二一、三六四
横濱	二一、六四五	一六、六二	一九、〇三三	二三、九八六	一四、五六二	一三、一九八	二四 四〇九	一一、二〇五	五九、一四三	一四、六六四

大正三年に至るまで最近十年間の六大都市逐年增加數を平均する時は左の通りである。

東京	四四、六六四
大阪	三九、四六〇
京都	一四、七五八
神戸	一四、九九八
名古屋	一八、九三三
横濱	七、五〇三

大阪市の人口が今後三十年間に増加する數字は少くとも百萬以上百二十萬であることは大体に於て間違なかるべく、東京のそれは百二十萬乃至百三十萬、名古屋は五十萬乃至六十萬、京都は四十五萬、神戸は五十萬、横濱は二十萬の人口をそれ〳〵増加するものと見ることが出來る。之を紐育の最近一ケ年二十萬人の人口増殖に比べたならば殆んど見るに足らぬとも言はねばならぬのであるが、現在人口百五十萬の我大阪市に更に數萬のものが毎年増加すると言ふことや、三十年後に約倍數の二百七十萬の人口を包擁するに至ることを考ふると、吾人は我都市の行末に對して漠然之を見送る譯にゆかぬのである。況してや我國の諸大市中我大阪市は將來幾年かの後に急速大發展の機會の到達に於て最も優勢の可能性を有するを信せしむる狀況にあるを知る時は、我大阪の將來を推測することの最大重要事なるを感せずには居られぬのである。

三十年後の六大都市人口推定表

	現在大正三年	大正三十三年
東京	二、一〇〇、三〇七人	三、五〇〇、〇〇〇人乃至三、八〇〇、〇〇〇人
大阪	一、四二四、五九六	二、六〇〇、〇〇〇乃至三、〇〇〇、〇〇〇
京都	五一七、三四	一、〇〇〇、〇〇〇乃至一、二〇〇、〇〇〇
神戸	四五七、一二六	一、〇〇〇、〇〇〇乃至一、三〇〇、〇〇〇
名古屋	四六九、三一五	一、〇〇〇、〇〇〇乃至一、三〇〇、〇〇〇
横濱	四二〇、七五五	六〇〇、〇〇〇乃至　八〇〇、〇〇〇

現在の我國の市は一京都市を除きては其他に凡て其周圍を包繞する接續町村を除外して其施政をなしつゝあれども、將來の都市を論ずるものは其接續せる町村は全部之を其市に編入して一箇の組織の中に之を編成すべきものであるから、以上の人口推定表は凡てそれを加算した積りである。

（因に以上の現在人口數は主として内閣統計局の統計年鑑及大阪市統計書に依りたるもの

なれども精確のものと言ふ能はざるを遺憾とす、本年初めて國勢調査局の新設されたるあり、幾年かの後には正確なるセンサスを得ることゝ信ず。）

（三）大阪市の地域

現在の大阪市は其廣袤三、七九方里（約千七百六十八萬坪）にして東西の延長二里十九町、南北二里二十四町に迨び。西は大阪灣に臨みて天然に際涯を有すれども南北東共に一望の平原に連り思ふまゝに延長するに任すのであるから、大阪市の地域が將來如何に擴大さるゝかを心配するの要はないのである。併し今假りに其擴大さるゝ順序を想定すれば、都市發展の原則により交通の便利大なる方面に最も著しく延長擴大するの虞あるに依り、豫め其發展の平均的增進を計るの要がある。殊に都市發展の最大要件たる製造工場の新設擴張と職工の增加に伴ひ、其工場地帶と住居區域とを豫め確定し置くの要あるに拘てゝ加へて在來の工場、倉庫及住宅地の整理を要するもの又鮮くないのである。此等の事情を考ふると大阪市は膨脹するに從い其必要に應じて漸次其東北南の三方に隨意に延長すれば足れりと言ふような舊來の遣り方は斷然排斥せねばならぬのである。

今試みに現在の大阪市の實狀を觀察するに、必要に迫り漸次外方に擴がりつゝ其輪廓を大きくした爲めに、從來は市外郊地帶に陣取りし貧民部落も漸次に周圍を包圍されて、今は其周圍を大通りにて取圍つて居る場所も鮮くないのである。恰かもサンドウキツチ式に一般中流の程度の住宅區と窮民住宅區域と相交錯しつゝあるはまだしも、古き時分は全くの郊外地なりし爲めに工場を建設せし場所も今は周圍は全く人家稠密の巷となり、工場自身も其擴張や貨物の出入に困却し、周圍の住宅區域も亦煤煙その他の不利益を受けつゝあるの例は甚だ多いのである若し將來漸次大發展をなすべき運命を有する都市が、現時の如き不秩序亂雜を其儘の發達に委棄し置くならば、それこそ其結果や恐るべきも

のあるを覺悟せねばならぬ。

大阪の人口が三百萬に達する時の其地域は少くとも十平方里即ち四千六百六十六萬坪を要するのである。今試みに世界の都市が其人口と幾何の比例に其面積を所有するかを見るに。

	一エーカーに於ける人口	人口（主として一九二一年のもの我國の都市は大正三年）
巴里	一四八人	二、八四七千人
伯林	一三三	二、〇八二
東京	一一一	二、一〇〇
大阪	九八	一、四二四
マルセーユ	八七	五二八
倫敦市	六〇	四、五二一
京都	五九	五一七
リオン	五二	五二三
神戸	五〇	四五七
名古屋	四六	四六九
横濱	四五	四一〇
リバプール	三六	七六〇
漢堡	三三	一、〇〇六
ライプチッヒ	三二	六一五
バルチモア	三〇	五七九
紐育（ブルークリンを含む）	二八	五、三三三
ミューニッヒ	二七	六三六
ボストン	二七	七三三

等にして、其最も模範的と稱せらるゝ華盛頓に於ては一エーカーの人口は僅かに九人を算するに過ぎず、又獨乙の模範都市ヂユッセルドルフ市に於ては一エーカー十五人の比例であるに見ても、世界各國の都市は人口の極端の稠密を避けることに努力しつゝあるを知ることが出來る。固より商業中樞地域にては地積の利用は經濟上十分に之を認めるを要すれども、都市民全体の生活を狹少する容積に押し込めることは全然不可である。近代科學の力は都市の面積の廣くなることを餘り苦痛とせざるまでに進歩したのであるから、吾人は將來の都市建設には其地積を十分に餘裕あるよう計畫せねばならぬのである、今此處には何故に都市は其地積に餘裕あらしめねばならぬかに付きては論評をせざれども交通、衛生、其他都市の共同生活の問題は狹隘窮屈の地積にては決して完全なる解決法を見出し得ないことを考ふれば、將來我國の都市に或

る程度以上の廣袤を要求するのは必ずしも無法な空論ではない筈である。

我大阪市は其將來の爲めに少くとも十平方里以上を其範圍に置かねばならぬ。さすれば三百萬人の人口に達した時に其地積一エーカーに付き八十人の割合になるのである、又人口二百萬人の時に漸く五十三人位の比例になるに過ぎない。之を歐米の都市に比較すればまだまだ不充分のようにも感ぜられるけれども、地帶の制定交通機關の擴梅等宜しきを得れば必ずしも理想に遠きものと言ふ程のものではなく文明都市として十分に其價値を發揮し得られることは出來るであらふ。

（未完）

救濟事業調査會と都市計畫調査會

都市計畫調査會の新設に就ては本誌前號にも其經過を報告し置きたるのみならず、其事業の方面及其研究すべき事項に就きては本誌毎號に於て其部分に觸れざるはないのである。而して其調査も愈本月より着手さるゝに至りたるは吾人の最も愉快に感ずるところである。然るに最近に設置されたる救濟事業調査會は其研究事項の如何なるものなるやは餘り一般に知れ渡り居らざるやに思はるゝに依り、此處に其梗概を述べて其徹底せんことを慫慂し、都市計畫調査會と相俟つて社會政策の解決に努めねばならぬことを論じて見たい。

救濟事業は之を分つて消極と積極とに大別することが出來る。消極的施設とは各種の慈善的行爲及びそれより出發する慈善的施設を謂ふのであつて、俗に救貧とか救恤とか或は感化事業

と名付けらるゝ部類のものである。之を例に就て言へば窮民を公營長家に收容するとか、免囚を保護するとか、無料診斷、職業案內、施療院經營等其施設頗る廣汎に涉るのである。積極的方策とは俗に防貧と唱ふる方面に屬し、勞働保險法、住宅法、保健法、或は養老年金制度等を意味するのである。從來我國に於て不徹底ながらも行はれ來つた事項は凡て消極的救濟事業に屬し、積極的の方策に就ては唯二三の學者の議論に止まり、未だ政治家の頭腦を刺擊するまでに至らなかつたのである。

消極的の救濟事業は人道上より又同胞相助くると言ふ惻隱の心より發露するのであるから、何處までもそれを普からしめることは、文明國民としての當然の義務でなくてはならぬのである。即ち各種の慈惠病院や、窮民救恤、孤兒養育、盲唖院等の施設は文明國の都市としては必ず之を具備して居なければならぬのである。乍併之を深く觀察する時は、それ等の施設は唯一部の落伍者救恤の意味より外に一步をも出てぬのであつて、或る場合には社會の生存競爭に落伍するも第三者の救恤を受くる權利ある如く思はしむる嫌なきにあらず、故に消極的の救濟事業は之を國家の大勢より見て餘り深く其施設を奬勵すべきものではないのである。

現代の如き激烈なる生存競爭に處するには、社會の大部は何時如何なる機會に落伍の悲運に到着するかも知れぬことを覺悟せねばならぬ、斯かる覺悟の前には常に何等かの保証を得るにあらざれば吾人は一日も安心して事務や勞働に從事することは出來ぬのである。所謂社會主義の思想の發端は其處にあることを考ふれば是又寔に無理からぬ希望と言はねばならぬ。歐米各國の文明國は主として其國民一般に普く安心を得せしめん爲めに、各種の積極的救濟事業を國家の施設として質實に之を實施しつゝあるを見るのである。其効果及び施設の屈曲に就ては今此處にそれを敷衍するの餘白を有たぬけれども其施設の動機及其實行の急切なるはたゞに獨り歐米の國家のみと言ふ譯にゆかない。今や我國

の凡ての事情は世界文明の潮流に沿ひ、世界的競爭に臨みつゝある以上唯單純なる消極的救濟事業にのみ沒頭せず、進んで積極的に民衆一般を安心せしべき社會政策の研究と其實施を急がねばならぬのである。

最近設置されたる救濟事業調査會の如きは正さに此意味に於て國家急切の問題に觸るゝのであるから、委員各位は十分に徹底せる心眼を開きて其急切なる部分より之を物出して、一刻も早く其斷定案を作り、之を國法となすべく努力せられんとを望まざるを得ない。若し唯學理的に又歐米の事情探求に時日を遷延し、永久的の著書編纂の如き態度にて悠々此問題を取扱はるゝならば、吾人は大に其怠慢を咎めねばならぬ今や我國の社會の狀態は積極的救濟事業施設の急要を告げつゝあり、一日の遷延は至大の害毒を殘すの虞なきにあらず、社會一般の先覺者も委員の後援又は助言者として十分に此問題に就きての意見を吐露すべき時機ではないかと思はれる。

積極的救濟事業の最大なるものを保健的施設とする。保健的施設は公衆衛生法、結核豫防法等を始め都市の上下水道の完備するを前提すれども。其最後の適切の問題は住居の改良であることを知らねばならぬ。社會の共同生活をして圓滿に且つ有効に進歩せしむるには一般住居の改良は各種の問題の基礎をなすのであつて、家庭の平和幸福及其健康を保証する最大の根據は結局住居であると言ふことに歸するのである。

悲慘なる生活、望み少き渡世、自暴自棄其他社會の最大多數が陷り易きあらゆる生活難に對する最良の解決法は清潔、便利、經濟の三點に於て申分なき住居を得せしめることである。若し不潔にして陰鬱窮屈なる不便勝ち且つ不經濟なる住居に押し込められゝ大多數のものが、吾大都市を形造るものとすれば、時々刻々進展するこの經濟活動の急迫の爲めに如何なる精神的結果を起すか又如何なる生理的成績に達するかは約そ想像出來ぬことはないのである。

都市改良計畫は一面に於て都市將來の大發展

を見越して、其交通利便に資する方策を樹立すると同時に、都市民の健康向上と合理的の安全なる生計を營ましめることを其最高目的とするのである。此の意味に於て積極的救濟事業と都市の保健法や住居政策は全く相一致するのである。社會政策と都市計畫とが最後に於て同一の問題に逢着するのは此住居政策と保健法であることを此處に明了にして置きたい。

歐米各國に於ては住居建物公營を實施するか又は公許の經營を實施せざるなく、其最も徹底的立法を有するは英國にして公營の經驗に於ても其成績に於ても可なり成績を擧げて居る。一八八九年に住居法が議會を通過して以來其投資したる資本は一億萬圓にも達したのである。而して同國に於て實施さるゝ各種の社會政策の中に就て最も成績を擧げつゝ、しかも國庫に累を及ぼして居ないのは、唯此の政策のみである。

近時紐育に於て其職工集中により陷りつゝある困難を救はん爲めに、一億萬圓餘を支出して二十五萬人を收容し得る程度の住宅經營を計畫したと傳へられて居る。今は世界各國凡て住宅經營を畫策せざるにないと言ふも過言でない。此等事實を凡て對岸の問題であると見るものは我國の現時の一般社會狀態が漸次窮迫しつゝあるを知らざるものである。吾人は救濟事業調査會の各委員が一刻も早く此の問題に觸れんことを希望して已まない。

都市計畫調査會の經過

其成立の久しく鶴首されし都市計畫調査會は愈去る六月二十九日官報を以て委員の任命され

て、此處に世人の期待を滿足せしめたのである。其顏觸れは吾人の希望せし如く各省の代表者、

內務省各局長、警視總監、東京府知事、同市長衛生工學者中島鋭治氏、衛生學者緒方正規氏、土木工學者近藤虎五郎氏、大阪市理事者代表者關一氏、都市法律學者松岡均平氏、東京商業會議所會頭藤山雷太氏及建築學會副會長佐野利器氏と吾協會理事長片岡安氏とにして總數二十四名、定數に滿ちて空席なき爲めか、臨時委員として更に衛生學者北里柴三郎氏、法律學者渡邊鐵藏氏、大藏技師矢橋賢吉氏及都市協會幹事藤原俊雄氏の四名を加へ全總數實に二十八名、之に會長としての內務大臣と幹事たる池田都市計畫課長を加ふれは實に三十名の大會議をなす御膳立である。

第一の會合は本月八日午后內務省內の會議室に開かれ、壁頭會長水野內相より一場の挨拶ありて、都市計畫の緊急問題にしてしかも甚だ難解の事柄なるゆへ、委員各位の各方面に亘れる豐富なる學殖經驗によりて、其適切なる方策を見出すこと努力したき旨を述べ、引續き調査會議事規則を討議し、原案たる一般の議事風の細則を可決した後、會長より殊に注意ありたるは其討議の方法をなるべく議事体に流れず、懇談陳述的になるべく御互の意見の發表に重きを置きたきを希望されしは、大に吾人の意を得たるところであつた。

當日は四五名の欠席ありたる外委員全部の出席あり、原案たる調査要綱に關して討議を始めたるに、其項目の修正及變更等可なり議論ありたる後、井上委員より特別委員を選びて詳密に其等の項目を審議せしめては如何との動議あり贊成者續々現はれて其可否を問ふに至つて右動議は多數に依つて承認され、其委員選定は會長一任と決して散會。

特別委員は左の九名にして翌九日午前九時內務省に參集して右調査要綱の審議をなし、下記の項目を議決し、更に期限條件として今後なるべく早く都市計畫法、都市建築法及市場法の立案を作成して本會に諮問されんことを望む旨を付け加ふることゝした。

特別委員。內田遞信次官、井上東京府知事、

小橋內務次官、杉山衛生局長、關大阪市助役、藤山商業會議所會頭、渡邊法科大學敎授、佐野工科大學敎授及片岡本會理事長。

調査要綱ニ關スル件

都市及其附近町村ニシテ社會上及經濟上一体ヲ構成スベキ地域ニ對シ交通、衛生、警察、經濟等ノ見地ヨリ永遠ニ亘リ公共ノ安寧ヲ維持シ福利ヲ增進スヘキ各種ノ施設ニ關スル重要ナル計畫ヲ確立スルヲ以テ都市計畫ノ要旨トス、其ノ調査要綱左ノ如シ

第一 計畫地域ヲ豫定スルコト

各都市及附近町村ノ狀勢ニ鑑ミ都市計畫ヲ實行スヘキ地域ヲ豫定シ且大体ニ於テ住居地域、商業地域、工業地域其ノ他ノ地域ヲ區別シ將來ノ施設ニ對シ據ルヘキ基準ヲ設クルヲ要ス

第二 交通組織ヲ整備スルコト

道路、軌道、鐵道、運河、河川及港灣等水陸交通ニ關スル諸般ノ調査ヲ遂ケ完全ナル交通組織ヲ整備スルヲ要ス

第三 建築ニ關スル制限ヲ設クルコト

街路ノ系統及地域ノ種類等ニ應シ各種建設物ヲシテ一定ノ制限ニ依ラシムルヲ要ス

第四 公共的施設ヲ完備スルコト

上下水道、學校、圖書館、公園、廣場、市場、屠場、墓地、火葬場等各種都市經營上重要ナル施設ニ關シ都市發達ノ趨勢ニ對應スルノ規模計畫及其ノ配置ニ付企畫スルヲ要ス

第五 路上工作物及地下埋設物ノ整理方針ヲ定ムルコト

街路交通上ノ障害ヲ除去シ各種工作物ノ効用ヲ保全スル爲電柱、鐵管其ノ他各種工作物ノ整理方針ヲ定ムルヲ要ス

第六 本案ヲ實行スル爲必要ナル諸般ノ法制及之カ財源ヲ調査スルコト

十日午後一時半本會議開會、水野內相會長席に就き直ちに議事に入る、內田委員は特別委員會の委員長として前述の要綱議了の經過を說明し、合せて希望條件をも報告して其承認を求めた。要綱の項目に就きては大したる議論なかりしも、特別委員會の希望條件を單に委員會に報

告し置くか或は決議となすか或は又建議として關係大臣へ建議するかの問題起り、殊に市場法に關しては農商務次官たる上山委員は特に其不必要なるを唱へて其徹回を求められ、數回問答の結果市場に關する件と修正して會の決議となした。

要するに本會議に於ては上記の調査要綱を議了し、希望條件を決議して其終了を告げたのである。今後の會合及調査方針は更に會長手許にて研究の上更に通告をなす手筈となつた。

吾人をして本調査會の今後の方針に對して希望を言はしむれば、都市計畫法の立案と都市建築法規の調査を急速に運ふを以て最も重大なる問題とせねばならぬのである。現時の大都市の交通組織を計畫することは最大重要の事柄であるけれども、其法律上の權能は已に確立し居れば、問題は主として其設計の好良適切なるや否やに存すれども、都市建築制限の方法に至つては其國法としての權利が少しも認められて居ないのであるから、其成立が急要であるだけそれだけ其反對が恐ろしいのである。建築制限に就て未だ何等の拘束をも受けさりし吾國民は果して無事に其法規を認めるや否やは甚しき疑問である。たとへ其法規が都市の發展上又改良の爲めに絶對に心要の事柄であつても、兎に角或る程度まで其成立を妨げんとする態度が生し易い嫌があると見ねばならぬ。吾人に其機運に先を制する爲め又圓滿なる理解を得る爲めには、常に社會の各方面の人達の意見に問ひ又彼等に適切なる說明を試みて十分に其理解を計らねばならぬのである。

建築法規の立案には二樣の方法があるように思はれる、一は內務省內の都市計畫課に於て立案して之を調査會の特別委員會に計り、其修正案を本會議に提出さるの方法にして、他は調査會內に特別委員會を組織して其立案をなし之を本委員會に報告するのである、二者何れも得失ありて何れを良しとする譯にはゆかざれども、何れにしても其立案の材料にはあらゆる經驗家の意見を蒐集し、現時に我國の都市をして一刻

も早く火災の甚しき危險率より免がれしめ、合せて將來の經濟發展に支障なからしむるを其根本とせねばならぬ。吾人は我調査會長たる水野內相の此緊張せる都市改良熱の勃興を十分に利導されんことを望むと同時に、此根本問題の敷衍に忠實ならんことを期待さるものである。

◆識者の責務◆

我邦の細民狀態及び救濟事業に就て之を見るに、前者に在りては其慘狀幸にして未だ泰西諸國の如く甚しからず、後者に在りては東西兩者の差異實に霄壤も啻ならざるものがある。最近の調査によれば本邦に於て廢疾、老衰、疾病幼弱及び棄兒等にて、國費及び公費の下に救助せらるゝものは、明治四十一年度の年末現在に於て被救助者の員數總計一萬一千餘人、之に要せし金額總計二十五萬圓、四十二年度に於ては其員數總計五千四百餘人、其金額只僅かに十一萬六千餘圓を支出せるに過ぎぬ、故に今之を英佛公費救助額に比すれば、實に九牛の一毛だにも及ばざるものあるに因ならんも、而も其主なる原因としては民法上扶養義務の範圍の廣さと、古來より遵奉せる家族制度の美風に歸せざるを得ない。故に此の兩者の存する限りは今後と雖も泰西諸國の如き多額の資金を救貧事業に要せざるは明かである、されど一歩を進めて之を考ふるに逐年細民の數著しく增加し、生活難、居住難を訴ふる者益々多きを加ふるは自然の勢なれば、公費救濟の狀況も亦永く現在の狀態を維持し得べしとは信ずることが出來ぬ。縱令泰西の如き甚しき程度に達せざるにせよ、之が防遏の道を講じて未雨に牖戶を綢繆するは識者の責務である。

（細民と救濟＝生江孝之氏著）



亞米利加の田園住宅

（アーキテクチュラルレード（十月號）エー、デー、ハミン氏記述所載）
會員　谷本多喜治譯

平面圖に就いて

（一）

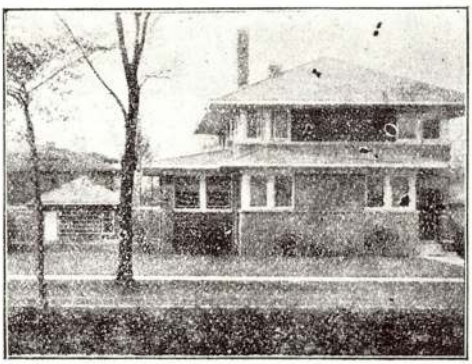
『田園住宅』と申せば建築術語の上に可なり廣い範圍を包合する樣である。單純な「平屋（バンガロー）」や「村舍（コッテージ）」から上は貴族の「別邸（メーンアンドハウス）」或は「田莊（カントリーシート）」に至る迄色々の種類迄をも含んで居る。これは兎に角豪快な氣の大きな亞米利加人の癖である英國にては寧ろ一般には可なり廣い田園に在る大きな邸宅を指してゐる、御主人公は都會に住むよりも年内の大半は此處に暮さる樣である。處が吾々の國では大となく小となく田舍にある住宅ならば、たとへそれが郊外に離れた見窄らしい建物で倫敦の市民が時々「離れ家」と稱するものでも又市内の打開いた地所に建てられた建物にも此の名を冠らせる、例へば挿圖のエハストンの「貸屋（ツインハウス）」の樣なものにもさうである。

田園住宅の平面圖を研究する前に其程度を區別してかゝらねばならぬ。其簡單なものは家族丈住んでゐて時には下部も一人位は使つてゐるもの、今少し程度が上ると下男下女の幾人かを置いてゐる有福な家庭、それから上になると別墅（ヴィラ）だとか田莊（カントリーシート）とか邸宅（パレス）とかであるが（人によつて名の付け方は違ふが）金滿家であつて價格などは問題にせず、寧ろ贅澤を喜んで、社交上や趣味上の要求の多い家庭になる。

大体以上の三階級はあるが、其平面圖から觀察すると共通な要求はあるけれども主要な大切な部分よりは主に其數と大さと程度とによつて

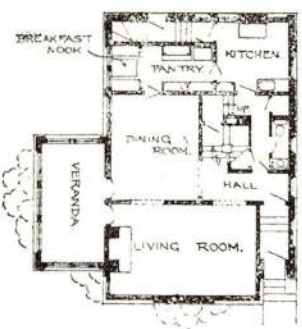
定まる樣である。

銀行の社員や學校の先生達の住宅には邸宅や別墅と稱すべき階級の大切な要素の初芽が見へる。玄關や出入口、內玄關、廣間、階級、居間食堂、臺所、肉房、寢室、及浴室此等必要な各室は田莊にも邸宅にも設けられてゐる。（第一圖）多くの小宅の玄關や、屋根裏室や裏階段や裏口などは「田舍邸」としての下部屋の稍簡單にした形である。富者は食堂と一所に朝食堂を設けて居る肉房と一所と洗場を備へてゐる。居間としては音樂室、圖書室、事務室等を設け、其他寢室を澤山に取りて又浴室や乳母室や納戸や



第一圖

裁縫室や物置等を備へてゐるが此等は畢竟小住宅の膨脹し重復したのものである。中庭のある下部屋即ち洗濯場や馬小屋や馬車置場納屋等を含んだ方面は小住宅に在つては家守の裏庭や道具部屋や納屋の發達したものである。今日では小さな住宅でも自轉車か、馬車を持つて居るし富豪の七千五百弗の Limousine でも商店の番頭の持つて居る四百五十弗の flivver でも大した變りはない。



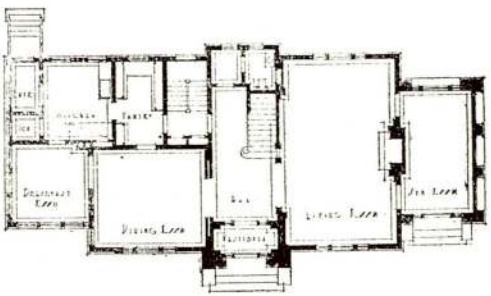
第二圖

高價なジャコビアン式或はコロニアル式の田莊の平面圖も要するに單純な田園住宅の膨脹し發達したものと見て差支はない。

今勘定は拔として bungalow（これは東洋流の名であるが今では明かに亞米利加の特有物であるが）の如きは亞米利加の小住宅の標準的特

質を持つて居るが大体に於て次の様な平面圖形をなしてゐる。

壹階―玄關、階段室、居間、客間、食堂、肉房、臺所之れに附屬して洗濯場穴倉への階段便所二三ヶ所又時には裏出入口右の外に圖書室、二三の出窓（ベイウインドウ）、出樑（ピアツア）、煖爐と厨爐の煙突が合計一二ヶ所



第三圖

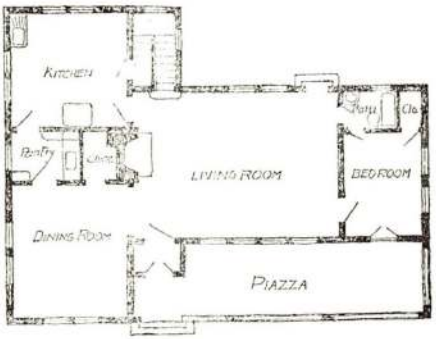
（第二圖及第三圖）

貳階―（英國では 1st Floor と云ふ）寢室三四室之れに附屬して可なりの戸棚と浴室一二ヶ所裁縫室、布戸棚、雜戸棚、裏階段等は普通にはなし、寢室の或物には煖爐があるが、煖房としては熱空氣、蒸氣或は熱湯等の設備を地下室に設く、電燈設備は今日では田舍でも普通であり、又屋根裏に一二室を有す。

此等の配置については吾々は珍らしくはないけれども、英國や其他の歐洲の同等の住宅とは多少異なつてゐる、亞米利加人にとりて不思議にならぬのは彼等の住宅に戸棚と出樑（ピアツツタ）のないことである。又階段室は廣くて色々に使はれてゐるが多くの亞米利加の住宅は寧ろ狹い位である亞米利加の肉房は butler's pantry と呼はれて重要視してゐるが、歐風のは臺所に從屬してゐるのみならず食堂から大分離れてゐる。主要部の各室は亞米利加流の戸棚のないのが大分異つてゐる。英國流では便所と浴室を區分してゐるがこれは亞米利加でも行はれて來た。玄關の廣々と室として使はれてゐるのは此處では普通となつて Sleeping Porch と稱へられてゐるが、彼地にては實際に使はない。英國では各室を閉込むのを喜んでゐるが、此處では階下の各室は庭から出入を自由にし、出入口も兩開に大きくなつ

て居るが、これは社交上の理由から吾々は開放してゐる。亞米利加の小住宅では勞力の經濟を重んじ各自の家事上の動作の簡便を主とし、平面圖の簡單を喜び器械的の利便を好むために物質的安易のための研究を積んでゐる。

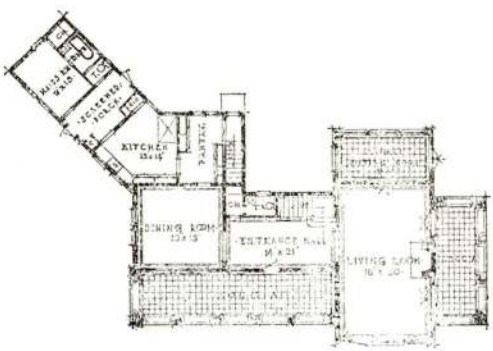
バンカロー式（第四圖）に在つては特に此等の點に工夫を凝らし、各出入口に關連して空間（スペース）の注意深い經濟を計るに努力してゐる、各室といふても一屋に多くて二室位であるが、主階の室として居間が一つそれに食堂と階段室が附屬してあるが主婦の歩の運びを僅少にするため、ピッタリ扉を閉め込まぬ樣にして且つ自由に往來する樣に出來てゐる



第四圖

（二）

第二級の住宅に在つては前述の小住宅の膨脹したものである。階段室は稍大きく二階建となつて來る、其巾も廣く立派である、平面圖は從つて多少餘裕が出來家の形体も延び〳〵して來る（第五圖）外形は出窓や女關や凸出して不規則となる、畢竟色々の部分が追加（サンルーム）されて來たのである。即ち日當のよい室、音樂室、圖書室、納戸（デン）及び球戲室等（ビリヤード）が加はる、下部には別に食堂と出入口と廊下が當かはれる、出縁は時として中々立派な威嚴を備へて來る屋根裏には三四室を設け Sleeping Porch（第六圖）などが備へられ

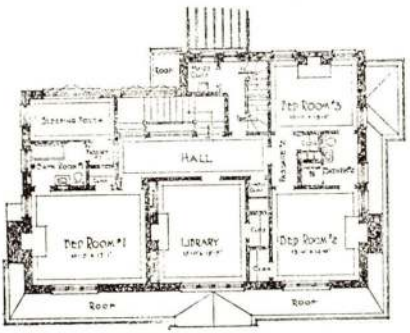


第五圖

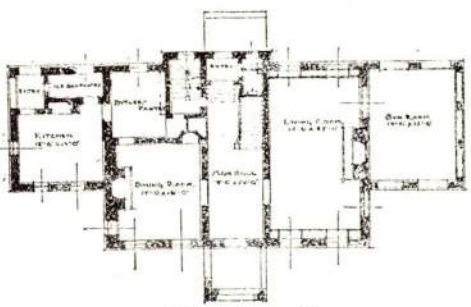
る、此種のものに在つては相當な器械的設備を整へられ電燈、煖房、掃除具や煽風器などを設けてゐる、浴室は增し、下婢にも一つ浴室を與へられ、豪所の部分は大分に擴張されて居る、

コロニアル式の平面圖は大低左右均等の外形を備へ、然らざるものでも主要部丈は立派にしてある（第七圖）不規則な平面形を有するものは極稀であるがそれは其場合ハ都合と方位の關係から止むを得ぬ場合に限られてゐる、

（第八圖）此等の關係の拘束のない場合に特別の趣好や主人公の趣味から割り出されたものに在つはて均等のものより外觀頗る興味あるものとなるが（第九圖）これ等のものは市中では一寸困難である、敷地が充分であつても田舍に建てる場合とは比較にならぬ、蓋し市中に在つては街路に接する部分の臨劃と多少拘束せられる平面形とから外觀は田舍の場合の樣に全く自由ではないからである。此の點から觀て郊外の住宅でも市內に在つても都合のよいのはコロニアル式のものであるが他の型では一寸適合しない。田舍の小住宅に就いては建築家は堅い型よりも却つて軟かい外觀を保たしめやうと苦心もし、又手腕を示さうとしてゐるのである。價格の經濟といふ點從つて其空間（スペース）の利用といふことに絕へず工夫を凝らし簡單な材料と僅かの資力とから趣味ある作品を得やうと努力してゐるのである。便利と慰安といふ點は



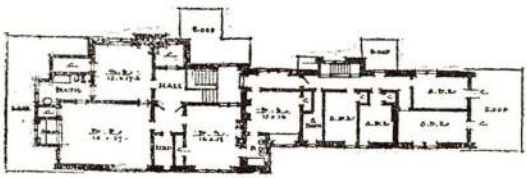
第六圖


第七圖

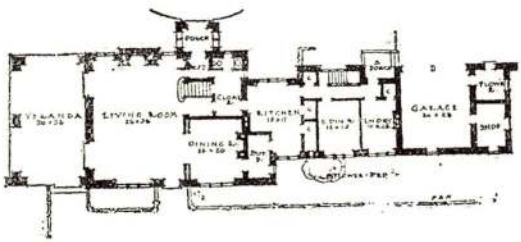
樹木の按配よりも大切である、まして華麗などゝいふ事は問題外である。斯様な條件の多くて大した重要でない問題に在つても建築家は其手腕を振ふことが出來る、乍然彼等の數多の想像力も氣の毒ながら價格や大さの制限から中折するの憂がある。

（三）

金滿家の要求する堂々たる邸宅に在つては建築家の最も喜ぶ處で大きさに對する難かしい要求から全く離れてゐるからである。大富豪の田莊のプランニングに就いてはそれが太平洋岸に建てられ様がニウジャーシーの丘の上でも森林と岩壁から成立つて居るニウインングランドの海岸なりとも大した苦にならない。唯小住宅の平面に關しては問題にならなかつた二つの要件が入用となつて來た、それは堂々たる外裝と之れに適應した周圍林泉の配置である設計者の美的想像力の双翼は出來る丈延はすことが出來やうし誠に仕合せなる運命の順風に乘じて（或諧謔の上手な建築家が「百萬圓風」だと叫んだ）其手腕を示すことが出來る。其他の要件となると大きな邸宅も小さな住宅も大した變りはない廣間、階段室、居間、食堂、及寢室等自由に配置することが出來る、下男下女の人數が增加するから勞力運歩の經濟など、申す問題は消滅してしまふ。充分な場所と工費とから各室は大きさも形も極自由であるし、庭園の敷置も都合よく出來る（第十圖）。建築様式といふ點も此度は重要な問題となつて來る、

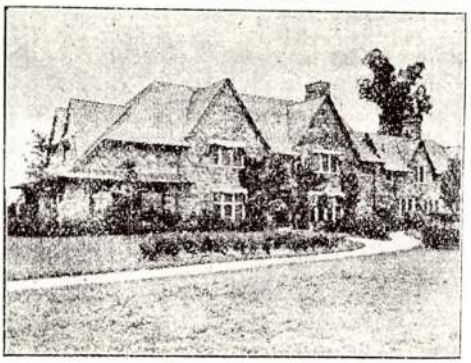


第八圖

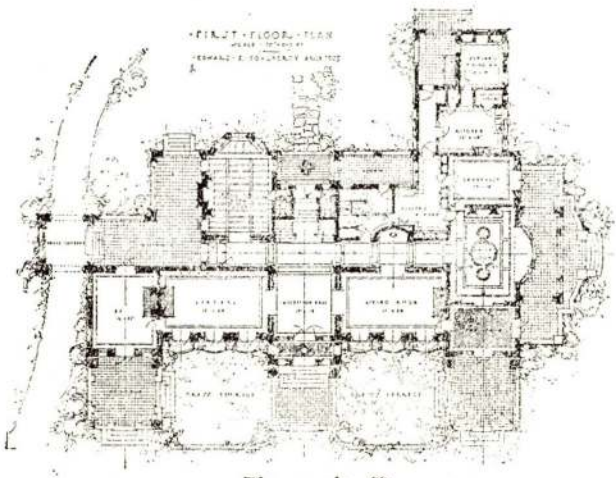


第九圖

従つて打開いた田園の中に獨立して建てられるための色々の條件も注文主や建築家に其趣味を自由に大膽に試みることが出來るのである。されば簡單とか明瞭とか經濟的緊縮策の代りに威嚴とか壯嚴とか堂々たる結構や、内部裝飾が重要なる問題となつて來る。全体の結構配置は其敷地に適應せしむる必要があると同時に其庭園は建物に調和する樣に工夫を凝らさねばならぬ（此好例として一九一五年十月のアーキテクチエラル、レコードに掲載しあるデラノ及アルドリツチ兩氏設計のイー、エー、ワツトソン婦人の邸宅を擧げておく―紐育州ホワイト、プレーン在）



第十圖



第十一圖

大住宅に於ける問題として最も困難なる點は其堂々たる威嚴の間に安易な家族趣味を加味することである。王立とか帝國とかいふ意味の加はつた律々しい邸宅や堂々たる結構のもの、或は不意に來られた珍客を饗する爲の宏大な旅館では贅澤の限りを盡して居るが田園住宅では常住座臥

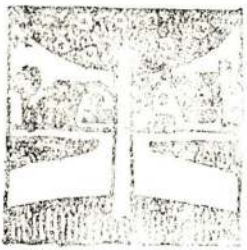
の家である。來客や社交のための充分なる準備は必要ないし又爲すべきでないし且つ「住むに相應(フサ)はしき」と申さるゝ安靜を缺いてはならないのである。場合によつては美術骨董品を聚めてゐる人或は美術好愛家の住宅を依頼されることもあろう、が此の時にも博物館に似てはならぬことである。御主人公の趣味、要求は屢々住宅の大觀を決定してしまふことがあるが、熟練した建築家に在つては御主人公の趣味嗜好を呑み込んでよく其御注文通りの要求に應じた家を設計し得られる。私は吾々が亞米利加人の華美を喜ぶ風を持つて居るにも係らず、吾建築家の多くは他國の人に劣らず、富豪の田園住宅をして住むによし觀るによき樣に大成し得られることを信じて居る。

茲に第二類の住宅に在つては規則正しいか、不規則にすべきかの問題に出會する、前者には(第七圖)コロニアル式で御条をにごす事が出來るが、近來南向の室を喜ぶ爲めに横に長く延びた平面形を屢見受ける(第八圖)こうなると廣々した出椽(ピアッツア)が重要視せられなくなつて其處は屋根を造らずに日覆のある段級となつてSun Roomsや Sleeping Porch 等が並べられて居る。

下部の各室は別にまとまつた一廓をなし、大程英國流に中庭が設けられてある、三面に各室を配置し一面は門と塀とになつて居る。此等の平面形は玄關側から見ても庭園の側から眺めても明かに想像される。玄關の側は屢裏面や勝手口の方面と同樣に取扱はれて庭園側が大切に考へられることもある、これは什うなつても同じ事で佛國式の配置によれば玄關廻り勝手廻りを正面に取り庭園の方面を Garden Façade と稱へてゐる(第十圖參照)。

亞米利加の田園住宅平面圖形は大となく小となく、中等にせよ上等にせよ、亞米利加式事務所建物や亞米利加式鐵道停車場の樣な明快な特長は持つて居らぬ、此等の大建物は歐羅巴風とは似てもつかぬアメリカの商業の特種の要求から産れて來たものである。文明生活の第一義の要件は兩大陸ともに同樣であるが日常生活の各局部に在つては吾々の母國とは多少の相違を見るのである。乍然此の差異は住宅建築の平面圖形並びに外觀を見れば明かに解る、私は亞米利加の住宅平面圖を南亞弗利加や其他の英國殖民地の住宅と比較すれば直ぐに區別することが出來る事を信ずるものである。

(未完)



建築と趣味（一）

會員　香櫨園生

一、建築と趣味と

世の所謂『趣味』と云ふ言葉で表はされて居る世界から見る時、自分等の携つて居る建築と云もの程其域廣く趣深いものは少いであらう。旅ゆく人の憧れの對稱となつて居る名所古跡など云ふものも、自然と人事の趣が相半するではあらうが、其の人事に關する事の多くは建築である。奈良や京都に遊んでも、遠い異國の都市を訪ねても、憧の想を醫すものは、其光榮ある歴史に依つて飾られた城塞や宮殿や寺院等の優れた姿、其國の勢大と文明の高さとを誇る公館や商業上の大建築などであらう。實に之等の建築物こそは其の都を流れて居る河や其都の建てられて居る平野の美しさにも優つて深い印象を與へるものである。

慣れてはそれとも氣附かずに住んで居る日常の住家の如きでも、『居は氣を移す』と云つた先人の言葉は言はずとも、枕の草紙とか徒然草とか云ふ樣な趣味の豊かな人の筆になつた趣味の隨筆などを讀んで見ると、今更ながら趣の深さに感ずる事も少くない。

實にや建築は吾々の生活の大きな要素で、吾々の日常離れ去る事の出來ないものである。其親しさに於て之に優るものも蓋し少いであらうもの親しければ必ず愛着を生ずる。愛着の生ずる所必ず趣の豊かなるものがある可き筈である。

では其程趣豊かに味深かる可き建築が、あまりの近さからとは云へ、何故世の中の人達の多

くに忘れられ、又は理解せられずに殘されて居るのであらうか？其は其の趣の深さを求むる趣味的慾望が素人に欠げて居るのに依るであらうか、抑も亦之を說き導く可き吾々建築家又は建築批評家の到らざるに依るものであらうか。

自分は思ふ。それは矢張り兩方である。若しさうとしたなら吾々は建築家として、建築批評家として之を解說し誘導するの責任を感じないわけに行かない。世の建築家よ！諸君は諸君が撞球や圍碁や謠曲の技に巧なるを誇つてはいけない。そんな事は世の所謂紳士と云ふ階級の人の誇る中級趣味に過ぎないのだから！諸君はもつと廣い、もつと深い建築と云ふ趣味の大分野を持つて居るではないか、諸君がもし萬一之を受入れる事が出來ないとしたら、諸君はすでに建築と云ふ豊かな趣味の仕事を理解して居ないのだ。理解して居ないと云ふ事は其仕事（即建築）に達し通じて居ないと云ふ事なのだ。自から之に通せず、況や之を他人に說くに於ておや諸君は先づ自からを務めなければならない。然し自分は今の建築界を決して達人でない人に依つてのみ成立つて居るとは思はない。たゞ世に趣味の上の卓越を以て許さる可き筈の建築家が萬一上述の如くであつたとしたら、それは甚だ悲しむ可き結果を齎らすであらう事を憂ひ斯くからざらん事を望むのみである。

次に世の所謂素人の諸君よ！諸君の中、趣味の高からん事を望み深からん事を求められる人が甚だ少からざるにも係らず、それが多くは娯樂の域に止るか又は少數の所謂書畫骨董の類に進む事はあらうとも未だ嘗て建築の趣味の域に進んだ人のあるのを耳にしないのは遺憾である併し自分は決して其れを以て諸君の學問や人格やの完からざるが故だと斷定したりする樣な大それた事をしやうと云ふのではない。全く建築を味ふとか、もつと進んで批判しやうとか云ふ樣な事はとても驅出の諸君のよくせられる處ではないのだからである。

建築こそは實に趣味の領域に於て最も高く最も豊かなる部分の廣大なる地域を占めて居る、

それ丈け之を味ふためには豫備修養を要するのである。それは前にも述べた様に例へ建築を專問として學んだ建築家ですら、もし其人が感情に於ての豊かさを欠いで居たならば、遂に何等の趣をも捉へ得ない程奥深いものである。

恁う云つてしまつたなら、世の素人達は益々恐を抱いて近付うとしないかも知れない。然しそれは最もよくない卑怯さである。山は高きを加へて其氣愈崇く清く、眼界又之に應ずる。趣味の事亦然りである。趣味の高きは之に攀登するのに努力を要する。然し其努力は更に甘い美しい愉快さを以て報いられる事を思つたならば其努力は決して苦痛ではないのみならず非常な希望と勇氣とを以て成されるであらう。諸君！諸君が若し趣味の高さと豊かさとから與へらる可き限りない心の悦樂を求めらるゝならば、諸君先づ起たれよ、大なる希望と大なる勇氣とを以て！　若し諸君に其希望と勇氣とが滿ちて居たならば、自分が今から記さうとして居るこの拙い案内書も亦いさゝか諸君の道しるべとなるであらう。

思はず前置に手間を取つてしまつた。さあ諸君出發の用意は整いましたか？

二、趣味とは何ぞ

今建築と趣味の問題を取扱ふに當つて一寸確めて置かねばならぬ事は『趣味とは何ぞ』の問題であらう。だがこゝでは自分は之を哲學的の考證や字義の考究やの固いものにしたくない。唯いさゝか趣味なる言葉の輪廓だけを定めて置きたいと思ふ。

唯ぼんやりと趣味と云ふ言葉を使ふ時、吾々は嗜好と云ふ意味に頗る近く使つて居る。よく趣味嗜好と並べ書かれて居るのを見る事が多い文學が好き繪畫が好き義太夫が好きなども皆文學の趣味義太夫の趣味云々と言はれて居る。

併し義太夫や競技等の娯樂の範圍内では趣味と云ふ事が一義的である様だが、文學や繪畫や思想やの問題になると今日では趣味と云ふ事で嚴密に説明し難いものとなつて居る。それは何故かと云ふと之等の思想や藝術などの高級な物

に對する人間の對度が趣味許りでない事を表はすのである。換言すれば趣味は思想藝術等に對して一義的ではないと云ふ事になるのである。何故か？。

趣味とは吾人の性癖や性質に依つて異る感情上の甘美慾である慰安である。受動的の感傷（センチメント）に近くして、能動的の熱情（パッション）に近くない。然るに思想や藝術の奥は決して其等の弱い受動的の慰安的の感情滿足で始終しない。其感情は感傷や熱情の兩域に渉り、更に理性的の觀察や批判を含めて居る。自然の眞理を究め、人生の實相に面接すると云ふ様な大分眞劍なものが含まれて居る。之を趣味と云ふ言葉を以て總括するとしてはあまり廣く深きに過ぎる。そこで今日では『藝術や思想やの問題に於て趣味は二義的のものに過ぎない』と云ふ事が一般に認識されて來た。

それならば趣味と云ふものは上つ辷りのつまらないものかと云ふと決してさうではない。『人はパンのみで生きるものではない』と基督が云つた通り人は又思想とパンのみで生きるものでもない。吾々が渇つて水を欲し、勞れて入浴や睡眠を欲するが如く、趣味は又吾々の感情生活の上の大きな必要である。思想が我々の生活に對する親しさよりも、もつと親しい必要物（テセッチー）である。然らば吾々が趣味の問題に重きを置く事は決して不當ではない。又決してくだらない事ではない。

趣味と云ふ事を上述の様に區分すると趣味は思想や思索やとは別物である。然し前にも言つた様に『好き』と云ふ意味で進んで行く時に思索や究理等が趣味的に取扱はれない事もない。勿論趣味は思索や究理ではないが、人が其等のものに對する時の對度に依つて之を趣味として述べる事が出來る。例へば或る理學者が天文や數學の事が非常に好きで其を考究する事に依つて其人の感情上の滿足があつた時、其は其人の理智的欲望であると共に、又之を其人の趣味と云ふ事が出來る。同じく其等の人が多くの人を集めて天文の面白い講演をやつた時、其が其聽者たる多くの人に智識慾と共に感情上の滿足を與

へたなら、其は趣味ある天文學の講演と稱する事が出來るであらう。

斯く趣味とは感情上の甘美的欲望や其滿足であるとして然らば各個人に於ける趣味は如何なる相異があるか。又個人の趣味に於ける年齡的相異があるか。又其敎養に依つて如何に發達するものであるかを一寸考へて置かう。

趣味は各人に於て大なる差があるのみならず各人種、民族、其住域等に依つて非常な異りがあるものである。之は何よりも建築史を學んだ人の最も廣く、又最も切實に感ずる處である。西洋人の趣味と東洋人の趣味とは大なる異がある。同じ歐羅巴でも佛蘭西人と獨逸人との間には全く渡す事の出來ない相異がある。獨逸人が數百年間佛蘭西の美術を模倣して何時も失敗にのみ終つたのはよい例である。同樣に日本人と支那人とも全く異つた趣味を持つて居る。又地域に依つても非常な差異がある輕快な南方人の趣味は重厚な北方人の全く感ずる事の出來ないものである。同じ民族の間に於ても亦顏や躰質の異る如く其趣味の相異を發見するであらう。

更に一個人に就て考ふる時、其人の年齡に依つて非常の相異のある事は誰しもが經驗する所であらうが、殊に建築家や一般の藝術家達は、切に自己の意匠の上に表はれた趣味の變遷を感ずるであらうと思ふ。

最後に最も大切な事は、其敎養に依つて到らせらるゝ趣味の向上である。自分は之を變遷と稱したくない、向上と言ふ言葉で表はしたい。如何となれば其人の敎養は又其人の感情上の敎養を意味する。其感情上の敎養は味覺の進歩にもまさつて進歩するものである。其敎養宜しきを得れば次第に不純性を取去つて醇乎透徹の域に進める事が出來る。之を稱して趣味又は感情の『精化』『洗練』『精練』『純化』等と稱して居る。何れも英語の refinement の意味に相當する。

この感情又は趣味の洗練純化こそは、所謂趣味問題の最大要點である。趣味の高下を言ふも要するに之の洗練を言ふのであつて、其種類を

言ふのではない、趣味を稱し趣味を誇り、趣味を論ずる者は先づ此の域に到らなければならない。殊に其は建築家及建築を味はんとする人に於てさうである。如何となれば建築に於ける廣汎にして然も豐富なる趣味こそは、この洗練に依つて初めて味はる可きものであるからである

この趣味の洗練こそは又其人の教養と品格とを定むるものである事を思つたならば、單に建築や其他のものを味ふと云ふ自己の甘美慾を滿たすのみならず、更に倫理的意義に合するもの即ち生活の意義を知る智識者の務めざる可からざるの要諦である事に迄想到するに難くないであらう。彼の孔夫子が禮樂を以て政治の要素とした事など思ひ半に過るものがあるではないか。

□旅の賦□

許六

旅店のさま、上段に書院床、錣菱のすかし、火の無き炬燵にやぐらかけて、門口の入湯桶、かたふけて据ゑたり。底に小砂のさわるは、夜べの殘りもいぶかし。出女のたて島は、春杤を知らず。根太板數落ちて、隅々まで疊屆かず。天井襖は、雨漏りにきはづき、鐵行灯はくらく紙はわらんべの心といふ事に燃にたり。鐵瓶、草鞋瓶にせがまれ、やう〳〵に枕をかたぶけ、心よき寢入ばなは、馬さしの聲に夢を破る。出立は七つと云ひふくめたるに、旅人も亭主もよく寢て、夜の明けてふためく面もにくし。

大名の寢間にもねたる寒さ哉

（風俗文選）



米國に於ける職工住宅經營法。(一)

アーサー、エフ、クロー記述。
會員　葛野壯一郎　抄譯

開戰の結果全合衆國を通じて注意を引きつゝ有るのは職工住宅經營の問題である。建築材料並に工賃の騰貴及び遊離資金の減退は貸すとしても或は賣却するとしても、其利益計算上自然此種の計畫者をして手扣へを餘義無くするに反して、一面各工業地を通じて勞働需用の激增に伴ふ職工住宅の欠乏、並に熟練不熟練をとはず其賃率の增額より來る適當なる住宅要求の聲は甚だ高いものが有る。即ち家を求むる方は日々增加して是を供給する方は次第に減ずる此結果は如何なるだらうか。

住居の如何が直接勞働に影響し製產上の利害に關することの甚大なるだけに、此問題は何れの工業界にあつても深く注意せらるゝ樣になつて來て居る。二三十年前迄は凡て製造所の規模も少いさく、その製產力並に利益もそれに連れて少なかつた。今や經濟並に交通狀態の變化と共に全く事情を異にし、工場所在地の不適當或は以前一村落なりしものが相當な都市に膨脹せる結果、經營者が職工の勞働及び製產能力を最大限度に維持せんとならば、種々困難なる問題に遭遇せざるを得なくなつた。單に賃金が高いといふ事のみが善い職工を保ち得るといふ事にはならない。彼等は其使役せらるゝ工場に於て適當な生活條件を欲する而已ならず、愉快なる生活をなし得るならば割合に低い賃金でも、職

工が他に移る事を充分防止し得るので有る。

若し製造家が是等所要の住居をも準備せんとならば、其事業に要する資金の内に是を計上し且つ事業の發達に伴ふ住居の擴張をも豫め計畫して置かねばならぬ。此問題を解決するには製造家は住居問題が果して彼の事業に必要なりや否や、及び如何なる程度にまで彼の仕事の成績に相關聯するかを決定しなければならぬ。尙又彼は現在の戰爭狀態に於て斯の如き施設に要する必要の資金が、永久的公共或は個人の利益を控束する事の如何に就ても知らなければならぬ

此問題の解決に就て製造家は勞働者多數が善き住宅を要求すること、英國が是等住宅要求の增加に對して年々數百萬弗を費やしつゝ有ること、合衆國政府に於ても造船幷に軍器製造の職工住宅のため現在更らに巨額の資を投じて居ることを耳にする。又彼は此種建物の實施されたる物の形式に關する長い記述を觀、勞働者に住宅賣却の種々なる計畫を興味を以て讀んで居るしかし此種材料の何れも職工住宅に對する彼自身の要求を何れの範圍に決定するか、又は勞働問題の實行的解決案を定むるとしても財政上其經營を如何にす可きやに就ては何等暗示をも與へられない。

前記の事項は凡て有要では有るが併し製造家は其れに對する準備を缺いで居る。先づ彼は其住宅計畫に對する知識の確信を要し、次に如何に是を實行す可きかが示されなければならぬ。是を明瞭にするため其疑問を擧ぐれば次の如きものとなる。

一。此社會に於ける居住の場所に對して何か他の解決方法は有るまいか。

二。家主をして家賃の低減を誘導し、邸宅を二家族用或は賄附の共同住宅に轉用し、または所要の外來者をして永久に土着せしむる他の方法はあるまいか。

三。請負者或は此種の經營者をして、此社會に相當な價格で住宅を建築し或は賣却する樣に誘導することは出來まいか。

四。此地方に於ける職工の資產狀態は如何で

有るか。
五。彼等は現在の賃金を以て家を購ひ得るか、或は又それが爲めに特に增額の必要が有るか。
六。種々なる勞働者の內でも何の種類の者が住居を得るに困難を感じ、何の種類の者が容易で有るか。
七。是を仕拂ふには何れだけの期間に依る可きか。
八。彼等は其支拂を經續し得るだらうか。
九。若し彼等が住宅購入に於て其支拂を經續し得ないとすれば、單に賃貸の目的を以て家を建築する方が便利なのでは有るまいか。
十。家を實費で賣ることが出來るか或は又當然生ず可き將來の損失を見越して、多少の利得を計上する事が至當で有るか。
十一。相互の利益で有るといふ見地に於て吾人は、吾人の使用者と共に協同的に此事業を進めんとするもので有るか。
十二。若し左樣で無いとすれば吾人は、その投資から何を豫期す可きで有るか。
十三。其れは所期の階級の救助となるだらうか。
十四。其れは勞働反轉を減ずることになるだらうか。
十五。此計畫は慈善的の意義をも有するもので有らうか。
十六。其れは吾が編制の立場と名聲を擧ぐるに足るもので有らうか。
十七。全体として其受くべきところのものが投資に値するで有らうか。
十八。吾が勞働者は本來群居的のものか或はまた獨居的のもので有るか。
十九。前問に答ふるとして何ンな種類の住宅經營が一番よく賣れるだらうか。
二十。第一期としては何れだけの共同住宅を要するだらうか。
廿一。二家族共用或は一戶建が何れだけ必要か。
廿二。合宿所に就ては如何か。

廿三。以上の各種類について平均價格は何程か。
廿四。住居經營にすぐ間に合ふ土地が有るか或は新規購入の必要が有るか。
廿五。敷地の狀況及び吾人の要求に合するには何の版圖に於て地均し排水道路等の工事を要するか。
廿六。右の內で計畫に着手するに當つて絕体的に必要なりとす可きは何れか。
廿七。是に要する工費は如何か。
廿八。敷地の高低が將來の擴張に支障を生ずるやうな事はないか。
廿九。吾が計畫は將來の膨脹に應ずるに足るもので有るか。
卅。計畫の概算は如何か。
卅一。住宅地區として其土地の一般の希望及意見は如何か。
卅二。資產として將來增價或は減價の見込は如何か。
卅三。賣却の範圍を自己の使用人に限る可きか或は希望が有らば他にも許す可きか。
卅四。第七及び第卅三の問に答ふるに最良の賣却計畫は如何か。
卅五。其計畫が長期間吾人の資金を拘束する樣な事は無いか。
卅六。事業の膨脹又は不意に損失を生ずる樣な豫期せざる出來事の爲めに、元資金の支拂を餘儀なくせらるゝ結果、此計畫に對する投資の一部或は全部を見合す樣な場合を豫想する事が必要では有るまいか。
卅七。此場合に如何に吾人を保護す可きか。
卅八。如何にして而して何處に最少限度の資金を以て最大限度の建物を得んとする此計畫の基金を得べきか、及び是に要する投資より生ずる他の事業の拘束を最少限度に處理の方策如何が、最後にして且つ最重要の疑問で有る。

是等の疑問に答ふるには製造家は種々考慮に値する問題に接せざるを得ない。其內でも特に注意を要するのは、家を買ふ可き勞働者の分類

及び建築す可き住居の形式の撰擇で有る。數年前其使用人の爲めに理想的社會を建設したニューイングランドの或大會社では、相住居即ち二家族用のものゝ配置に非常な困難を感じたといふ事で有る。數に就ては別問題としても兎に角其多數が二家族併用家屋を欲せざる理由は、一半の購入者が他半の購入者と止を得ず親密を持續しなければならぬと云ふ點で有つた。其結果實施に當つて此形式は全然採用されなかつた。是に關して更らに必要な事は購買者の種類、即ち取締とか書記とか上級職工とか下級職工の別によつて、其家にもそれぞれ區別を立てる事が有る。現代の如き民主的の時代でも尙多少の階級觀念は免れないので、其種類により設計使用の材料及び賣却價格に差別を立てなければならぬ。

此種計畫によつて其得るところは何かといふ事は、最嚴に研究を欲する問題で有る。斯樣なる企業に金錢上の利得を豫期し其れに就て精密な統計を得んとする事は問題とはならない。其理由は家屋を建築し相當價格を以て買却するとしても、是に依つて製造家の得可き最大の利得は主として勞働者の滿足を增すこと、勞働を他に轉ずることを減ずる事及び資本家としての名聲を博するのが重なるもので有るからで有る、是等の事業は最希望す可きことで且つ相當の經濟的價値を有するは勿論では有るが、それが甚だ抽象的で有るだけに具体的に價値の概數を擧ぐる事すら困難で有る。けれども適當に實施せられた此種の事業にして非常な成功を收めないものは未だ聞かざる處で有る。

次に購買者が其支拂を經續するや否やが問題で有る。二回或は三回と其物を轉買する事による失費に就ては二ツの異なる立場から是を觀なければならぬ。製造家側から云へば急に其家を賣拂つて他に轉職する事の容易に出來ない樣な嚴重な契約の下に賣却する事を希望する。購入者の側からすれば他に轉職の場合、金錢上の大損失を餘義なくせらるゝ樣な拘束を受ける事を欲しない。契約は適宜此兩者の主張を調和する

ものて有らねばならぬ。即ち購賣者としては相當の時日内に適當の價格を以て其家を賣却し得ると同時に、必要なる職工の其雇主に對する不平或は勞働狀態の一時的混亂のために退職或は轉職することを充分防止し得るもので有らねばならぬ。このためには其契約は相互的にして常に雇主と職工は互に一致し若し止を得ず是を轉賣する場合に際しては、過大の損失を受けしめざる樣雇主は是に相當の補助を與ふる必要が有る。是に依つて雇主は其名聲を維持し其取扱方に對して更らに一層の名譽を博するで有らふ。

若しも製造家が先に擧げたる各疑問に對し審議の結果、其計畫を思ひ立ち是に要する必要の資金額を決定するならば、其實施に先ちて其經營に要する基金の準備を要する。實際の困難は是れから初まるので有る。一二の除外例は有りとしても現在多數の製造家は其資金の大部分を製產率の增加、又は事業擴張費に充用し始んど餘力を有つて居ない。是を銀行に求めんとすれば銀行では普通貸金の割當及び時局のため多少資金　潤澤を欲する結果、そんな多額の資金を長期に渡り貸出すを欲しない。州或は市の補助に依らんとすれば目的及び借受く可き資金に就て制限を受けなければならぬ。自己の勞働者即ち少投資者に依らんとすれば其生活費の增加又は社債應募のために、將來の投資に對して何等餘力を存しない結果となる。最後の順序としては中央政府に依る事で有るが遺憾ながらそこでは、造船業か軍器製造業の外は建築資金を得可き適當な法律は見當らない。

問題は未解決で有る。事實多くの場合に於て政府が住宅經營の積極的必要を認めて特に資金の助力をなさゝる限は未解決のまゝで有るのが普通で有る。然し製造家たるものは現に今や政府に依らんとする前に先ず他の方面に於てあらゆる努力を要するので有る。次に擧ぐる職工住宅經營方法は單に暗示の用をなすに止まるものでは有るが、其內の或ものは實施されて相當の成功を收めたものも有る。その他は單なる理論では有るが事業の種類と條件によつては勿論實施し得るもので有る。若し其方法にして實行の見込が有るならば製造家の手元で其地方特種の法規に適する樣按配すれば宜いので有る（未完）



懸賞規定と審査員の体度

會員　矮燕生

（一）

□大正七年六月中旬、明治神宮外苑内に建設せらるべき聖徳記念繪畫館及葬場殿址記念建造物の設計圖案募集規定が發表せられ、一般競技に附せられた。募集規定は十四項から成り、應募心得は十六項を擧げてある。添付圖面として外苑計畫一般線圖（縮尺二千四百分一）と聖徳記念繪畫館線圖（縮尺四百分一）とが與へられてゐる。

□此兩記念建造物の一般競技に附せらるべきは、早くから傳へられて居たが、こんなに突然發表されやうとは思はなかつた建築界にとりては足掛三年振の懸賞競技である。從つて新進氣鋭の若武者連にしても、百戰錬磨の古武者輩にしても、双腕の鳴るを覺ゆることであろうし、斯界にとりても盛夏の清涼劑であることに異議はない樣である。

□此際此時聊か感じた點について、愚見を開陳して見たい諸項がある。自分でも感じ得た有の儘を書き連れて同感の士の賛同を求め、時事に關して希望を明かにして見たいと思ふより外に大した欲望もない。兎角は筆の上の事であり思ふ事は充分に述べ盡せない嫌はあるが、感じた儘を葬ることの惜しい爲である。

（二）

□吾國に於ける「懸賞競技」も臺灣總督廳舍に始まつて、最早十指を屈する程になつて居る從つて其結果は有益なる成績を建築界のために殘されて來た樣であるが、果して其成績は全部無疵の効果を擧げたであろうか、將來益々有益なる事項として發達し行くであろうか、自分は聊か疑問なきに非ざるものである。之れを歳月に照して見てもかれこれ十年を經てゐる懸賞競技の歴史は其發達の道程に於て間違はなかつただろうか？自分は此間に養はれ來つた一種の因襲を認めない譯には行かない樣である。これといふて取り立て、論する程の事てはないかもしれぬ、さはれ將來を思ふ者にとりては折につけ時に應じ

て注意を怠ることが出來ないものがある。

□今日迄行はれた懸賞競技の結果、懸賞當選案の其儘に實行された例が甚だ少ないのを遺憾とする。賞を掛けて良案を募つた效果か何處にあるだろうかを怪まざるを得ない結果を事實に觀るからである。「外國でもさうだから」といふのは一寸理由にならないし、「日本では仕方かない」といふ辯解も甚だ受取れない樣である。「種々の事情がある事で」あろうし、又「止むを得ぬ結果」であるのに相違ないにしても今少し何とかなりさうなものである。

□事情の如何にしても「懸賞競技」の前途には「仕方かない」「止むを得ぬ」主義で押し進む狀態を觀過して差支ないであろうか、「其の成績が其效である」として默許して差支ないであろうか、兎も角今日の「懸賞競技」といふ合言葉には、一種否むことの出來ぬ暗影の附き纏ふて居ることを述べて置くと同時に、我國に於ける懸賞競技の前途を聊か悲觀せざるを得ないのである。

□自分は茲に餘白を割つて過去の「懸賞競技」について將來のために報告研究して置きたい事があるけれども、それは後日に機會を求ることゝして、今回發表されたる明治神宮外苑記念建造物の競技について、筆者の衷心の所感を述べて置きたい。

（三）

□今回の競技規定並びに應募心得を通覽して、第一に感するのは當選者並びに當選圖案を如何に待遇すべきかの一點が全く不明である、全く漠然としてゐる。圓か角か一寸見當がつかぬ樣にしてある、そして色彩丈は時節柄濃厚であつて、一等五千圓の多額に加へて當選者の人數が十名となつてゐるから合計二萬一千圓の賞金を懸けてゐる。

□規定の內容を悉細に研究して見ると不明瞭な臨劃は數多の應募者をして先づ第一に甚だ生溫い氣分を味はしめて居ることであろう。しかしこれは「規定」の條項か漠然たる中に、却つて要領を得て居るのかもしれない。幾多の前例に依つて此かる氣分が自から養成せられたのであらうか。

□期間は大正七年九月十六日正午迄に送付することになつて居るが、暑中休暇を得べき官廳技術家並びに各學生諸君にとりては、頗る時機に適した事であるであろうが、氣の毒なのは民間の建築家である、實務に就いて居る多くの連中は夏季が最も急がしい、從つて此度の競技は民間の技術家にとりては「河豚は喰いたし命は惜しし」といふ所である。

□官廳の技術家にとりても夏季は相當に忙しい仕事を持つて居る人が多い樣である。多くの人々は夏季を利用して平常の望蜀の念を晴らす場合が多い此等の人々にりても、此度の懸賞は「繪に畫いたぼた餅」ではあるまいか。

□從つて手に唾して小躍してゐるのは、各學校に於ける優秀なる學生諸君である。諸君の任務は此點について重大な責任がある。之を要するに此度の募集は議院建築の懸賞競技募集に連關して時期に於て期間に於て、甚だしき拘束を感じた嫌があるが、若し率直に簡明に「經驗のない學生諸君の方が却つて立派

な案が多い」といふ一種の皮肉を示されたものならば、建築界のためにも「懸賞競技」の前途にも却つて喜ふべき現象であるのかもしれない。

□設計の要件には七箇條を擧げてゐるが、概說それは何處迄も「懸賞競技」の要件としては、甚だ茫漠としてゐるに一驚を喫せざるを得ない樣である。仰も今度の「懸賞募集」は葬場殿址記念建造物と記念繪畫館との關係及所置について一寸當局者に於ても明瞭なる決定がない樣にも考へられる。乍然明治神宮外苑としては何れか中心の建造物を基本とするの必要がある。此兩者何れも大切なる建設物であるのであろう。しかも此の重大なる問題は本懸賞設計の根本問題であらればならぬ。茲が設計者の手腕に待つものである如く本懸賞の骨子である樣である。

□『其樣式は健全なる現代藝術の精華を發揮するものたるべきこと』の要件に至つては、吾れ人共に呆然たらざる得ぬ樣である。其あまりに漠々として捕へ所なき要件には提出者の眞意を捕促することは至難といはねばならぬ、第一、現代藝術の精華を發輝するといふ樣な樣式があるであろうか、混亂と復雜と模法に動めく今日の過渡時代に「樣式」なるものゝあり樣はない。

□曩し「將來健全なる樣式を指導し得べき藝術的作品」を求むる主旨に外ならぬ事であると思ふ。如何なる作品にもせよ其「外容」を指して「樣式」と稱するの意ならば、それは「樣式」といふ文字の亂用であつて、それが爲めに應募者の疑惑を來すものとすれば、當局者は一應充分なる說明があつて欲しいものである。

(四)

□提出すべき設計圖案が各階平面圖並びに立面圖の縮尺二百分の一を要求してゐるのは什ういふものであるか、單なる參考といふ目的から百分一でも二百分一でも大した問題にならぬとするのならば、それは甚だしき曲解であろう。建築は繪畫とは大に異つてゐる、從つて詳密なる圖面程設計者の苦心が注き込まれる百分一と二百分一との差に現はるゝ設計者の苦心は審査員の大に注意すべき點であると思ふ。

□二百分一の縮尺にせれば、紙面中に箝まらないのならばいざしらず、此種の憂へのない設計にあつては、審査員も二百分一より百分一に利益を得る場合が多いことを感じて居らるゝ筈である。若し此度の競技は主として「學生諸君がやるのだから」といふ意見ならば夫迄である。

□第七項に追加して欲しい條項がある

「設計圖案ニシテ指定ノ期限ニ後レテ到着セルモノ、他人ノ意匠ヲ剽竊又ハ模倣セリト認メタルモノ或ハ他人ノ意匠ヲ自己ガ設計セル如ク裝ヒタルモノ、其他本規定ニ違反シタルモノハ之レヲ審査セズ」

□賞金は勞力に相應すべきである、不相應なる賞金は徒らに斯界の風潮を墮落せしむる惡果を產むの弊か出來る、受賞者の人數を增加したのは喜ばしい現象であるが同時に今日の時勢は所謂過渡期の混亂時代で中々飛び抜けた案は出來ないから「團

案の丈位べ」で甲乙のない作品の多くが選抜せられる傾向がある從つて寧ろ入選者十名に「席次」を附せぬ方が時勢に適してゐる樣に思はれる。

□實際審査員諸氏が甲乙なき當選圖案に無理に等差を附してあらぬ非難あらぬ陰言を聽くふりも、此の入選者の平等的待遇は時世に準應し、募集の主旨にも合致する賢明なる方法ではあるまいか、何となれば吾國の多くの第一等當選圖案は單に只當選の名譽と賞金を贏ち得たに過ぎぬからである。若し夫れ十指の指す所十目の觸るゝ處に任して、其眞價を認め得さすことが何ぼう奥行かしいではあるまいか。

（五）

□應募心得は今回の懸賞競技の主旨を說明したものである、此の心得の第一項を讀むものは、稍明瞭に今回募集の建築物の性質を理解し得られる樣であるが、第二項と第三項とは相對立して何れを重んじ何れを中心的建造物とするか甚だ不明瞭である。思ふに明治神宮外苑は「公衆の遊に任せ」「永く祭神の鴻業聖德を偲び」「明治の盛世を記念せんとする」目的に對して其方法をも合せて訴へて居るのに相違ない。

□乍然何れにしても此の兩建造物は外苑の主要なる記念物である、從つて「懸賞競技」に關與する審査員諸氏並びに明治神宮造營局各員に在りては或る徹底したる明快なる識見と理想とを盡いて居られはならぬ筈である。其識見と其理想とは蓋し最も公平なる最も雄大なる明治時代の理想に合致しなければならぬ。

□個人の小なる囚はれたる趣味と見解とを以て明治時代を曲解し、祭神の御鴻業を偲ぶ方法に於て誤る處あらば甚だ遺憾である、百年二百年の問題でない千年二千年の後にも恥づるなき眞劍の理想を抱持して居らるべきであろうと思ふ內は國民を指導し外は外人を恐縮せしむる丈の抱負があつて欲しいものである。

□彼の漫然と博覽會や協進會に於ける審査を爲す樣な譯には行かぬ事である、少なくとも審査員諸氏は明治時代に對する明快なる見解と祭神の御鴻業に對する景仰の國民思想を洞察することが出來なくてはなるまいではないか。此の重要なる審査員諸氏の高遠なる理想と徹底せる識見が固定しない間は應募者は設計を着手すべきではないと思ふ。

□審査員諸氏あつての應募者である、然らば應募者は實に其の重要なる根本問題を問却して輕々しくペンシルを動かすべきではないと思ふ、宜しく審査員諸氏の眞意を了解し得らるゝ迄は質問を連發して徹底せる理解を得ることに勉めなければならぬ。況んや當局者は「成るべく詳細なる回答」を與へらるゝに於てをや。

□若し夫れ審査員諸氏が應募圖案の色彩と技巧とに魅せられて圖面に現はれたる眞價を洞察し得られざるか、或は應募者が徒らに審査員の心理を臆測して輕佻浮華なる態風を殘すにのみ努力するならば「懸賞競技」の前途は悲觀の材料のみ山積するに至るであらう。

（六）

□今日迄行はれた數多の懸賞競技に際して審査員諸氏の理解ある抱負を聞いたことがない。そして其競技の審査の際に於ては應募圖案の多くが、其募集の主旨を体得し得て居らぬことはよく聞く處であると同時に、審査員諸氏が屢々應募圖案の技巧に魅せられて其所懷の抱負を裏切らるゝ例も皆無ではない樣である。

□規定に外れたる圖案が落選するのは止むを得ぬにしても、規定に掲示されたる條件が屢々其主要視せるべきであらうと思はれる條項が却つて輕視せられて、賞選圖案の席次に番狂せか發表せられることも皆無ではない樣である。殊に重要なるべき工費上の問題が屢不問に附せられる場合の多いのは什ういふものであらうか。

□「懸賞の應募者は工費を眼中に置かずして、掛られば傑作は出來るものでない」といふ說も屢々聞くことである、乍然多くの懸賞競技は實際の問題に觸れて出來上つて行くのである。單なる競技の爲めの懸賞ではないのである。此の實際の上に立てらるゝ懸賞競技が經濟上の問題に密接なる接觸を保れずして行はれて來、又往くものであるがために、第一等案の實行が不可能とせらるゝものならば、「懸賞競技」の方法は前途頗る心細からざるを得ぬ譯である。

□各種建築材料暴騰の今日に在つて、工費の總額を示された今回の規定は最も至當の措置であるが、同時に規定條項中に掲げらるゝ以上は相當の敬意を振はるべきは勿論であらればならぬ。況んや夢を畫かぬ建築家の堂々たる競技である。須らく此の條項の重きをなさるべきことは明かであらうと信ずるものである。

（七）

□多くの場合に於て平面圖の線圖が添付せられることは應募者の爲めには當局者の意圖を知る上に於て最も好ましき事柄である、乍然折角出された圖面ならば、成るべく簡單明瞭なものにして欲しい。不明瞭の部分を示して疑惑を深うせしむるは相互に不利な結果を齎げることにならう。

□夫と同時に與へられたる線圖に依るの必要なきに係らず、異なりたる試み、破天荒なる意圖を設計するものは、屢々困却される傾あるのを遺憾とする。或る人の曰く平面圖は各種建築の主要なる根底をなす、從つて立面圖より寧ろ平面圖を主要視するの必要あるのみならず、立面圖は第二義に措くべきである依つて先づ平面圖の懸賞をなし、然る後立面圖の懸賞をなす必要があると一理ある說とすべしである。

□此回の懸賞案の平面圖は殊に其要求に對して平穩なるものであらうが、斯くの如き特種記念建造物としてはあまりに平凡に過ぎはせぬか、月並なる作を喜ばれざる此回の懸賞に際し應募者は先づ以て平圖面形の工夫に一段の努力を致すべきであると思ふ、若し彼の「線圖を無視すると入選せぬ」等の思想は此際放棄すべきであると思ふ。

□今回の記念繪畫館の性質は各項に亘つて考慮するも明瞭に其意圖を示されてないが、全部を洋畫にするか一部に日本畫の陳列を許可するかも不明である、思ふに其方針は今尙立てられ

て居らぬ爲であらう、乍然新聞紙上に傳ふる所によれば當代の大家に囑して祭神の御一代記を物せしむる方針である樣であるよつて畫面の總延長は明記せられてある樣であるが、各繪畫の個々の長さなどは定まつて居らぬ樣である。

□それから此種の記念建築として將來の擴張といふ點にについては考へられて居られぬ傳である、畢竟記念的性質を多く具有せる建物であるから擴張と申すことはせぬらしい、從つて內部に安置せられる繪畫は其數に限りがある譯であつて、愈々各大家の殿腕を振はるゝに當つては、當局者も亦一苦勞されることであらうが、將來に擴張のない建物丈に現代大家のみで全繪畫を占領することは愼しまねばなるまいかと思はれる。

□將來祭神の御偉業を景仰する傑作が現はれた場合の保安所として此の記念建築物は唯一のものである丈に將來に對する餘裕丈は考へて置く必要があるであろう、從つて出來得るならば此の記念建築物は其規模を充分大きくして置くの要心あつて然るべきであると思ふ。

（八）

□以上を綜給して見ると今回の懸賞規定は、其內容に不明瞭の點の多い丈それ丈、應募者は可なりの苦心を費やすことであろう、殊に重要なるべき建設物の敷置結構に於てはたまた茫漠なる「臨劃」の樣式に就いては甚しき迷路に立つて居ることであろうと思ふ、されば今回の應募提出圖案の意匠は總体に從來なき混亂を見ることであろうし、審査員諸氏も思ひ切つて破格の審査を斷行せられることであろう。いはゞ從來になき亂戰亂鬪の花々しさに斯界の耳目を聳動せしむることあらう。

□さてこういふ想像を畫いて見ると特に審査員諸氏の再考を促さゝるを得ぬことに思ひ至る。何となれば亂戰亂軍の眞只中には本當の勇士が眞劍の實力を振つて荒れ廻ることを期待しなければならぬ、物具こそ黑革縅の見苦しけれ、錆びたる槍、痩せたる馬にも眞の力の宿つた武者振に目を付く爲の用意あつて然るべきではあるまいか、彼の緋縅の鎧、龍頭の冑のきらびやかなる太平の夢を戲せたる銀鞍白馬の葦の色に醉ふ樣な体度は見苦しき極みである。

□況して建築は繪畫でない、圖面の美は實際の美でない、殊に建築は男性的の藝術である。男性美の極致は簡明に在る、雄大に在る、嚴肅に在る、壯快に在る、加ふるに「健全なる現代藝術の精華を發揮すべき」ものに於ておやである。彼の華麗を喜び芳麗を競ひたる幼弱なる女性美の作品に魅せれる如きは時代の健全なる藝術を云々するの資格がないと思はれる。

（九）

□一口に明治時代といひ大正時代といふとも悉細に考察を加ふれば明かに旬年の變轉期には異たる色彩を畫き出して居やうさりながら明治大正の御治世は　長くも王政復古の大道を宣明せられ萬機公論に決せらるべき雄大無邊の御宏模に指導せられつゝ、新文明の大潮に快帆を飜して順風を受けつゝあるのである。

□されば國家的建築の外容には雄偉堂々たるべき要素の含蓄かあつて欲しいものである。簡單明瞭なる思潮の鐵腸が宿つて

居て欲しいものである。世界を家とし到る所青山を望むの慨ある健全なる思想の表現があつて欲しい、敢ねて外容といはず、其内容にも萬世不磨の雄魂と、永遠不斷の信仰とが打込まれてあつて欲しい。

□さりながら雄大といふ表現には單純と素樸の風が最も露骨に表はれるものである。惡くいへば遲鈍な間の抜けた形が造られるものである、乍然此の遲氣と愚樸な表現には永遠なる將來の宿つて居ることを見逃してはならぬ、纖弱な末期の作品に見られぬ、若々しい力ある氣慨と雄々しい光ある信仰が蓄へられてある筈である。

□苟も健全なる現代の精華は將來を有しなければならぬ。行き詰つた足代末期の作品の樣なものであつてはならぬ。須らく間の抜けた點にては天下一品の桃山期の作品の樣な未來のある力のある若々しい男らしい偉大な作品を擧げて欲しい、これは筆者が衷心の御願いである。將來のためには過去の惡弊を棄てなければならぬ、單なる素撲の無技巧な作品だからといふて一盞をも與へられぬ樣な事のない事を祈る。

（十）

□茲に奔放な暴言を敢てして審査員諸氏の虎威を犯し奉つたことを衷心御詫をしたい。そして攻めて應募者諸君に向つて此二た月の間畏敬すべき苦心經營の努力を持續せられるに對して敬意を表して見たい。暑い〳〵夏季の間聊か古人の句を拜借して座右に捧げたい。

按察使は才有る人と聞につる　（百池）

審査員諸氏は現代有數の名家である。疎かに思ふべきではない須らく全力を奉けて力められて然るべきか

誰が子ぞ大刀よく似合ふ菖蒲の日　（大魯）

當選の榮を載ふ勇者や誰？戰は勝つに在り、さわれ勝つて胄の緒や如何に

郭公待つや都の空甍め　（蕪村）

郭公は都ではだん〳〵聞かれなくなつたが、近代文明の精華はむしろ都會に集まつてしまつた、地方藝術の士願くは奮勵一番都の人を驚かして欲しいものである、健在なれ地方人士。

都公鴨河越にぬ恨かな　（几董）

さはれ地方有志も其素撲な藝術を堂々と都の空に飛はしめよあたら雲の上人に名を成らしむることこそなかれ。

月の夜に若き人々宿直して　（几董）

新しき道に新しき生命を立てゝ行くは若き人々である。その溢るゝ如き意氣は何者をも燃し盡さんずの熱がある。この熱こそ。

三十を老のはしめやすまひ取　（道立）

藝術家の生命は若いうちのことか　されど古強者の腕の冴には、若い者には他山の石か。

雨の日やもたれ合ひたる女郎花　（九湖）

それもよからう忙しい世の中ぢや、それにしても双方に力がなくなつては例れるばかりである。たゞ力こそ尊けれ。

夏痩の我骨探る寢覺かな　（蓼太）

眞に同情に堪へない。寢食を忘れて藝術の妙界にいそしむの

士には苦痛ではあるまい。

夜は既に明がた近き坊の窓　（百池）

設計三昧に入り込みし、夜を込めて明け易き夏の空を眺めて微笑する人の多からん、願くは風を曳くことなかれ。

蠅打つて いさゝか穢す 圖扇かな　（几董）

打たんとすれば近よらぬ、蠅は悪けれ心して圖面を穢さゞらんことを、豈夫れ圖面のみならんや。

かやり火の 蚊につれ出づる 主かな　（管鳥）

時には散歩も然るべし、蚊帳の中に製圖板を引入れる横着は禁物々々。

一人宛 閨になりゆく 踊かな　（李收）

若いものは元氣である、同時に疲れのせぬ嬢がないでもない、思い立つた以上最後迄奮闘こそ望ましけれ。

いつとなし 沙汰の止みたる 彗星　（几董）

それも彗星の性だから仕方もなからうが、思はせ振こそ心悪くけれ。

限りある 日數も積る 短夜や　（几董）

時日切迫、前途瞭遠、さても百里を行くものは五十里を半ばにするといふことである。

病中を 申わけなる 歌よみて　（几董）

氣の毒ながら、心優しき人ある事なるべし、押しては勝たれぬ、無理なきをぞ望め。

貧まじき 角力を寢物語り哉　（蕪村）

妻君曰く「明神樣へ御祈りもいたしましたのよ」敗軍の將兵を語らずか。

やはらかに 人分け行くや 勝相撲　（几董）

勝つて見るとなんでもないに違いない。上將は戰はざるに捷つことかや。

行く春や 選者を恨む 歌の主　（蕪村）

此の句を秋の季になほして見たい。味ふて見る程面白いと思ふ。

解く時の 心安さよ 笹粽　（袖）

選者は客人か、仕合せものである、設計者の百日の苦心を一日で評し終るとかや。

涼しさや よき碁に勝つて 肱枕　（雨客）

結局は勝つたほうがよい、勝つた方がよい。

雨となり 風となりたる 雲いづこ　（霞東）

忙がしい夏過ぎて何んのこつた。　（完）

□選者の頭□

懸賞には必ず審査員或は選者が居らねばならぬ。そして多くの懸賞の結果は其選者の頭によつて決定せられるから、應募者が選者や審査員の氣に入る樣に考案工夫を廻らすのは一般の風習となつて居る樣だ、應募者か選者の頭を考へないで勝手な事をしたらそれは失敗に極つてゐる　（會員某氏談）。



東大寺建築史 (三)

會員 須藤眞金

艸創篇

■當時の文化と艸創の眞因

□それでは東大寺は怎うして建てられたか□

□文化の發達に促がされて出來上つたのだ□

私は怎う答へる、實に東大寺の建築は佛敎の傳來に附隨して吾が國に傳つた科學の種子が芽を萠し蔓を延ばし葉を繁らし花を咲かせて遂に結んで熟した大きな文明の果實であつたのだ。

吾が國の文化は漢籍傳來と共に養蠶、機織、石工、陶器、木工、造船等の術が傳はり又音樂繪畫、醫術、釀造の法等が大に發達したのであつたが、然しそれ等は未だ甚だ幼稚な物であつて養蠶機織と云つても家族的の手工業に過ぎなかつた石工は僅かに石兵、石屋、石垣、石棺、石像位を備へ土師(はじ)と云つても甕(へ)、てらか、てくじり等と云つて素燒の陶器を作るに過ぎなかつた。木工は應神天皇が難波大隅宮に高臺を構立する時に朝鮮から工人を招かれたのが始まりで雄畧天皇は大に普請を好み給ふて內裡に樓閣を起し給ふたと云ふ樣な事が有るが、それとても

未だ白木造り板葺の宮殿の事であつたからタカの知れた建築であつたろう。造船と云つても建築の工匠が船をも造つたと云ふのであるから大概それで想像がつく。また音樂は太古より傳來の和琴、和笛の上に神功皇后が三韓から皷を齎し給ふたと云ふ位のこと、繪畫も裝飾を目的とする華文に過ぎず、醫藥、釀酒共に神代からの製法に更に一歩を進めたと云ふ丈けで、漢籍傳來時代の新文明と云ふ物はほんの朝鮮からの御土産に過ぎなかつたのだ。

處が佛敎傳來時代の新文明はそんな生ぬるい物では無かつた。最う吾が國の上下は充分文明の吸收力を具備してゐた。大陸の文華に後れまいと云ふ努力を懷いてゐた。國家の体面を氣にする虛榮心も燃へてゐた。それで一度この燦爛たる工藝科學の光彩に包まれた佛の敎が傳へられるや吾が國の上下は敎義なんかはツッチ除けにして只管附隨物である文明の果實を貪り食んだのであつた。それで陸離たる文化の波が忽ちにして吾が國全土を浸潤したのであつた。

わけても凄まじい發展を遂げたのは鑛業であつた。文武帝の初めに因幡、周防より銅鑛を獻じたのを手始めに、或は對馬は金鑛を治せしめ鑄錢司をおき、丹波に錫を献せしめた。其他土佐下總から雄黃を、近江より白礬を、伊豫より鐵鑛を、伊勢より朱沙、雄黃、白鑞を常陸、備前、伊豫、日向の四國より朱沙を安藝、長門の二國より金青、緣青を下野より雄黃を献じたと云ふ事柄は如何に鑛業思想が勃興したかと云ふ事を証據立てゝゐる。尤も對馬の金鑛は後に治成の献策者三田五漱の詐欺であつたと云ふ事が發覺して年號を大寶と改元して迄喜んだのも徒耳に歸したが、之れ等鑛業の隆盛はやがて大佛鑄建の一つの基因を成したのであつた。

雲母、水銀、白礬、黃礬、金青等の產出は彩色の料となつて世を飾り、銀、銅、鐵、錫等の鑛產は鑄錢、農器の料となつて世を富ませた。また錦綾純布の紡織は裝束、祿物のために諸國の勸奬され、出羽の國に養蠶せしめ給ふたと云ふ記錄は如何にその文化の波及が大きかつたか

と云ふ事を示してゐる。其他寶玉寶石の商沽も出來て大倭の文華は長安の繁昌を凌駕する程に進んだ。そして遂に和銅五年に至つては白銅や銀で革帶を飾つたり蘇芳色の服を着たり、朝會以外に虎豹熊の皮や金銀飾の鞍具刀帶を用ゐる事を禁止されるに至つた。此の禁令は異變を錄して常事を錄しない國史の上に平城京の宮室衣飾の豪奢を物語る唯一の証據である。

京師の繁盛と共に地方の文明も著しい發達を遂げた。前記諸工業の隆盛と共に土木事業が殖産の爲めに大に功績を擧げたのであつた。即ち耕地を整理し池溝を修して收獲の增大を計り又道路を開き橋梁を架設して交通を便にしたので地方の産業が頓に啓けた。この地方啓發の殊勳者は德僧行基であつた。

そして之等の地方の豊潤な稅源は支那風の郡縣制度の摸擬になる新らしい法令制度に依つて確實に中央政府に取り納められた。そして朝廷は此の莫大な租庸調を驅使して盛んに國家を修飾したのであつた。大化に着手された唐制摸擬も文武大皇の大寶年間に法令の制定は完成したので次で元明天皇の御代には國都の造營が企てられた。即ち今迄の歷代遷都の習慣を廢して支那風に萬代不易の帝都を定められる事になつたその百官の府、四海歸就の地は平城に極められて其處に坊條は區劃整然たる大都市の建設が爲された。此の造京事業が當時の建築界を刺激し促進させた事は凄まじい物であつて、日本美術の黄言時代と極言される雄麗豊滿な天平建築は此機會に於て爛熟したのであつた。宮殿官衙は平城京の眼目であつたが何と云つても都市裝飾の權威は左右兩京に彌漫する幾多の堂塔伽藍であつた。そして高市大寺（移轉後大安寺と改稱）や元興寺、法興寺等の大寺も此新京に移し建てられたのであつた。東を看、西を看れば塔聳へ出て地から湧いたのかと疑はれ、南を望み北を望めば法堂側立して空から降つたのかと謬られると歌はれたのも事實であつたろう。

之等の寺院は純然たる宗教の殿堂ではなかつた。波江學士も『佛寺建築の將來』中に云はれ

た通り此時代の佛寺は宗教建築と云ふよりは公共建築であつたのだ。貴族の社交倶樂部だつたり、また孤兒院や病院や學校の性質を帶びた公共建築であつたのだ。私はもつと極言して支那や韓半島の友邦に對する虚榮の傀儡だつたと稱呼する。養老八年には——京師は帝王の居とし萬國の朝ずる所なり壯麗に非ざれば何ぞ德を表せん、板屋草舍は中古の遺制にて營み難く壞れ易く徒らに民財を殫す——を宣らせられて五位以上及び庶人の營に堪へる者には瓦舍の構立し赤や白の塗料で住居を彩らさせられた事は赤裸々に宮廷の意志を發表された物であつて宗教や信仰には頓着なく只もう無暗矢鱈に建築を宏荘にして國家に箔を附けようとの思召であつた事が分る。

そんな譯で平城京の爲政家は文化を吸收する爲めに佛教を歡迎した。そして文化の波に潤つて忽ちに國庫に充溢した富を引提げて國体の修飾を企てた。都市の裝飾物は云ふ迄もなく佛寺の建立であつた。宗教は何處迄も煮汁であつた又それに關係してる僧侶も後世の坊主の樣に象生濟度の箇人勸誘を一代の仕事にして了ふ樣なケチな了見ではなかつた。先づ國家を救ふ爲めに努力をして法律を修めたり科學を研究したり或は醫藥或は土木と云つた大きな勤行を積んで大きな國家や社會の濟度に勉めたのであつた。それで小さな意味の教儀教典には一向暗かつたのである。その事實は平安朝の初めに當つて最も澄、空海等の名僧が現はて密教が唱導さるゝに至つて悉皆り曝露されて了つた。殊に空海は東大寺十四代の別當として四年間顯教の寺務を視てゐたのであつた。そして顯教は醫者の藥法を説く樣なもので理論としては結構であるけれ共實際としては之では病氣は癒らないと云つて理屈を云はずに藥を飲ませる密教を唱へ出したのであつた。

話は少し岐道にそれたが平城京の文明はそうして先づ帝都の威儀を整へた。次に國全体の裝飾が必要になつて來た。それは全國に國分寺及び國分尼寺の建立と云ふ形式で滿足される事に

なつた。即ち國分寺は各國の公會堂の樣な物であつたのだ。國々に國分寺を建立するからには國家に總國分寺がなくてはならない。即ち東大寺はそう云ふ必要から艸創さるゝに至つたのである。されば東大寺はても無く國會議事堂の樣な意義深き記念建築であつたのである。

儒學と云ふ細い道の交通はあつたが殆んど鎖國同樣だつた太古の夢を破つて大陸の文明を恣に吸收し同化して燦爛たる光彩を放つた飛鳥平城朝の文化を國家的に象徵した東大寺の建築は丁度日下問題の議事堂建築と同じ樣な意味をしてゐるのであつた。

實に東大寺を建立した物は文化の發達であつたのだ。即ち鑛業、冶金、鑄工及び造佛の諸業の隆盛が

結跏坐高五丈三尺五寸
面ノ長一丈七尺
廣サ九尺五寸
鼻ノ高サ三尺（一書ニハ宍髮高二尺）
眉ノ長サ五尺四寸五分
目ノ長サ三尺九寸
口ノ長サ三尺七寸
頤ノ長サ一丈五尺
臂ノ長サ一丈九尺
肘ヨリ腕ニ至ル長サ一丈五尺
掌ノ長サ五尺六寸
中指ノ長サ五尺
脛ノ長サ二丈三尺八寸五分
膝ノ前三丈九尺
膝ノ厚サ七尺
足ノ下一丈三尺
螺形九百六十六箇高サ各一尺徑各六寸
胴座高サ一丈徑六丈八尺上ノ周リ廿一丈四尺
基ノ周リ廿三丈九尺
圓光一基高サ十一丈四尺廣九丈六尺

と云ふ金銅盧舍那佛像鑄造を成就させたのであつた。又建築術の發達が

高サ十二丈六尺
東西二十九尺
廣サ十七丈

基礎高七尺
東西ノ礎長サ卅二丈七尺
南北ノ礎長サ廿丈六尺
柱八十四枝
殿戸十六間

の二重十一間の伽藍一宇を建立したのであつた。また科學の普及と法令の整備とが

熟銅七十三萬九千五百六十斤
白蠟(錫一書に銀と云ふ)一萬二千六百十八斤
練金一萬四百三十六兩
銅(一書に水銀と云ふ)五萬八千六百兩
炭一萬六千三百五十六斛
材木智識五萬一千五百九十八
役夫一百六十六萬五千〇七十一人
金智識人三十七萬二千〇七十五人
役夫五十一萬四千九百〇二人

と云ふ莫大な材料と人工を支辦して大倭の一大記念建築を達成したのであつた。若し之れを宗教の力と云ふなればそれは心靈上の宗教の力ではなくつて物質的な社會的な宗教家の勇猛心に基因したのである。

東大寺は怎うしても平城京時代の文化の發達の産物だつたのである。

◈南都之賦◈

あをによし奈良の都は御さふらひ三笠山の麓なり。元明天皇、和銅二年、藤原の宮より此京に移さる。大宮殿、大佛殿佛神をあがめて王法を輔く、若宮の社、月日の宮、竈殿、尾上の宮鏡の神は橋の廣繼を祭り、浮雲の宮は鹿島立の始めとす。氷室、卒川、東大寺の八幡、二月堂に若狹井あり、三月堂、四月堂釣鐘は久我の入道の詩をとゞめ、大門の折釘は源の賴朝の幕を張り、興福寺は七堂伽藍けじめは山階寺といひ、中比は馬屋寺と號す。……



佛寺建築の將來

（續）

會員　波江悌夫

△緒　論
△佛寺建築の意義
△過去の佛寺建築
△佛寺建築の現狀
△將來の佛寺建築
△結　論

（五）將來の佛寺建築（上）

波瀾萬丈の明治時代は既に去つて有爲多望であり又多事多難なる大正時代が來た、時の流は刻々として去り默々として逝く其處に何等の區分もなければ其處に何等の段階もない。大正の時代だからといふて明治時代と大した變化はないはゞ明治大正の時代である。乍然少なくとも彼の滔々たる四十有五年の時世は一波搖れて一大運動を畫いたものならば、大正の時代は更らに一波を起して次の時代に其波動を傳へねばならぬ場合である。そこで大正の維新といはれる、維新とは舊弊の打破をいふ舊骸の組み直しをいふ。明治維新の大業は實に破天荒の革進を遂げてゐる。しかしそれは主として政治的の運動であつて社會的には其餘波を餘義なく蒙つたのである。そこには進歩派もあれば保守黨もあつて、社會的革進は丁度一進一退の變轉を遂げて何時の間にか或種の調和を畫いてゐる。新しい暖潮と古い寒潮とか混交融和して微温的な

世潮を殘して居る。しかも其微溫的な不徹底な時潮は新しい時世には最早舊い臭が立登つてゐる。そこに不合理も養はれ矛盾も晝かれ弊害も伴ふといふ順序で「維新」の切實な叫聲が起る大正の時代は明治時代の微溫潮を更に清新な熱潮で改めて溫むる必要があるのである。社會的維新の手段を講じて時勢の矛盾を融和改新して行く使命があると思はれる。

佛寺建築の將來を論せんとする主旨は茲にある。佛寺建築の過去及現在はともかく批評して於いた。然らば將來は之を如何にすべきや。これが則ち問題であるのであつてしかも最も眞面目に最も切實に考慮すべき問題であらねばならぬ。必ずしも今の時世に佛寺建築を云々するの必要はないではないかといふ批評が下されるかも知れないが、其量に於ても質に於ても、相當な領分を保持してゐる此種の建築を今日整理しなければやがては什うにかせねばならなくなる今日究極の詮議をして於いて差支ないのみならず、將來のためには是非什うにか講究を爲て置くべき時機であると思ふ。これは必ずしも佛敎界夫自身の爲めのみでない。社會的にも此種過去の公共建築の殘骸を處理すべき義務がある樣に感ぜられる、況んや都市問題の高調せらるゝ今日に在つては少なくとも社會的建築物の項中に其運命を決せらるべきであると思はれる。

先年來政府當局者は一國の世道人心の指導啓發といふ理由の下に三敎合同といふことを劃策しつゝあつた。それも大勢が此の機運を產んだのであるにも係らず神佛耶の三敎の大家、大導師、大牧師連の合議は遂に何等の成果を擧げ得ずして徒らに世の物笑の種となつてしまつた、因より人心の多種多樣なる思潮の亂雜紛糺の現代に在つては一時的の此等の劃策は徒らに同士打の醜狀を曝露するに過ぎない爲めに文部內務當局者の親切は無になつて却つて此の劃策が具眼者の一顧にも値へしなかつたか、智識階級の一般人士からは冷笑の眼を以て觀られてしまつた。

第四十議會では神社に對する合同統一のため

か淫祠撲滅の策のためか郷社の廢止合一問題について大分貴族院で議論が沸騰した樣であり、民間に在つても神官の合同劃策が行れたことを記憶する。これは神道の不振に伴ふ一種の社會的壓迫が茲に然らしめた革進のあらはれと觀察することも出來やうが內務當局者の爲すべき仕事としては國家的政策の上から洞察すれば佛寺建築の統一策が刻下の急務である、佛寺建築は量に於て質に於て非常なる部分を持つて居る。而して其現狀は一日も放置し得られざる有樣である此の時機に在つて多種多樣の佛敎各派の僧族が其現狀を改革し統一して現社會の裡に現代的使命を遂行するの方策を立つることは最も必要なる手段であり政府當局者も何等かの措置を執るべきにあると思ふ、神道に於ける神社建築の量と質に於ては到底比較にならぬ、寧ろ少に過ぐる位のものである。

佛寺建築が現社會に順應すべき第一策は其建築をして現社會に交涉ある建築とするにある。苟も佛敎が今日に俱有する使命からいへば今日の時世に負いて居るべき時ではない其宏大なる敷地を有し莊大なる建物を徒らに過去の恩惠に放置して風雨に晒し置くべきでないと想ふ。居は氣を移すとかや、今日の佛寺建築は社會政策の上より見るも須らく耐火耐震の近代的建築に改築して何れも之を市中に設けて現代社會の交涉に應じて行くべきである。



佛寺建築（淺草寺）

今日都市經營の高調せらるゝ如く今日の文明は都市に在る、あらゆる百般の文物は都市に其使命を置いてある、德川期の民衆的宗敎が都市に其主要なる建物を建增し置いたのはこれが爲である。從つて今日市內に在る建物は之を都市全體の上から見

て立派なる公共建築の性質を有して居る、若し佛教の隆運か現代都市に再び其新運命を開托し行くものとすれば明かにそれは都市の眞只中から初めなければならぬ。

危險なる木造建築の大家高樓を都市の眞中に措くべきでない、須らく之れを耐火耐震の科學的建築に改造して堂々と都市建築としての眞價を發揮せしめて行くべきである。

(六) 佛事建築の將來 (下)

世態は日一日と其面目を新にしつゝある、又新たにせざるべからざる運命に在りとすれば、佛教界の世相もやがて一日は一日の新運命を開托しつゝあるに違いない。過去の遺物的偶像的佛教が兎も角數多の新たなる劃策を講じつゝあることは事實である様である、そして明治時代に殆んど行詰つたかの如く見た佛教が今日に於て何等かの光明の現はれて來たことは亦一つの新現象である様である。

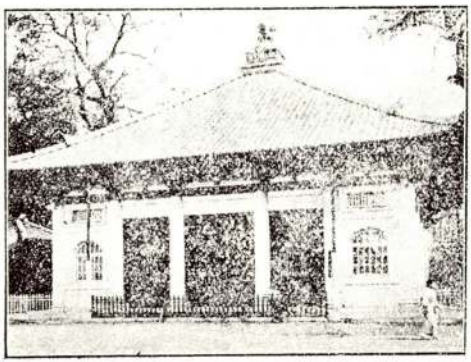
今日寡聞薄識の余が耳目にも大正時代維新の新潮として幾多の事實を見聞せしめられる、現代社會の大勢に動かされて佛教各派の僧侶が、社會的の地歩回復の運動に着手しつゝあるがために從來の消極的体度を改めて積極的に其門戸を開放して來たのみならず、進んで現代社會との接觸を一歩一歩に遂げんとしつゝある様である、例へば幽玄深奥な其經文を僧侶の獨專物視から開放して之れを通俗な國語に翻譯しつゝある如きは其著しき事實である、八萬何千部と稱せらるゝ經文の多くは從來殆んど漢譯を通じて我國人の眼に讀まれたのであるが、今日に於ては進んで原書の飜刻を着手しつゝ且除々に成効を齎しつゝある様である、經文の通俗化必ずしも佛教界の進歩でないかもしれぬ。乍然佛典は固より佛教徒の私すべきものでなくして、廣く救世弘誓の船であるべきである、現代人の志あるものをして、理解ある信仰を遂げしむべきである、此の點に關して彼等の努力を多としなければならぬ。

過去に於ては彼等が最も敵視せる基督教徒の積極的努力に對して、今日彼等は厭嫌の情を捨

て、寧ろ其熱烈なる献身的努力に尊敬の念を拂ふ樣になつた樣だ、同病相憐の情を抱いて、自からなる道行は意外にも、同一轍に出づるの快擧を斷行する樣になつた、日蓮の古法に則つたとも解譯せられやうが、佛徒の大道演說は今日左まで珍らしくなくなつた、甚しきは提灯を掲げ太鼓を鳴らして示威運動を開始するやうになつたがこれ救世軍の夫と同一軌道を走りつゝあるものではあるまいか、到る處會堂を開設して定日無料傍聽を許す說敎實演の形式は果然基督敎の顰に倣ふたものである。

更らに別動体にあつては、即ち其會堂を利用して現代的理想の慈善事業、救濟事業の策源地とし、右手に經典を握り左手に慈愛の情を湛へて佛陀の恩惠を物質的に具象するの謀もなしつゝある樣になつて來た。

こうなつて來ると更らに一步を進めて其建築を現代的耐火耐震構造に改築整理して、新時代に準應すべき公共建築とし、實社會の福利を增進するに利用せしむることは事實となつて現はれて來なければならない。既に神前結婚の新流行を追ふて佛前結婚迄も實行する樣になつて來た以上は、什うしても過去の佛寺建築をして現代社會の有用なる公共建築に改造することは、必然の結果になつて來たのである。



佛敎青年傳道會會堂

前號に於ては現代の佛寺建築に頗る極端なる罵倒を敢てした筆者は茲に明治大正の新時代に準應して現はれて來た新意義を具象する新佛寺建築を推稱するに吝かなるものでない。頃は明治の四十二年と記憶する淺草觀音堂の附近に忽然として新築されたる一會堂を招介するに躊躇することが出來ない。渺

たる一小建築も其含蓄する有意義の道程には可なりの部分を働いてゐるものと見なければならぬ。

佛敎青年傳道會堂の銘額を掲げて、俗氣紛々たる六區の見世物小屋を半面に睨み堂宇高く聳ゆる淺草寺の甍を半面に睥めたる五間四面單層鐵骨煉瓦造の一小宇は兎も角耐火耐震的に徹底したる建築である、「造立講堂報恩謝德」と刻したる施主は花川戸町に住する神木保衛といふ人である。此人の發願で斯ういふ建築を注文したに違いなかろうが、施主も設計者も使用者も夫々に目的を徹底せしむることに成効してゐると見ることが出來る。

又荒稜たる滿洲の風光を背景にして大連市の一角に西本願寺の出張所がある、煉瓦造單層の建築であつて不然質構造を採用してゐるといふ事である、黄塵萬丈の南滿洲であるから煉瓦造にしたといふ意味よりは從來の風習を打破して新意義の下に建設せられたといふ點に於て注目すべき建物であると思ふ。西本願寺が滿洲方面に對する劃策を俱象する上に於て其各出張所が煉瓦造の洋館に設けられてゐるのは頗る面白い意義を宿してゐることゝ思ふ。

事情は違つてゐるが三州秋葉山上に建立せられた、護國塔が鐵筋コンクリート造の新構造を思ひ切つて採用した事實の如きは亦明治時代末期を彩る此種建設物の一例である、以上二三の例を見ても夫々に新意義を樹立するの精神に於て少なくとも一歩を進轉し得たといふ事實はやがて大勢を誘導し行く段階である、其夫々の外裝の形式については亦別途の觀察を試みねばならぬ事であるにしても時代に順應するの意味に於ては兎も角も一歩を轉じ得たことに注目を拂はねばならぬ。

斯くの如き時潮の流れが既に〳〵現はれつゝあるの時に當つて、鶴見の總持寺や、芝の增上寺が如何なる事情あるにもせよ、舊來の形式を催用して可燃性建築を新築し或は經營せんとするは最も其意を得ぬ事である。殆ど大阪市中に平然と建築せられた各所の演舞場が重要なる一

種の公共建築なるに係はらず變態なる古風の木造であるのと同一轍の陷穽であると思ふ。姑息因循なる此等の不徹底策は其計畫の眞意義に於て、其目的の到達に於て共に盲目的下策であるといふ斷案が垂下せらるゝ事である。

苟も今日の時世に於て此種の公共的使命を有し公共的性質を帶ぶる建築が其舊態を脫するの方策に出づることなく、無意義なる舊弊の自縛に陷つてうたゝ經濟的損失を來しつゝ又來さんことは、社會にとりても、國家にとりても多大なる損失でなくてなんであらうか、佛敎界自身のためにも笑ふに堪へたる駄策であらねばならぬ賢明なる斯界の先覺者は今日に於て既に堂々たる覺悟を抱持せらるゝ以上は飽くまで徹底したる方策を講ずるに躊躇すべきでないと思ふ。

吾人をして更らに斯界のために一言を費やさんか、救世の使命を有し濟生の大業を立つるの雄圖を實現するの上に於て、數多の腐朽頽齡の佛寺建築を整理し、其社會的實勢力を振興するの途に出づるの快擧を敢てするならば、進んで都市の眞只中に一大公共的建築を起し、耐火耐震的構造とし、之れを一般公衆のために一大公會堂たらしむるに吝かならず、時には冠婚の式場とすべし、時には葬場殿ともなすべし、又は青年演說會場ともすべし、場合によりては救民の策源所たらしめ、時に細民の救護所に當て或は學校に敎會に講堂にあらゆる現代社會の利用を遂げしめ以て一面實社會との交涉を保持しやがては敎界の使命の遂行に便せしめんか、隔離され、疎遠に赴きつゝある佛敎界の頽勢を挽回するの途を得ること火を觀るよりも明かな事である。

豈夫れ一宗門一宗派の問題ではないのである佛敎其者の爲である、やがては國家の爲である國民のためである、そして斯くの如き徹底せる現代的公共建立には市民は爭ふて其淨財を寄附するに躊躇することもなからうし、政府其他の當局者、一般社會の識者も應援努力するに吝かならざることであると思ふ。（此項了）



帝都通信

普通賛助員　丘　周生

UN兄――東京の夏は例の通り銀座から始まります。街樹の若芽が萌ゆるとぼつ〳〵新しい麥藁帽が見られる。夜店には人が一人々々加はつて來る。そうして水を撒いた滑らかなペーヴメントの上に、街燈の光が青葉の濃やかな影を落すのも、もう近いでありませう。

かうして帝都に夏が來ます。散歩の折々に市街の建築物の噂を兄にお便りすることも一興ではありますまいか。

最初の拙稿は、この春書いたもので通信のつもりで書いたのではありません。寫眞を附けましたから參照して下さい。

兄の最近の御感想や大阪のお便りも伺ひたいと思ひます。

▲二つの事務所建築

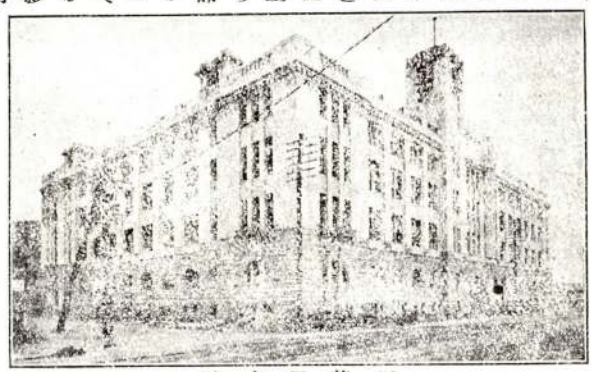
丸の内の廣場に、事務所建築が近頃また二つ出來上つた。「東京海上ビルディング」と「三菱假本社」とがそれである。吾人は今此の二者の優劣を比較しようとするものではない。茲にはこの碧い空を背景に浮び上つた白色の大建築物が何を意味するかを知りたいのである。手法、構材を通して、その底に何物が感じられるかを感じたいのである。とはいへ結局はこの一文は暗示乃至啓示に遭着せんとする者の、懷疑說に終るのであろうそれは暫く仕方がないとして。

先づ兩者に共通する要素を擧げることから始めよう。量に於て、「東京海上」は地壘上扶壁（バラペット）の上端まで九十三尺の七階建で本館（他に三階建の附屬家を有する）の建坪約七百五十坪といふのであり、「三菱」の建坪は六百拾坪五合、軒高五十四尺九寸塔の高さ八十八尺五寸で、全体は四階建である。斯く量の點に於て雄大なる美を所有する彼等は、その構材に於て更に永久性を保證するの力を有してゐる。即ち兩者共主要材料は鐵筋コンクリートであつて、其の使用された材料は莫大な數字を示すであろう。其他煉瓦も石材も亦夥しい量に及ぶであろう。序に所要日數を見るために工事着手から落成までの期日を書いて置かう。

「海上」工事着手、大正三年二月末、竣成同六年十月（大体に於て）

「三菱」工事着手、大正四年十月、竣成同七年四月末

扨て彼等の平面形に於ても表現に於てもなほ通有性の幾つかを見出すことが出來る。それは事務所建築なる目的を同くするが故に、「東京海上」は凹形に、「三菱」は口形に最も簡單な形をとつてゐる。勿論平面計畫には採光、換氣、交通其他に多くの用意が行き届いてゐる。また複雜な凹凸を避けて外觀を修飾することなくこれも最も簡潔なる直線によつて終始してある。たゞ多少の曲線を加へて、面に陰影に曲線の有用と效果を語るものは「三菱」であり極少の機械的曲線を加へたのみで、總ての直線的手法を極端にまで行つたのは「東京海上」であるといふ位の差はあるが、その基調が直線にあること、同時に總てが經濟的、實用主義的表現であることは同じである。それから色彩であるが「海上」一暑して書く)は壹階全部を花崗石と白丁場石「三菱」はそれを江持石の荒石を使用し、その上は兩者共白色化粧貼タイルと人造石或は白丁場の如き石を使用してゐる。即ち全體はいづれも單一なる白である日光に輝きつゝくつきりと少ない凹凸の陰影の斷續を自身の壁面に落して、碧色の空を背にした時、或は夕陽を浴びて薄紅の面紗をつけた面と、紫色の陰影をつけた面との錯綜する時、尙色々の光線に最も多感に影響をされてゐる處のこの單一なる白色は、何物か語るかの如く見ゆるのである。



三菱假本社

建築物全體を線の內の最も簡潔なる直線の基調に置き、極度にまで壁面影飾を去り、壁面の凹凸を出來るだけ少くし、直線の數をすら減少する傾向——それは最も直截に實用論を主張するものといへる。そしてそれが建築物として最も經濟的な實際の手法であるのである。

單一なる色彩に於ても同樣のことがいへるとすれば、この二大建築の表現は、現代の日本に行はれつゝある思想の一つの直接なる具象でなくてはならない。そうして數百の實粗な事務室を有するこの大建築は、資本主義文明の特別な產物でなくてはならない。茲にはそれの價値生命に就ての論は止めゝ、ただ建築物が如何にその時代の思潮、生活乃至その要求を具象するかを言へば足りる。

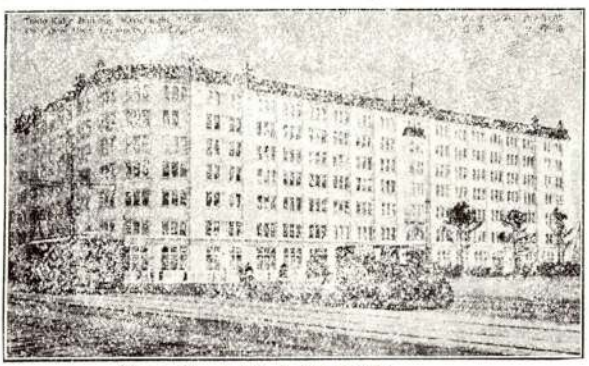
「海上」は實に直線である。痛い程直線と角い面の集まりである。凹字形の平面の西南の一角が圓弧をなし、公入口の上に半圓の迫持を有するのと、そして其上の圓弧の平面を有する出窓が、各層を貫いて出てゐるのとが、わづかに曲線の大きな表はれではあるが、これは一種の直線と云ひたい位な幾何學的の線である。其他建物を水平に走る蛇腹の繰形（モールディング）、簡單な飾（オーナメント）、持送の形の總てに曲線らしい曲線を

見ない。たゞ一つ、そして最も重要なことは第七階の窓である半圓アーチの連續はいかにも曲線の効果を美しく表はし得てゐる。例へば几帳面な人とその人の眠に見ゝ微笑のような感がある。それがいかにも所を得てゐる。軒蛇腹から上扶壁まで銅板包みとして空と建物に不快な太い一線を劃してしまつたことは失敗である。これはこれまでも吾々の建築に屢々持つた所の技巧である。よろしく壁面と同一の白色で行くべきではなからうか、その上の電燈裝飾も比較的手法のこまかい感がする軒蛇腹から上に吾人は賛成しかねゝ遺憾を有する。要するに、この建築物―或程度迄「三菱」もの全體は徹頭徹尾實用論の上に立ち、加之手法上乃至性格上に於て直線的決定的である。「海上」は全體にわたつて建築それ自身の性質目的それから種々の原因から、藝術的な温か味は殆んど表はれやうとしてその所を得なかつた憾みがある。

こゝに今後に來るべき建築の表現乃至作の根底に多くの問題が來るのである。

復興式と云はれる型の姿と、俗な色彩の混雜を有する中央停車場と、幾百年も永い時を遲々として潑み動くお壕との間に聳え立つたこの「海上ビルディング」が如何に實用論と建築藝術、經營經濟と藝術良心、社會と人などの問題を來るべき新時代のために提示してゐることであるよ。

そして先づその歸趨へ向つて先鞭を、彼がなしつゝあることに注意しなければならない。



東京海上ビルヂング

「三菱」には施律的な温味を少しは感じられる位に、曲線の有効な使用と、塔によつて破られたスカイラインと、面と面のおとなしい變化などの美を見出すことが出來る。壹階の窓の大きな重い迫持の連續、中央のタレットの下部や窓臺の繰形の曲線と平滑な面、荒石の面とタイルの面の移り、之等の面白味と陰影の構成する美しい効果は、色々な材料を使用した結果よりも遙かに高尚であり、深遠であるのが快い。

困つたことには大きな失敗が三つあることを擧げなければならない。

この建築を遠くから見ると最もよく近代的な概形、即ち壁面の扁平と垂直線感の高調されてゐるのがわかる、その軒のデンティルは小刻みに水平線の施律を形作つて流れてゐるそれであるのに遠くで聞いたこのデンティルの施律は近くへ來て、そのスケールの他と釣合はぬ位大きいためにポロ〳〵と脆くも壞されてしまう。それからこれが必然の形ではあつたかも知れないが、あの公出入口の威壓するやうな、或は力の全能力を盡して上部の荷重を支へ

てゐるやうな重い形が氣になる――「東京海上」もあの大迫持はいゝ形だとはいへない――何とかして力學的な餘裕のあるもつと眞い形が欲しかつた。も一つ側面に廻つて、正面と背面に近く屋上に置かれた(置かれたと云ひたい)小さな塔屋の形はどうしたのであらうか、これは正しく建物全體に對して時代錯誤を語つてゐる、

以上僅小の缺點を以て吾人はこの建築物の失敗をいふのではない否寧ろ或る意味に於て堂々たる新聞題の啓示者として尊敬に値することを高唱したい。日本に於て行はれるこの種の近代的建築物の内で如何にこの建築が、全體の感覺といひ、手法といひ總てに所謂あかぬけのした優越を示してゐることよ。丸の内に現存する三菱の最も古い事務所建築が復興式に系統をひいてたとへ西洋直寫とはいへよくその落付と均整をまとめ得てゐるのに對して、この新館が近代的の(最近代とはいへない)形に於てまとめ上げられたことが、手法系統の相異こそあれ面白い成功をおさめたものといふ點に於て、一致對照されて興味があるのである。

かくてこの新館は近代的といふ感じに終始する。その表現の底に流れる實用論思想や經濟上の苦心やそのための表現の洗練の仕方などは先きの「東京海上」の場合と少しも變りはないのである。

最後に上記の二建築の示す重要な樣式上の憮感を記さねばならない。

「海上」の方は全體として垂直線ではあるが、柱形の眞々が遠いのと、下層と上層との窓の間に、平らな廣い面があつてそれが水平線として働くために、遠くから見ると水平線感が著しく幾層も幾層も長く長く横に延びてゐるのを感ずる。

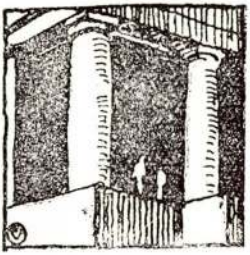
畢竟垂直線感よりも水平線感の多いルネッサンスの系統のに、その基調を置くかと思へるのである。これに反して「三菱」の方は寧ろ垂直線である、空へ空へと何物かを求め讃ふるやうに突き昇る感じである。その正面にある八角形の平面を有するタレットは遂にそのゴシック的な全體感の焦點をなしてゐるかの如く見ゆるのである。

かくて前者に於ける資本主義文明の實用論と經營經濟の表現なる直線には水平線によつてルネッサンス藝術の味が附與され後者のそれにはその近代的手法に於てゴシック精神の藝術味が加へられたと見ることが出來るのではあるまいか。

然るに、意外にも謎のやうにわからないことには、此兩者の全體感とは全く相反する感覺をその細部(ディテイル)から得るのである。兩者の細部をよく〳〵觀るに。「海上」の極端なる直線の集成は、高潔なる、冷たく否定的なる中世の氣持を多分に感じさせる。勿論それが總てゞはない。「三菱」の少しの曲線がその直線に交つて感じさせるものは、溫味と丸身を有する近代的な現實感である、勿論それが總てゞはない。

到底兩建築は近代的作物であるのであらう!

碧い空を背景に建てられたこの白い二つの事務所建築は、新らしい構材を通じて、多大の暗示と啓發とを、吾々の新らしい時代に齎らすであらう! (一九一八、五、五)



戀の柱頭

會員　まがれ

═建築史ロマンス═

未だドーリック式とアイチニック式しか無かつた頃の事である。

コリントの市に美しい縹緻と美しい戀心とを持つてゐる一少女があつた。そして其の少女は最つと幸福な事には初戀の美酒に醉つたまんまで死んで了つた。世の中の波風の冷たい事も知らない裡に、醒めての後の道ゝ瀾なさにも惱まない裡に、只もう華やかな戀心地に清い血潮を高鳴らして花野を飛び廻る胡蝶の樣にたわいも無く舞ひ狂ふた擧句、春が逝くより先に此世を去つて了つたのであつた。

その戀人を失つた青年の悲歎はまた世にも痛ましい物の極みであつた。二人は未だ結婚の式を擧げてゐなかつた。少女の死は二人の戀の媒がもう最高度に熟してる刹那であつた。それ丈けに青年の嘆歎は悲痛を極めた。青年は暇さへあると殺げ殻の樣な身体を戀人の墓場へ運んで冷たい墓標に取り縋つては悲歎の涙に暮れて居た。雪の樣な大理石の墓標の肌に接吻をして樂しかつた戀の追憶に耽るのが青年のたつた一つの心の慰めであつたのだ。そして其うやつて彼が墓場を訪れてゐる時丈けが又地下に眠る少女に取つても樂しみの『時』である樣な氣がするのであつた。

或る青年は彼れが居ない時にも少女の靈を慰め續けてやり度いと思つて戀人が生前好愛の寶石類を籃に入れて持つて來て墓の前に置いて歸つた。籃の上には裡の大切の寶石が雨露に犯されない樣にと一枚の瓦を載せて置いたのであつた。

華やかな南歐の春が來たが青年の心は一向浮き立たなかつた來る日も來る日も寂しい墓場を訪れて戀人の靈を弔ふのが青年の春の行樂であつた。土は青年の心に頓着なく歡びの聲を擧げた。寶石を入れた籃の下にもアカンザスの根があつたので其處ゝらも春の歡びの芽が萌へ出した。そして青年の涙の露にアカ

ンザスの若芽は見る〳〵生ひ茂つて籃の廻りを爬ひ上つた。それから蔽ひの瓦に行き當つて下へ曲折しては又攀ち上つて微妙な渦巻をそこに形成した。

又或る日青年はいつもの様に戀人の墓を訪れると其處でその寶石の籃にアカンザスの葉が巻きついてる格好を頻りにスケッチしてる紳士があつた。

『貴方はどなたですか、そして私達の話を御存じなのですか』

青年は不思議そうに紳士に恁う尋ねた。

コリンシアン式柱頭



『私はカリマカスと云ふ彫刻師なので御座います。別に此御墓についての由緒は存じませんが只この籃にアカンザスの葉が纏いついてそれが瓦に壓かれて渦を巻いてる格好が如何にも面白いと存じましたので一寸寫生を致して居ります。して貴方様は此墓の主の御家族で御座いましたか』

『私はこの地面の下に眠つてる少女の許嫁の夫なのです』

『あゝ左様で御座いましたか、御斷りのしようも無かつたのでツイ無斷で寫生を致しました。失禮の段は御許し下さいませ』

紳士は叮嚀に會釋をするのを青年は慌てゝ押しとゞめた。

『恁う致しまして、別に私は御告め立てを致した譯では御座いません、たゞ私達の事が街の評判になつて居りますので若しやつまらぬ御慰みの種かと氣が揉めまして御伺ひした様な譯で御座いました』

『へゝゝ何か此墓について御話があるので御座いますか、恁うやつて私の寫生帖に納めましたのも何かの因緣と存じます、御差支がなければ其話を御聞かせになつては下さいますまいか』

『いや別に御話しを致す程の事でも御座いません、只之れは私の戀人の墓なのでして私はどうしても此美しい戀人の死が諦め切れませんで毎日々々恁うして墓を訪れて來ては泣いて歸るので御座います、私の口から申し上げるのも異な物では御座いますがこの私の戀人は本統に眉目の美しい心ばえの素直な清い信仰を持つた天使の様な乙女でした。私はコリントの處女の代表者だと信じてゐました。今では私は此戀人の死を此世の最も美しい處女の精靈を永遠に生かして置かうとなさる神の思召であつたらうと信じる様になりました』

此の胸を切り開いて心臟の血を握んで拋けつける様な熱烈な青年の述懐を聞き入つてゐた彫刻師カリマカスはハタと膝を叩いて感歎した。

『此の墓の主は其麼に美しい處女でしたのですか。それでは此のアカンザスの葉はその處女の樣化です。美しい少女の靈が戀人の手向けの籃に纏い付いてるのです。之れこそコリントの處女の清い愛の象徴でしたれ。喜んで下さいコリントの藝術は貴方の戀人の靈に依つてアテンを征服する事が出來ました。』

カリマカスは狂人の樣に歡喜の聲を放つた。青年は狐につまゝれた樣な面持で問ひ返した。

一体何の御話ですか、私にはチツトも譯が分りません』

『あゝそうでした。只恁う云つても貴方には分らないんでしたれ。實は私は新らしい建築を創造し度いと思つて頻りに骨を折つて見てゐる人間なのです。私はあのドーリツク式の柱を見ると直ぐにスパルタの沒情漢の裸体姿を連想して癪に障つて堪らないのです、あの荒くれた巨漢の骨骼を模したと云ふドーリツク式の柱は決して此のコリントを飾る樣式では有りません。それから見ると婦人の毛髪を表はす爲めに Volutes を付け女衣裳襞を表はす爲めに Flutings を施したアイオニツク式は未だしもでは有りますが、然し其れも餘りに理智的です。アテンの既婚婦人の樣な冷たい柱で裝ふには此のコリントの街は餘りに華麗ですかられ。それで私は恁うかして此コリントの市に相應はしい處女的な優艶な柱範を造り出し度い物だと焦慮して居ましたが計らずも今日此處でその暗示を得たのでした。それは此の籃に纏いついて渦を巻いてるアカンザスの格好だつたのです。そして此の墓とこの籃とに結びついた美しいローマンスを貴方の口から承はつて益々私の信念は鞏固になつたのです。』

カリマカスも自分の衷心を吐露して強く青年と手を握り交はして別れて行つた。

やがてコリントの街に一つの新らしい建築樣式が現はれて忽ちに物凄い勢で建築界を風靡して行つた。その創造者はカリマカスであつてその柱頭は美しいコリントの戀の少女の靈の象徴であつたのだ。

そして此の樣式はコリンシアン式と呼ばれて永く廣く後の世迄も擴まり榮えた。（完）

◆作歌二首

和銅四年歳次二辛亥一河邊宮人姫島松原見二孃子屍一悲歎作歌二首

妹が名は　千代に流れむ　姫島の　小松がうれに　苔むすまでに。

難波潟　潮干なありそれ　沈みにし　妹が姿を　見まく苦しも。



時報

第五回結核豫防聯合會

第五回日本結核豫防聯合會は去る大正七年五月十四日午前十時より金澤市公會堂に於て開催せられたり、參會者は內務省衛生局、宮城、富山兩警察部、金澤醫專及び全國三十一團体の代表者七十餘名なり、開催地を代表し石川縣結核豫防會副會長松村警察部長開會の挨拶を述べ、內務省田村防疫官左記內務大臣の祝辭を朗讀す。

茲に第五回日本結核豫防聯合會を開催し結核豫防に關し研鑽攻究を重ねむとするは余の深く欣幸とする所なり

惟ふに結核豫防會の事業は現代國民の患害を除き民族永遠の福祉に資せんとするものにして現下我國に於ける衛生上の施設中最重要の一事業たり而して之れが遂行は固より官民一般の協力に依り統一ある方針の下に進むにあらずむば其功果を收むること難し曩に政府が本病豫防の爲め設置を命じたる重要都市の療養所は今や漸く完成を告げんとし他の公共團体に於ても之れが設置計劃を見んとするのみならず各地結核豫防協會の事業亦年と共に著しく進捗し斯業促進の氣運蓬々たるものあるは邦家の爲め寔に慶賀に堪へざるなり冀くは今後益々奮勵努力以て斯業の發達完成に務められむことを一言祝辭とす

大正七年五月十四日

內務大臣法學博士　水野錬太郎

當日松村氏推されて議長席に着き日本結核豫防協會細野理事及び北里理事長より聯合會事務の報告あり各地團体並に外國に於ける事業報告は之を省畧して直に議事に移る

(イ)小學兒童の掃除問題

（宿題となり居るもの）

元金澤市結核豫防會提出

大阪衛生會(松本)、愛知(北川)、石川(米村)、兩結核豫防協會等より本問題が懸案三年を經過して尙何等議決を得ざるが如き聯合會の威信にも關すべく要するに現行學童の掃除法が衛生上有害なることは已に多くの認むる處なれば之が除害に對する相當の措置を當局に望むは目下の急務なり徒らに調査に藉口して遷延するは最も不可なりとの

意見出で結局大多數を以て左の通り決定す

現行小學兒童の掃除法は衛生上有害なりと認むるを以て之が除害に對し相當の方法を講ぜられんことを文部大臣に建議する事

(ロ)結核豫防上學校衛生の改良刷新を圖る事

大阪結核豫防協會提出

石神同會理事より説明あり二三質疑應答の末左記原案の通り總理大臣及び文部大臣に建議することに決す

建議書

我國學校衛生法を改良し學童及生徒の健康を保護し且保健衛生殊に結核豫防に關する智識を得せしむることは結核豫防上最も緊急の事項に屬し其徹底的實施は結核豫防上極めて有効なりと認め茲に本會の決議を以て之を建議す願くは清鑑を垂れさせられ速に之に關する方法を調査し且つ之を實施せられんことを切望の至りに堪へず

理由及方法

我國に於ける結核死亡統計を見るに男女を通じて十五歳以上乃至二十五歳に於て最も高率を示し其職業に於ては教育者殊に小中學教員の結核率特に高きを見る斯の如きは他の文明國に其匹儔を見ざる處にして其原因種々あろ可しと雖も學校衛生の不備其有力なる一因たるべきは諸種の材料に依り綜合して推想に難からず隨て之が改良刷新を圖るは結核豫防上最も緊急を要するものと認む而して之れが改良に關しては近時文部省に於て學校衛生官を置き學校衛生講習會を開く等大に力を盡しつゝあるも猶充分に之が徹底を圖らんが爲めに

一、小學及中學校教科書中に結核豫防に關する事項を加ふること

一、高等師範學校、女子高等師範學校、各府縣師範學校及各府縣女子師範學校に特に學校衛生の課目を置き適當の教師をして之を擔當せしむること

(ハ)結核豫防上住宅改良法制定に關し建議の件

大阪結核豫防協會提出

片岡同會理事詳細なる説明をなし前項同樣原案通り總理及内務兩大臣へ建議することに決したり建議文左の如し

建議書

我國都市住宅の改良は結核病豫防上緊急の事項にして其法令の速に布かれんことは目下の急要なりと認め本聯合會の決議を齎し茲に之れを建議す願くは清鑑を垂れられ其制度に關する調査會の設置されんことを切望の至に堪へず

理由

結核豫防を徹底的に遂行せんには都市住宅の改良を以て最大要件となすこと今や歐米都市にては理論の時代を過ぎて實行期に入り着々其成績を擧げつゝあり彼英國に於ける結核死亡率が近年著しく輕減せしも其原因は主として一八九〇年發布の住宅法が各都市に急速實施せられつゝあるが爲なることは一點の疑を存するの餘地なし殊にレッチウオース田園都市及ボートサンライトの職工町等の改良住宅地區に於ける結核死亡率の驚くべき少數なるは如何に結核病と住

宅との關係密接なるかを示すものと云ふべし之れを我國の現時漸く蔓み行かんとする非衛生的住宅密集の狀態に鑑みる時は今後我國民の結核病罹患の慘狀は約そ想像するに難からず吾人は結核病が我國民を滅ぼさんとする最後の强敵なるを考ふる毎に旨般の結核豫防法の緊急なる中に就て都市住宅改良の最も急要なるを感ずるものなり而して我國の都市住宅改良は各般の事情と關連すること頗る廣きが故に當局に於て速に其改良制定の調査會を設けて之を審議し我國民一般の福利として結核病を未前に防くべき住宅法の制定されんことは目下の急務に屬すること吾人の右意見を開陳する所以なり

(二)結核豫防に關する法律發布に關する件

石川縣結核豫防會提出

飯森同會理事提出の理由を說明し、二三の意見もありしが結局大多數を以て原案可決建議書を提出することゝなれり是れにて議案全部議了次回開催地を山形市と確定し參會者總代北里博士の主催地に對する謝辭及び松村議長の挨拶あり午後四時閉會を告げたり。

翌十五日午前中は結核豫防展覽會を始め金澤病院龍六公園等參觀午後は公會堂に於て講演會あり北里、秦兩醫學博士片岡工學士及び栗本醫學士の有益なる講演あり夜に入りては結核豫防演劇及同活動寫眞を觀覽せしめ何れも極めて盛況を呈したる由なり。

◎都市計畫調查委員會

都市計畫調查會委員の顏觸れは六月廿九日の官報にて左の如く發表せられたり。

鐵道院副總裁　長谷川謹介
內匠頭　馬場三郎
內務次官　小橋一太
內務省地方局長　添田敬一郎
內務省土木局長　堀田貢
內務省衛生局長　杉山四五郎
大藏次官　市來乙彥
陸軍次官　山田隆一
海軍次官　栃內曾次郎
各部次官　田所美治
農商務次官　上山滿之進
遞信次官　內田嘉吉
警視總監　岡田文次
東京府知事　井上友一
東京市長　法學博士子爵　田尻稻次郎
從三位勳二等醫學博士　緒方正規
正四位勳三等工學博士　中嶋鋭治
正四位勳二等工學博士　近藤虎五郎
大阪市助役正五位勳六等法學博士　關一
正五位勳六等法學博士　松岡均平
正六位工學博士　佐野利器
正六位　藤山雷太
(關西建築協會理事長)　片岡安
都市計畫調查會委員被仰付
正三位勳二等醫學博士　北里柴三郎
臨時議院建築局技師　矢橋賢吉
從六位法學博士　渡邊鐵藏
(都市協會幹事)　藤原俊雄
都市計畫調查會臨時委員被仰付
內務書記官　池田宏
都市計畫調查會幹事被仰付

以上の顏觸れを見るに內務省は各局長、各省は各次官(外務は參加せず)、官內省は內匠頭、鐵道院は副總裁、夫れに警視總監、東京府知事、東京市長、生理學者一名、實業家一名、土木專門家二名、

法律專門家二名建築專門家二名を加へて總數二十四名である、臨時委員として法律家一名、生理學者一名市參事會員一名大藏省技師一名を加へて居る大体に於て本會の特に希望要說せる期待に添ひたる任命を見たれども、都市計畫委員會開設の急要を絶叫建議せる都市並びに建築に關係ある有力なる四個團体中僅かに二名の代表者を擧げたるに過ぎざるは甚だ遺憾とすべし、殊に建築學會々長並びに建築士會長の共に指名に漏れたるは如何なる理由に據りたるか、本委員定數二十四名の制限に拘束せられしとするも、臨時委員に此等の有力者を擧げざるは甚だ其意を得ざる處なりとす況んや都市計畫に關する講究には特に多數の建築家の努力に待たざるべからざるをやである。

□聖德記念繪畫館及葬場殿址記念建造物設計圖案募集規定

一、明治神宮外苑内ニ建設スヘキ聖德記念繪畫館及葬場殿址記念建造物ノ設計圖案ハ一般競技ニ依リ之ヲ募集ス

二、應募者ハ本規定並ニ應募心得ニ從ヒテ設計圖案ヲ作製シ大正七年九月十六日正午マテニ明治神宮造營局ニ到達スル樣之ヲ送附スヘシ

三、設計ノ要件左ノ如シ

い、葬場殿址記念建造物ハ殿址ヲ明示スルニ足ルヘキモノタルコト

ろ、聖德記念繪畫館ノ位置ハ葬場殿址ノ前方ニ定ムルコト

は、兩建造物ハ連續スルモ分離スルモ可ナルコト

に、聖德記念繪畫館ハ單層トシ下ニ地階ヲ設クルコト

ほ、繪畫室ヲ内法約四百坪トシ繪畫ヲ掛クヘキ壁面ノ長延ヲ約七百五十尺トス爲スコト

へ、兩建造物ハ耐震耐火的トシ其樣式ハ健全ナル現代美術ノ精華ヲ發揮スルモノタルヘキコト

と、葬場殿址記念建造物ノ工費ヲ約拾萬圓聖德記念繪畫館ノ工費ヲ約壹百貳拾萬圓ト豫定スルモ兩建造物ノ工費總額壹百四拾萬圓ノ範圍内ニ於テ相互ニ融通スルヲ得ルコト

四、提出スヘキ設計圖案左ノ如シ

い、敷地配置圖　一　縮尺六百分一

ろ、平面圖　各階　縮尺二百分一

は、立面圖　三　縮尺二百分一

に、斷面圖　二　縮尺二百分一

ほ、主要部詳細圖　一　縮尺二十分一

へ、透視圖　一

と、說明書

五、圖面ハ原紙ニ黑ヲ以テ圖シ敷地配置圖主要部詳細圖及透視圖ノ外著色陰影ヲ施スヘカラス

六、應募者ハ各設計圖面及說明書ニ暗號ヲ記載シ之ヲ鉛刀製ノ圓筒ニ納メ嚴封ノ上圓筒ノ表ニモ亦暗號ヲ記載スヘシ

別ニ宿所姓名ヲ記シタル名刺ヲ紙製封筒ニ封入シ封筒ニハ前項ノ暗號ノミヲ記シ之ヲ鉛刀筒ニ添附スヘシ

暗號ハ文字又ハ簡明ナル符號ヲ用フヘシ

七、設計圖ニシテ指定ノ期限ニ後レテ到著セルモノ他人ノ意匠ヲ剽竊又ハ模倣セリト認メルモノ其他本規定ニ違反シタルモノハ之ヲ審査セス

八、當選者ニハ左ノ賞金ヲ贈與ス

一等　一名　金五千圓
二等　二名　各々金參千圓
三等　三名　各々金貳千圓
四等　四名　各々金壹千圓

九、審査ノ結果ハ大正七年十月上旬ノ頃官報ヲ以テ之ヲ發表スヘシ

十、賞金ハ審査結果發表後二週間以内ニ之レヲ交付ス

十一、應募者ハ審査ノ結果ニ對シ異議ヲ申立テ又ハ説明ヲ求ムルコトヲ得ス

十二、應募ノ設計圖案ハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ公表スルコトアルヘシ
但シ當選者以外ノ氏名ハ之ヲ公表セス

十三、當選セサル圖案ハ當局ノ經費ヲ以テ之ヲ還付ス

十四、審査員左ノ如シ

工學博士　古市　公威
東京美術學校長　正木　直彦
明治神宮造營局參與　工學博士　塚本　靖
明治神宮造營局參與　工學博士　伊東　忠太
明治神宮造營局參事　工學博士　荻野仲三郎
明治神宮造營局參與　工學博士　佐野　利器

應募心得

一、明治神宮外苑ハ之ヲ舊青山練兵場ニ造設シ樹林泉池ヲ設ケテ公衆ノ優遊ニ任セ數種ノ建築ヲ起シ依テ以テ永ク祭神ノ鴻業聖德ヲ偲ヒ明治ノ盛世ヲ記念セントスルモノナリ

二、葬場殿址記念建造物ハ大正元年九月御大喪儀ノ砌葬場殿ニ充テサセラレタル位置ニ之ヲ建設シ以テ其殿址ヲ永久ニ記念セントスルモノナリ

三、聖德記念繪畫館ハ祭神御一代ノ御事蹟中最重要ナルモノヲ繪畫ニ表ハシテ壁面ニ掲ケ普ク衆庶ノ觀覽ヲ許シ以テ永ク祭神ノ鴻業聖德ヲ景仰セシメントスルモノナリ

四、繪畫ノ大サハ額緣外法ニ於テ高サ約十尺タルヘキ豫定ナリ

五、聖德記念繪畫館ノ設計ニ就テハ採光防濕ハ勿論公衆ノ昇降順路下足處理等ニ十分ノ注意ヲ要スヘク地階ニハ事務室ト足室便所物置其他ノ室ヲ設クヘシ

六、聖德記念繪畫館線圖ハ參考ノタメニ添付スルモノニシテ募集設計ヲシテ必スシモ是ニ依ラシムルノ意ニアラス

七、聖德記念繪畫ノ位置及其四週ノ處理ニ付テハ設計圖案募集規定ニ依ル外添付ノ外苑計畫一般線圖ニ拘泥スルヲ要セス

八、敷地配置圖ニ示サルヘキ區域ハ兩建造物四週ノ處理ヲ示スヲ以テ足レリトス

九、工費中ニハ繪畫調製費ヲ除キ室内諸設備建造物周圍ノ整理盛土假設物竝ニ工費雜費等一切ノ實用ヲ含ム

十、建築材料ハ止ムヲ得サルモノヲ除ク外内國產ヲ用フヘシ

十一、葬場殿址附近一帶ノ地ハ地表直下ヨリ堅牢ナル赤土「ローム」ニシテ一平方尺ニ付安全ニ二萬噸ノ荷重ニ堪フルノ見込ナリ而シテ其一帶ノ地ニハ約五尺ノ盛土ヲ爲ス豫定ナリ

十二、說明書ニハ意匠ノ要旨ト材料及構造ノ概略トヲ簡明ニ記スヘシ

十三、圖面ノ大サハ「ヲットマン」全紙大ノモノヲ適當トス

十四、設計圖案ニ記載スヘキ文字ハ總テ楷書ヲ用フヘシ

十五、設計圖案募集規定及本心得ニ付質問セントスル者ハ大正七年八月三十日限當局ニ書面ヲ以テ問合スヘシ當局ハ成ルヘク詳細ナル問答ヲ與ヘンコトヲ期ス

十六、應募者ハ敷地ヲ踏査スルヲ得

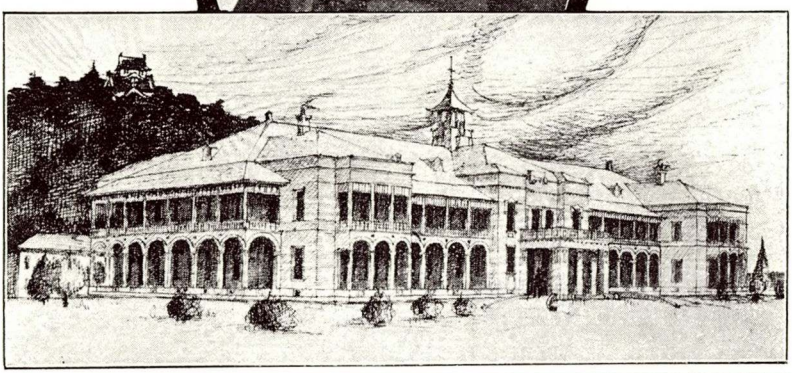
添付圖面　（略之）

外苑計畫一般線圖　縮尺二千四百分一
聖德記念繪畫館線圖　縮尺四百分一

以　上

故會員西村愔爾君と
高知縣廳舍配景圖





大正七年五月廿七日、會員工學士西村愔爾君の訃報に接した、君は明治四十二年の夏其螢雪の功を終へられてから、大阪府技師、山形縣技師を歷任して、高知縣技師の重任を帶び、現に高知縣廳舍の建築に營意劃策せられつゝあつた。君の逝去を聞いて吾耳を疑はざるを得なかつた程眞に突然であつた。往ぬる春風四月君は百里を遠しとせずして建築學會大會へも出席せられた位であつたのに、人生無常の嘆に堪へぬ。

君は立派な建築家であつた。あの樂天的な思想とあの多方面な趣味とそして何處迄も緻密な頭腦で「眞の建築」を實現するに努力せられた事は忘ることが出來ない。實に惜しむき人を失つた。嗚呼哀しい哉。悼きしい哉。

「人生は意氣に感ずるに在りさ」と微笑して大阪から山形に赴任せられたあの日の事も思ひ出される。高知縣廳未だ成らず。君の遺憾此上もなからうが、其規模は既に確立し、工事は着々進行して居るのであるからして、君の遺圖は不日成功を遂げることであらう。



會報

會誌

一、本會雜誌第一輯第八號は六月下旬之を刊行し、各府縣知名有力者、各種學會、協會及各新聞社並びに建築に關係ある各學校に寄贈配布し置きたり。

一、本誌第一輯第八號より其發行日を毎月二十五日に改めたり、依りて原稿〆切を毎月々末としたり。

新入會員

一、左記氏名は今回特別賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり。

村井季四郎

一、左の諸氏は今回普通賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり。

竹村近衛　森勝義
友田薫　黒木謹貿
丘周

寄贈圖書雜誌及新聞紙

建築雜誌六月號（建築學會）
建築世界六月號（建築世界社）
內外建築六月號（內外建築土木時報社）
土木時報六月號（住宅改良會）
住宅六月號（大阪府衛生會）
通俗衛生六月號（木材新聞社）
木材新聞
建築構造學（工學士內藤多仲氏著）（早稻田大學出版部）

會合

特別理事會

日時　大正七年六月十二日　午後六時
會場　本會事務所
出席　片岡、野村、日高、松本、波江、
記事　左の事項につき意見を交換せり

一、會誌編輯に關する打合のこと

一、第十三回例會を談話會とし左の件を主題とすること

イ、請負見積手數料金の件
ロ、請負保証金徹廢の件
ハ、請負見積書提出期日の件

一、各部委員會を定日にすることを諮ること

一、大阪市より職工住宅に關する設計を特に本會宛依頼し來りたるを以て第三部委員會に廻送して調査を開始したると

第拾參回例會

日時　大正七年六月十七日　午後六時―十時

會場　中央電氣倶樂部

出席者　計三十三名

片岡、木子、葛野、熊澤、波江、野村、荒川、牛村、伊藤(正)、小笠原吉木、馬野、谷本、野呂、園部、山本(鑑)、渡部、内藤(益)、須川、吉井小川、荒木、池田(實)、木村、本田、石田、大林、宮飼、糸崎、永田、加護谷、中村(庸)

記事

一、片岡理事長壇に上りて前月中に於ける諸般の報告をなす。殊に都市計畫調査委員會に關する詳細なる説明と大阪市より依頼に係る職工住宅設計案につき第三部委員會に於て直ちに調査を開始せる件につき報告する所ありたり。

一、主記より更らに諸般報告の遺漏を悉くし新入會員諸氏の詮衡會に移らんとせしも、出席員定數に滿たず、爲めに附議を見合せたり。

一、八時左の三件につき談話會を開く。

イ、請負見積書手數料の件

ロ、請負契約保証金徴收の件

ハ、請負見積書期日に關するの件

一、右の三件に關する意見は前號所載の如く既に請負業協會春季大會に於て話題に上れる重要案件にて同協會に於ては研究の餘地充分あるべきを以て結局委員會を開き之れに附托せられたるもの也當日出席せる大林賢四郎氏は改めて特に此三件を説明詳細する處ありたり。

一、茲に於て片岡、葛野、池田、木子、加護谷、波江諸氏交々質問並に意見を發表し、請負者側として大林氏一々説明の勞を執り、更らに石田氏の之を補ひたれども結局未だ研究すべき餘地充分ありとし、更らに後日を期することに決したり閉會せるは十時過なりき。（以下次號）

會告

本會々費及廣告料金收集に關しては左記へ一任致候間此段御承知相成度候

大阪市東區北濱四ノ一

帝國集金社

電話本局一三七三番

大正七年七月

關西建築協會

編輯だより

□盛夏酷暑之候、諸彦愈御清穆奉賀候。

□大阪高等商業學校教授法學士伊藤眞雄氏の「英國に於ける住居及都市計畫法令」は都合ありて當分掲載見合仕候。尙同氏よりの御注意により本誌第六號及第七號所載論文中の誤字下の如く訂正仕候。

□本誌へ御投稿御希望の諸彦は、御申越次第本誌原稿用紙發送仕るべく候。

□本誌購讀御希望の諸彦は本會事務所宛御申越相成度、又購讀料金御發送相成被下候節は、振替口座（大阪三九九七五番）宛御拂込相成度此段申添候。

正誤表

頁	段	行	誤	正
十七	下	三	建設爲めのに	建設の爲めに
十八	上	八	樓息に	棲息に
二十	上	十三	田舍地方區	田舍地方區
二十一	上	一	ずる料金	ざる料金
（以上第一輯第六號分）				
頁	段	行	誤	正
二十六	下	九	而して務廳が	而して政務廳が
同	同	十一	假令中に	假令中に
同	同	十二	右保健例の	右保健條例の
二十七	上	五	費用に	費用は
同	同	十七	住居校例	住居條例
同	下	二	財源と發す	財源と爲す
同	同	二十一	有害ある	有害なる
二十八	上	十	製定	制定
同	上	十一	地方應	地方廳
二十九	上	九	部會	都會
同	下	二十二	傳染病忠者	傳染病患者
同	下	四	當に	常に
同	同	十六	係健醫員	保健醫員
同	同	十九	汗惡狀態	汚惡狀態
同	同	二十三	係健醫員	保健醫員
三十	上	二	‖本法	又本法
同	同	二	昨以後	時以後
同	同	二	私と	私に
同	同	三	非るれば	非れば
同	上	二十	（一）	（一）
（以上第一輯第七號分）				

役員及職員

理事長　片岡安
理事　池田寛（主計）
　　野村一郎（編輯）
　　瀬戸文吾（編輯）
　　日高胖（編輯）
　　波江悌夫（主記）
　　松本禹象
　　伊藤正文
編輯補　佐藤四郎
　　本田登
書記　岡部顯則
　　小谷信藏

會員	一三三	特別賛助員	三〇
普通賛助員	二〇五	名譽賛助員	一八
終身賛助員	三〇		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

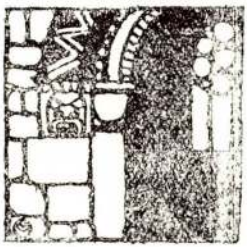
大正七年七月二十日印刷
大正七年七月廿五日發行　（每月壹回　廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人　伊藤幸太郎
兼印刷人

印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　關西建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

墺匈國首府維納市建築條令（續）



帝王國首府ウインナ建築條令（下）

平地ノ建築及街路水準

下ノ建物

第四十六條　新築家屋ニアリテハ各平地住室ノ床ハ已定ノ街路及庭園水準線上少クトモ十五珊知ニアラザルベカラズ

(2)住室ヲ右ノ水準下ニ設ケントスルニハ洪水ノ虞ナキ建物ニシテ次ノ條件ヲ有スル場合ニ限ル

1 住室各部ハ上昇ノ濕氣ニ對シ相當ノ隄防ヲ施スト同時ニ第四十一條規ノ內法ノ高サアルヲ要ス

2 住室各部ノ內法ノ高サガ四米突以上ニ達セザルトキハ少クトモ內法高ノ半バガ街路又ハ庭園上ニ突出セザルベカラズ而シテ此場合ニ庭園ノ幅五米突以上ニシテ最小限七十五平方米突ノ大サアルヲ要ス

3 之等ノ住室ガ內法高四米突以上ナルトキハ其床ハ平地面下二米突以上ナルヲ得ズ故ニ之等住室ノ各部ハ平地以上相當ノ高サヲ有スルヲ要ス坂地又ハ高サノ不陸ナル街路及庭面ニアリテ建物ノ各下層住室ノ床ノ高サヲ規定スルニハ其最高又ハ其レ以上ノ高キ水準ヲ適用スルモノトス

4 然レドモ室內々法高ノ半バヲ得ル能ハザルカ又ハ第三號規定ノ最低床ヲ絕對ニ必要トスル場合ニアリテハ其住室ニ建築署ガ規定セル幅二米突ヲ有スル地階床ニ達スル採光溝ヲ備フベシ

5 高キ土地ヨリ之等ノ住室ヲ區劃スルニハ本來ノ屋壁ノ他ニ該壁ヨリ三十珊知ヲ隔テ、尙第二ノ壁ヲ設ケ之ガ爲メニ出來セル空間ヲシテ外氣ト連絡ヲ保タシムベシ

6 之等ノ住室各部ハ通風自在ノ土中室廊下ヲ以テ他ノ穴庫室ヨリ之レヲ分離スベシ

(2)地下ニ設クル工場ハ其迫持天井（頂點）ガ少クトモ已ニ確定セル土地水平面上六十珊知ニアリ且其床ガ境界地ノ水準下多クトモ二、五米突以上低カラザルトキ及其他通風日光及乾燥ニ注意シ之等ノ注意ガ建築案中ニモ表示セラレアル場合ニ限リ之ガ築設ヲ許可スルモノトス

(3)右ノ外單ニ一時的滯在用ニシテ寢所ヲ

設ケザル場合ハ其目的ニ從ヒ衞生上相當ノ設備ヲナスベシ

(4)土中室ハ内ニ厨房及洗濯場ヲ設クルコトヲ得但採光並ニ蒸氣ノ發散ニ付キ相當ノ注意ヲ要ス

土中室ノ孔口

第四十七條 特別ニ建築署ノ許可ヲ受ケ且地主ノ承諾ヲ經タル場合ニ限リ人道ニ於テ土中室ノ孔口ヲ設クルコトヲ得但シ此等孔口ノ蓋及緣ハ花崗石ヲ以テ作ルベキモノトス

明リ取孔

第四十八條 街路ニ接シテ明リ取孔ヲ設クルニハ地主ノ承認及建築署ノ許可ヲ得ベシ而シテ通常建物ノ壁及ビ基趾突出部ノ内部ニ之レヲ設ケ負擔力アル硝子板又ハ鐵格子ヲ以テ之ヲ蓋フ場合ニ限ルモノトス

貯薪場

第四十九條 貯薪場ハ通常煉瓦造穴庫内ニ之ヲ設クルモノナレドモ屋根下ヲ開放シタル物置ナルトキハ平地上ノモノニアリテモ其内ニ之ヲ設クルコトヲ得

(2)之等ノ物置ハ圍壁並ニ屋面ニ達スル仕切壁ヲ有シ防火屋蓋ヲ備フベキモノトス

(3)室及厨房以外ニ多數ノ部屋ヲ有スル各住室毎ニ各目ニ一個ノ貯薪所ヲ有スベキモノトス

屋根小屋

第五十條 屋根小屋ハ耐火材料トシテ認メラレタルモノヲ以テ之ヲ覆フベシ

(2)屋根小屋ノ壁壇ハ屋根下床鋪石ヨリ少クモ八珊知以上ニ之ヲ置クベシ

(3)屋根小屋ノ各部ハ最上部ノ天井構造部ヨリ全ク分離スベシ

屋根下床室

第五十一條 屋根下床室ハ鐵枠又ハ石緣ノ鐵戸ヲ以テ閉鎖スベシ

(2)屋根下床室ニ住居ヲ設クルハ一般ニ之レヲ禁止ス

防火壁

第五十二條 三十米突以上ノ長サヲ有スル屋根ハ屋根下床ノ全幅ニ於テ防火壁ヲ設ケテ之レヲ區劃スベシ

(2)之等ノ防火壁ハ十五珊知以上ノ厚サヲ有シ且必要ノ場合ニ於テハ控柱ヲ設クベシ而シテ屋面ノ五珊知以上突出シ屋根用材ト全ク分離セルモノナルヲ要ス

(3)之等防火壁ハ各々石造又ハ鐵製ノ枠ヲ有スル鐵戸ヲ備ヘ而シテ此戸ハ自在開閉ヲナシ且兩面ヨリ捻手ヲ以テ其錠前ヲ容易ニ開クコトヲ得ル樣構造スベキモノトス

屋根樋

第五十三條 各新築家屋ニハ街路ニ面シテ金屬又ハ其他ノ防火性不浸透ニシテ且ツ相當ノ幅アル屋根樋ヲ設ケ雨水雪及屋蓋材料ノ落下ヲ防グベシ屋根端ニアヲズシテ夫レ以上ノ場所ハ屋根樋ヲ設ケタルトキハ樋及最下ノ屋根端間ニアル幅ハ樋ノ最底部ニ於テ三十珊知以上ナルコトヲ得ズ

(2)雪ノ降下ニ對シテ他ノ防禦準備ヲ施スハ出願者ノ任意ナレドモ此場合ニ於テハ建築署ノ許可ヲ受クルヲ要ス

(3)右ノ規定ハ已ニ現存セル比較的廣キ屋根ヲ有スル建物ノ屋端ヲ改築スル場合ニ於テ亦之ヲ適用スベシ

(4)屋根樋ニハ相當ノ廣サヲ有スル排水管ヲ裝シ之レニ依リテ水ヲ可成便尿

管ニ送ルベシ其他ノ場合ニアリテハ下水溝ニ導入スベシ

厩及飼料小舍

第五十四條 厩及飼料小舍ノ上部ヘ住室ヲ設クルニハ耐火性天井ヲ用ヒ厩及小舍トモ充分通風ノ設備アルモノナラザル可カラズ

通路ヘ面シ窓ヲ設クルニハ臭氣ヲ通セザル樣ニナシ且ツ開閉ナシ得ザルモノニ限リ之レヲ許ス

(2)厩ニハ尿水排泄溝ヲ備ヘザル可ラズ而シテ土地又ハ壁ヘ浸入セザル樣注意スベシ

(3)厩ヲ地下室ニ設クルニハ工業條令四十六章地下室規定ニ順ズ

物置

第五十五條 木材柱ヲ用ヒ天井ヲ設ケザルモ耐火屋根ナルトキハ物置小舍ヲ作ルヲ得

(2)隣家ニ接スルトキハ耐火壁ヲ設クベシ

(3)木造物置ニシテ耐火屋根ヲ用フル能ハザル時ハ特ニ官廳ノ許可ヲ受クベシ

肥溜尿坑

第五十六條 汚物及肥溜坑ハ浸入セザル圍壁及底ヲ設ケ且密閉シ得ル蓋ヲ備ヘ自家及隣家井戸並ニ居住室ヨリ成ル丈ケ遠距離ノ場所ヲ撰ビ設置スベシ

下水溝

第五十七條 新築又ハ之ニ等シキ改築ヲナシタルトキハ雨雪及汚物ノ排泄ニ付キ注意スベシ

(2)右ハ以下二項ノ方法ニ依リテナスコトヲ得

甲、家事用下水溝ノ築設

乙、汚物排泄ニ必要ナル水量アルトキハ導管ノ布設

甲ノ一家事用下水溝ハ可成勾配ヲ利用シ內法巾六十珊知以上高內法一〇五珊知以上ノ石造又ハ煉瓦造ノ卵形トナシ耐水「モルタル」ニテ接合シ又ハ「コンクリート」造リトナスベシ而シテ何レモ排水ノ中央水準線ヨリ高ク石等ニテ水溜底ヲ作リ完全ニ浸水ヲ防クベシ

甲ノ二煉瓦石ヲ用フル場合ニハ圍壁底部及二枚煉瓦厚ノ木槽立テ丸天井ニ至ル迄凡テ三十珊知以上ノ厚サトナシ溝內接合部ハ化粧目地トナスベシ

甲ノ三「コンクリート」下水溝ニアリテハ其壁ノ厚サヲ二十珊知以上トナスベシ

甲ノ四水準若クハ場所ノ關係ニ依リ前記寸法ニ從フ能ハザルトキニ限リ建築署ハ之ガ變更ヲ許スコトヲ得

乙ノ一導管モ亦最モヨク勾配ヲ利用シテ溯築ヲ施シタル堅燒粘土(石器)「コンクリート」又ハ認可セラルベキ材料ヲ以テ完全密實ニ之ヲ布設スベシ支管ヲ設ケタルトキハ其內法口徑ヲ十八糎トナスベキモ若シ數多ノ支管相合シタル場合ニアリテハ必要ニ應ジ其口徑ヲ大ナラシメ閉塞豫防ニ關スル適當ノ裝置ヲ施スベシ

乙ノ二下水溝及導管ハ大下水ト適當ノ連絡ヲ計リ家屋又ハ地面內

ニアリテハ自己及ビ隣家ノ井ヨリ可成遠ザケテ之ヲ布設スベシ

乙ノ三之等ノ導管ヲ住室内ニ通ズルハ通常禁ズル所トス若シ例外トシテ許可セラルヽ場合ニアリテハ下水溝又ハ導管ノ外圍ニ厚サ十五珊知ノ「コンクリート」ヲ裝ヒ又其昇降口又ハ檢査口ノ場所ニアリテハ何時ニテモ容易ニ之等ノ溝渠導管ニ達シ得ル樣布設スベシ

乙ノ四下水口ノ蓋ハ石又ハ理目アル鐵ヲ以テ之ヲ密閉スベシ

乙ノ五建築出願者ノ特別請求ニ依リ例外トシテ下水溝口ヲ小路上ニ設クルヲ許シタル場合ニ於テ其蓋並ニ緣ガ人道ニアルモノナルトキハ花崗石製トナシ車道ニアルモノナルトキハ充分ノ厚サヲ有スル理目アル鑄鐵製トナスベシ

乙ノ六家事用下水溝又ハ導管ニハ可成煙筒間ニアリテ屋根迄達スベキ通風口ヲ備ヘテ之ガ通風ヲ計ルベシ

乙ノ七汚物搬送(樽)法ヲ規定シ若クハ之ヲ許可セル市區ニ於テハ新築ノ場合ニ建築主ハ家事用下水溝又ハ汚水又ハ洗滌排泄管ヲ設クルノ外建築署ノ示定ニ從ヒ搬送法實施ニ必要ナル工事ヲ施スベキモノトス

暗渠

第五十八條 大下水ノ通セザル市區内又ハ街路ニ接シテ建築ヲナス場合ニアリテハ例外トシテ大下水ノ通スル迄暗渠ヲ設クルコトヲ得

(2)暗渠ハ「セメントモルタル」ヲ以テ浸水セザル樣ニ築造シ鋪石ヲ施シ密閉スルヲ要ス而シテ可成自己及隣家ノ井ヨリ遠距離ニ之レヲ設クベキモノトス

(3)家主ハ本下水ニ通シタル場合ニアリテハ即時ニ家事用下水ヲ設ケ暗渠ヲ除却スベシ

便所

第五十九條 便所ノ數ハ住宅ノ數並ニ廣サニ依ルト雖モ少クトモ二住宅毎ニ一ケ所以上ヲ設クベシ

(2)便所内法ハ90糎×120糎以上ナラザル可ラズ而シテ採光及換氣トモ充分ニナスベシ

(3)屋上ニ導ク放氣孔ハ木製ヲ許サズ而シテ其孔ノ巾ハ屋上ニ至ル迄同一ニナシ減少スベカラズ

(4)建築署ハ新築ノ場合殊ニ高源水道ヲ有スル市區ニアリテハ成ルベク各便所内ニ水洗器ヲ設備セシムベシ又住宅内ノ便所ニアリテハ水洗器又ハ之レニ類似セル裝置ヲ設クベシ

建築線外ノ突出部即チ

出窓廊下、「エルケル」、庇、蛇腹、正面裝飾部側石突出部及漆喰裝飾部

第六十條 正面突出部角屋各柱又ハ支柱駒寄セ柵前梯戸外階段等建築線ヲ越ユベキ突出部ヲ設ケントスルトキハ地主ノ承諾ト官署ノ認可ヲ受クベキモノトス

(2)屋蓋ナキ出窓持送リ上リ廊下ハ通例壁底ヨリ一、二五米突以下ニシテ欄

千又ハ胸壁ノ外緣迄ノ突出ヲ測リ之レヲ定ム

圍壁ヲ有スル出窓又ハ「エルケル」ハ其取付ケ壁ニアル二ツノ窓中心距離丈ケノ巾以内ニシテ道路巾十六米突以上ニ非ザレバ之ニ面シ設クルヲ得ズ而シテ壁ヨリノ突出ハ一米突二十五珊知以内ニシテ隣家ヨリ三米突ノ距離アルヲ要ス此規定ニヨラズ設置セントスル時ハ官廳ノ指圖ヲ受クベシ

(3)庇ハ前記ノ尺度ニ從フヲ要セズ其他現在ノ狀況ニ應ジテ之レヲ定ムベシ出窓廊下「エルケル」又ハ庇ハ耐火性堅牢ノ材料ヲ以テ之レ造リ街路及人道ノ交通ニ支障ナキ丈ケノ高サヲ有セシムベシ而シテ之等ニハ樋ヲ設ケ雨水ヲシテ家屋正面ノ排水管ヲ經テ人道ニ達セシムベシ

(4)蛇腹及正面裝飾物ハ耐火及堅牢ナル材料ヲ用ヒ外壁ヘ丈夫ナル取付ケヲナスベシ

(5)基趾突出部並ニ平地建物ノ裝飾物及入口ハ建築線ヨリ二十珊知丈ケ突出ナシ得ルト雖其高サハ一米五十以上トナスヲ得ズ

(6)前數項規定尺度ヲ超過セシメントスルニハ土地所有主ノ承諾及官廳ノ許可ヲ受クベシ

(7)煉瓦上ヲ漆喰セシ突出部ハ壁面（建築線）外十珊知以上トナスヲ得ズ

(8)階下及土中室ノ街路ニ面スル窓扉ハ內部ニ開カザル可ラズ

人道ノ布設

第六十一條 新建築物ノ持主ハ公ノ道路ニ面スル家屋面即チ建築場ノ全長ニ於テ人道ヲ設クベシ而シテ規定道巾ノ六分ノ一（兩側建築線間）若クハ多クトモ五、五七米突幅迄ハ自費ヲ以テ之レヲ布設シ市會ニ交附スルノ日迄之ヲ維持シ且布設ニ必要ナル水準測定ヲナスベシ

(2)人道ノ幅及構造其布設ノ時日及使用材料ノ性質ハ建築署ニ於テ之ヲ定ム規定ニ從テ布設シタル人道ハ一年內ニ市會ニ於テ之ヲ讓受クベシ但此場合ニアリテハ人道ニ損所アルヲ許サズ

(3)現在ノ人道用石ガ市ニ於テ之レヲ敷キタルモノニアラザル限リ改築ノ際其再使用ヲ許ス但シ建築署ガ使用ニ堪ヘザルモノトシテ示定シタル場合ニアリテハ瓦性ノモノト交換スルヲ要ス

給水

第六十二條 新築及改築ニシテ高壓水道管ノ敷設シアル場所ハ之レヲ以テ給水スベシ

水道管未設ノ場所ハ敷設ノ時期迄適當ノ方法ヲ以テ健康ニ害ナキ水ヲ使用スベシ

瓦斯計量器

第六十三條 瓦斯計量器ハ寢室ニ設クルヲ得ズ

煙火場

第一通則

第六十四條 煙突頭ハ屋根面上ヨリ一米突以上突出セシムベシ

(2)如何ナル種類ノ煙突タリトモ木材ニ接スル部分ト煙筒內徑トノ間少クトモ煉瓦一枚ヲ隔テ且ツ屋根瓦ヲ木葉建ニ張付クベシ而シテ此瓦ハ煉瓦石

等ノ竪及横接合ヲ全ク覆フ様ナラザルベカズ

煙突ノ屋根下ニアル部分ハ周圍ヲ漆喰塗ニナシ煉瓦接合ハ注意シテ塗潰スベシ

(3)煤煙ヲ直接ニ道路又ハ内庭若クハ一般戸外ニ放散セシムルヲ禁ズ

第二特別規定

甲煖爐及竈、厨房床

第六十六條 煙筒ハ各住室ヲ煖メ得ル様設置スベシ而シテ數個ノ煖爐ヨリ發スル煙氣ハ之ヲ一個ノ煙筒ニテ放散スベカラズ

(2)住宅ノ火焚場ハ一ケ場毎ニ一個ノ煙筒ヲ設クベシ

(3)室内煖爐ニ火力加減辨ヲ取リ付クルヲ禁ズ

(4)台所(竈)ノ床ハ其焚口前部六十珊知丈ケ耐火材料ヲ用ユベシ

乙 煙突

(イ)狹口煙突

第六十六條 狹口煙突ノ築設及使用ニ關シ左ノ如ク規定ス

(1)**狹口煙突ノ内部ハ平滑ニナシ閉圍式**焚場ニアリテハ其面積二百五十五平方トス方形ノ時ハ幅十五珊知壹邊十七珊知以上トナスベシ(15×15)

2小煙筒ハ四個以上ヲ一個ノ煙突内ヘ設クベカラズ

3開放セル異常ノ焚場ニハ數多ノ狹口煙突又ハ目的ニ相當シタル比較的大ナル斷面ヲ有スル煙筒ヲ設クベシ

(2)之等ノ煙突ハ垂直ニナスベシ水平ニ對シ六十度以下ノ傾斜ハ普通之ヲ許可セズ然シ特許ヲ得ル場合ニハ煤煙掃除口ヲ其傾斜部分ヘ設ケ且ツ扉ヲ取付クベシ尚ホ垂直線ノ傾斜起點ニ於テ掃除器ニ附シタル球ヲ以テ掃除ノ際周壁ヲ害セサル丈ケノ設備ヲナスベシ

(3)狹口煙突ハ各々其下端及屋根下床又ハ舖石又ハ階段上ニ於テ前後相接スル煙筒ハ各分離セル掃除戸ヲ備フベシ此戸ハ鑄鐵ニシテ四密米ノ厚サヲ有シ四方折重ナリ開閉ヲナシ其高サハ四珊知ニシテ幅ハ煙突ノ内法ニ等シクスベシ

2煤煙掃除口ノ扉ニハ家屋ノ番號及幾階目ニ設ケアルヤヲ記載シ而シテ其所在ハ通行シ得ベキ廊下ニ設ケ閉鎖セル屋根下床室又ハ穴庫内ニ之ヲ設ク可ラズ

(4)煙筒掃除ノタメ屋上ニ歩ミ板ヲ設クベシ

(5)煤煙掃除口傍ニ木材ヲ用フル時ハ木材ヲ薄鐵板ヲ以テ張ルベシ

(6)煙突ノ消火ヲ何時ニテモ容易ニ施シ得ンガ爲メ鐵製二重戸ヲ裝スベシ又穴庫ヨリ出デタル煙突ナル時ハ上階ニテ適當ナル場所ニ右ノ如キ消火戸ヲ設クベキモノトス

(ロ)掃除口ノ爲昇降シ得ル煙突

掃除人昇降シ得ル煙突ハ内法幅四十五珊知長サ四十八珊知以上タルベシ

(ハ)大煙突

大ナル火焚場又ハ機關用煙突ハ(煖房換氣用等)使用ノ際隣家妨害トナラザル様設備スベシ

(2)煙突ニハ下部ニ鐵戸又ハ加減辨ヲ設ケ其煙道幅及長トモ五十珊知以上ノ時ハ鐵製梯子様ノモノヲ内部ニ取付クベシ

(3)煙突ノ高サハ場所ニ據テ之ヲ定ムト

雖何モ後來三十五米突迄ノ建增ヲナシ得ル樣設備スベキモノトス

(4)右ノ如キ高煙突ノ堅牢度及壁厚ニ關シテ建築署ハ耐力計算ヲ請求スルコトヲ得此耐力計算ニハ左ノ二項ヲ證明スベシ

1 煙突周壁ノ重量ハ一平方珊知ニ付キ何レノ點分ト雖八「キロ瓦」以上ナラザルコト

2 一平方米突面積ヘ風力百五十基働クモノトシテ計算シ其二倍丈ケノ風壓ニ耐ユルモノタルコト

(5)煙突構造材料ハ不燃質ナラザル可ラズ

(6)鐵製竈ハ之ヲ許可スルコトヲ得レドモ鐵葉製ノモノハ分立セル工場ニ限ル若シ之等竈ヲ住屋內設ケントスルニハ一時的使用ニ限ルベシ

丙 蒸汽機關設置

大機關

第六十七條 大ナル蒸汽機關ハ可成地盤ヲ堀下ゲ而シテ住室ヨリ遠ザカリタル場內ニ設置スルヲ要ス

機關室ハ作業室トハ別ニナシ其隔壁ハ厚六十珊知以上ニシテ已ムヲ得ザル場合ノ外必該壁ニ入口ヲ設クルヲ得ズ天井ハ煉瓦迫持ニナス可ラズ重量輕キモノニテ構造スベシ大機關ヲ設置スルニハ建築署ノ認可ヲ要ス

小機關

第六十八條 個々使用ノ小機關ハ大機關ノ規定ニ據ラズ設置スルヲ得

小機關トハ直徑一米突二十珊知以下ニシテ水ノ量ハ規定水高標一米突立方以下氣壓六以下ヲ云フ左ノ場合ニ於テ小機關ハ住家又ハ工場ニ設置スルコトヲ得

1 機關ノアル直接上部ヘ居室アラザルトキ

2 小機關ノ煙突ハ普通煙突ニテ可ナレトモ隣家屋根棟ヨリ高キトキ

3 機關ハ隣家境界ヨリ三米突以上隔リタルトキ

(3)小機關モ(大機關ト同シク)建築署ノ許可ヲ受クベシ

(4)直徑八十珊知以下水量五十珊知立方氣壓四以下ナル「ツウエルヒ」機關ハ火葬場規定ニ依リ設クルヲ得

(5)此等ハ官署ノ許可ヲ受クル必要ナシト雖家主ノ承諾書ヲ建築署ニ提出シ同時ニ管轄委員ニ届出デ尙機關試驗ノ証明書ノ謄本ヲ差出スベシ然ルトキハ届出証明書ヲ下附ス

瓦斯「モートル」及熱風機關

第六十九條 瓦斯「モートル」熱風機關及其他「モートル」組織ノ運轉機ニシテ騷擾ノ音ヲ發セザルモノハ「ツウエルヒ」機關ト同樣ノ規定ニ依ル

(2)此他ノ場合ニアリテハ其設置ニ關シ建築署ノ認可ヲ受クベシ

(3)燃燒ヨリ生ズル瓦斯ノ放散ハ適當ノ方法ニ依ルベシ

第六章 集會用建物

第七十條 集會用建物ノ建築ハ該建物ニ關スル特別規定及警察法規ニ從フベキモノトス

第七章 工場建物

準工業建物及其建設

第七十一條 工業建物トハ製造所工作場及製作品貯藏所ヲ云フ

(2) 市會ハ工業建物ノ設置ニ付詳細ナル分界區域ヲ指定ス

(3) 工業建物ヲ大別シテ獨立セルモノ及獨立セザルモノ二種トス

獨立地ノ工業建物

第七十二條 獨立工業建物トハ單獨建物又ハ集合建物タルヲ問ハズ其家屋ノ一端ヨリ測リ他人ノ所有家屋或ハ隣地ヨリ二十五米以上ノ間隔ヲ有スルモノヲ云フ

(2) 道路、溜場、川其他堀等ハ間隔距離内ニ算ス

(3) 同種ノ工業建物ガ隣接スルトキハ其間隔ハ十米突ニテ可ナリ隣地トノ間隔ニハ建造物ヲ設置セザルヲ要ス

獨立工業建物ニ關スル概則

獨立工業建物ノ建築並ニ擴築增築ノ場合ニアリテハ願書ニ位置圖ヲ附スベシ此圖面ニハ工場全体並ニ之ニ屬スル各建物ノ原形、土地登記簿ノ表示隣家トノ境界並ニ其持主ノ名及ビ廢物及液体ノ排泄用下水布設設計ヲ示スベシ

(2) 本令第一章乃至第四章ノ右以外ノ規定ハ以下ノ規定ニ抵觸セザル限リ之ヲ準用ス

工業建物ノ特別規定

第七十四條 獨立工業家屋ノ構造及建設材料ハ建築主ノ隨意トス

(2) 但シ建築主ハ時期ノ長短ニ關セズ堅牢ヲ保持スルコトヲ証スベシ工事監督者ノ責任ハ第九十二條ニ從テ工事完成ノ官署証明ヲ受ケタルトキニ消滅ス

(3) 建築主及工業監督者ハ次ノ規定ニ對シ責任ヲ有ス

1 二階以上ノ工業建物ハ四圍耐火壁ニシテ其屋根モ耐火材料ヲ用ヒ而シテ非常用階段ヲ取リ付ケ各室ヨリ通達便利ニシテ容易ニ家屋外ニ出デ得ル樣設置スベシ

2 廣延セル工業場ハ其何レノ部分ヨリスルモ非常用階段マデノ距離四十米突ヲ超過セザル樣多數ヲ備フベシ

3 非常用階段幅ハ五十人以下使用ノ直折階段ニアリテハ一米突二十五珊知ニシテ屈曲階段ハ其幅一、五米突トス

4 五十人ヲ增ス毎ニ一、一五米突ノ階段幅ヲ增スカ或ハ之ニ準シ多數ノ非常用階段ヲ設クベシ

5 建物外壁離隔區域内ニ階段屋舍ヲ設ケ之レヲ非常用トナスコトヲ得

6 非常耐火階段以外ニ必要ニ應ジ木製階段ヲ設クルハ差支ナシ

7 眞ノ工場ニアラズシテ一時的ノモノナルカ又ハ小人數ニテ之ヲ使用スルモノニアリテハ木製階段ヲ設クルヲ得

(2) 不潔又ハ惡臭ヲ發スル流動体ハ土中ニ浸入セサル樣設備スベシ

2 公共暗渠ニ損傷ヲ來ス恐レアルモノハ暗渠ニ排泄スルヲ禁ズ

3 下水ノ布設ハ其現行規定ニ隨フベシ

(3) 建物最上階ノ高サヲ二十五米突トナシ其敷圍内ニ於テ幾多ノ階層ヲ設クルヲ得

(4) 製造所作業室ハ換氣通風ヲ適當ニナシ其室内ノ高サハ作業ノ種類ニ適スルモノナルヲ要シ三米突以下ナルヲ得ズ

(5) 公道ニ面スル壁ハ耐火壁トナスヲ要ス

(6)煙筒及煙突並ニ焚場及機關室トモ建築條令第六十四條乃至六十九條ハ獨立工場ニ準用ス

(7)細部ノ變更ハ許可ヲ受クルノ必要ナシ

2 前記規定ハ此場合ニアリテモ亦之レヲ適用シ建築完成後ハ書類ヲ以テ届出デ檢査ヲ受クベシ

特立セザル位置ノ工業建物

第七十五條 工業建物設置ノ際第七十二條ノ獨立地ヲ充分ニ有セザル場合ニアリテハ建築署ハ隣地境界最近ノ建物及其構造工業ノ種類及大小並ニ一般ノ地方狀況ヲ參照シ建築ノ場合ニ於テ建築警察署ハ多少ノ恩典ヲ與フベキヤ若シ與フルモノトセバ如何ナル條件ヲ附スベキヤニ付テ考査スルノ件ヲ權ヲ有ス

獨立セザル工業建物ニ關スル一般規定

第七十六條 獨立セザル工業用建物ニ對シテ其簡易建築法ヲ本令概則ニ於ヲ次ノ如ク定ム

1 焚場ノ近傍ニアルカ公道又ハ隣地ニ接スル壁ノ外ハ木格煉瓦造リノ壁トナスコトヲ得

2 壁厚其他構造部ノ耐度ニ付テハ建築主及工事監督者ノ責任トス

(2)監督官廳ハ耐力計算ヲ提出セシムルノ權ヲ保留ス

(3)此等ノ建築詳細圖ヲ添フベシ

獨立セザル工業建物ノ特別規定

第七十七條 此建物ニアリテ許スベキモノ左ノ如シ

1 火氣ヲ用ユル工作場、火災ノ恐レアル物品貯藏場ヲ除ク外木製壁トナスコト

2 墳充又ハ漆喰塗ナナサズ板張「トラム」床トナスコト

3 屋根小屋合掌ヲ天井構造ニ併用スルコト

4 階層ニ制限ナシト雖第七十四條第三及第四項ノ制限ヲ附ス

工業場建物ニ接スル住家

第七十八條 獨立工業建物ニ塗込鉄壁ノ場室ヲ以ヲ持主係員職工用ノ住宅トナスコトヲ得但シ煖爐房厨其他火焚場ハ建築條令ノ定ムル規定ニ據ラザル可ラズ住室ニシテ工場ト接スル時ハ防火壁ヲ設ケ之ト離隔シ公道ニ面スルモノハ耐火壁トナスベシ

(2)獨立セザル工業建物ニ接近シ此種ノ住家ヲ建設セントスル時ハ普通現行住家建築規定ニ依ルベシ

便所

第七十九條 如何ナル工場ヲ問ハズ工業場適當ノ地位ニ於テ換氣ノ充分ナル設備アル大小便所ヲ三十人毎ニ一ケ所宛ヲ設ケザル可ラズ

給水及消防具

第八十條 各工業建物ニアリテハ衛生的飲料水ノ供給（第六十二條）及適當ノ場所ニ水溜ヲ設置並ニ時々官署ガ命ズベキ消防具ノ備付ニ付キ注意ヲ要ス

營業場ニ關スル規定

第八十一條 營業場例中各種營業ノ作業場ニ關シ特別認可ノ必要アルモノハ本令ニ依テ變更セラルヽコトナシ

第八章 特殊建築物ノ規定並ニ輕減條件

（工業建物ヲ除ク）

特殊建物ニ關スル規定

第八十二條 市會ハ各分界區域ニ對シ次ノ如ク住屋建築ノ種類ヲ定ムルノ權ヲ有ス即チ

前庭ヲ有スル住屋ノ正面ニ圍壁ヲ設ケ又ハ前庭ノ有無ニ不拘別個ノ建築ヲナサシムルコト並ニ又右ノ場合ニ於テ前庭ノ廣サ各建物間ニ少クトモ存スベキ間隔家屋最大小限ノ高及階層數ノ確定

輕減認可

第八十三條 市會ハ各分界區域ニ對シ十ケ年ヅツノ期間ヲ以テ以下數條ニ示セル如ク本令規定ノ一部又ハ全部ヲ免宥スルノ權ヲ有ス

(2)**輕減認可ハ有期間內ニ變更又ハ取消ヲ受クルコトアリ此場合ニ於テハ本令一般ノ規定ニ遵フベシ**

(3)**市會ハ建築出願者ノ請求ニ依リ建築場ノ位置カ輕減ヲ受クルニ適スルモノト認メタルトキハ各工事ニ對シ其都度前項ノ輕減ヲ行フコトヲ得**

(4)**一定建築地ニ對シ右輕減ノ許可ヲ請求スル場合ニアリテハ建築許可願書又ハ建築場地分劃許可願書ヲ壹通又ハ各通ニ認メ提出スベシ**

(5)**建築許可願ハ本令總則（第十七、十八、十九、二十條）ニ從フベシ又第一章乃至第五章ハ本章中以下ノ各條ニ抵觸セザル限リ之レヲ準用スルモノトス**

簡易建築認可條件

第八十四條 簡易建築認可ニ依ルモノハ三階建以上ノ高サニナス可ラズ而シテ住宅ノ高サハ內法二米突六十珊知以下ナルヲ得ズ又一層內ヲ仕切リ中階ヲ設クルヲ得ズ

階段

第八十五條 簡易建築ノ階段ハ一米突ノ巾ニシテ階段裏ヲ塗込ミニナス時ハ木製階段ニナスヲ得ト云ヘドモ適度ノ階段數ヲ有セザル可ラズ

壁ノ厚サ

第八十六條 建築主及建築擔當者ニ於テ建物ノ堅牢ニ付キ責任ヲ有スベキ壁ノ厚サ及材料ニ關シテハ次ノ規定ヲ適用ス

1 四十五珊知以上ノ壁ノ厚サノ時ハ碎石又ハ混合壁ヲ以テ築造スルヲ得

奥行六米突半以內ノ室ヲ有スル外壁ノ厚サハ最上階二層（三階及二階ヲ云フ）ヲ通ジ四十五珊知ノ壁厚トナスコトヲ得

(2) 二階家ノ地階ハ碎石及混合壁ノ場合トモ本壁ノ厚六十珊知トナスベシ

2 四十五珊知以下ノ壁厚ノトキハ煉瓦壁トナスベシ

3 平家建又ハ平屋建以上ノ最上階外壁ニシテ煉瓦石ヲ用フルトキ三十珊知トナスコトヲ得但シ其階ノ高サハ內法三米突ヲ超過スベカラズ

4 木格煉瓦積込壁ハ外壁又ハ內壁トシテ兩ツナガラ之レヲ許可ス

5 仕切壁ハ任意ノ材料ヲ使用シ得ルト雖居室壁ハ耐久壁又ハ木格煉瓦積込壁ニシテ其厚十五珊知以上ナラザル可ラズ

6 火焚場ヨリ遠カラザル壁又ハ煙筒ヲ有スル壁ハ厚サ四十五珊知ノ耐久壁ニナスベシ

7 隣家トノ隔壁又ハ二十五米突以上ノ桁行アル家屋ニハ隔壁トシテ三十珊知以上ノ煉瓦壁或ハ防火壁ヲ設ケ屋

根各方面ヨリ二十五珊知以上突出スル樣設置シ木材ヲ使用スルヲ得ズ此等ノ壁ニ通路ヲ設クル時ハ特ニ許可ヲ受クベキモノトス然レドモ防火的設備ナキモノハ通路ヲ設クルヲ得ズ

(3)隣家ト共同ノ防火壁ヲ設クルハ差支ナシ

8前記煉瓦及石造壁ノ厚ハ「コンクリート」壁ノ時モ同シ厚サトナスコトヲ得

屋根階床（但シ簡易建築法規ノ分）

第八十七條 屋根床ハ八珊知厚ニ填充物ヲ敷キ其上ニ四珊知厚ノ粘土塊キヲナスカ又ハ瓦石ヲ舖クベシ

2屋根ハ耐火性ニナスベシ

3屋根床ノ居住室ハ一家族用ノ一軒建又ハ別莊ニ限リ之ヲ許可スト云ヘドモ採光換氣トモ充分ニシテ天井勾配アル時ハ高キ所二、六〇米突以上其低キ所ニテ二、一〇米突以上ノ高サヲ有セザル可ラズ天井及壁トモ木舞打付ケ漆喰塗ニナスベシ尚ホ出火ノ際ニ容易ニ外出シ得ベキ廊下ヲ設クベシ

(2)煉瓦積込木材壁ノ建物屋根層ハ一階建以下ノモノニ限リ住室ヲ設クルヲ得

穀物藏小舍及厩

第八十八條 穀物小舍ハ成ル可ク獨立ニナシ且ツ他建物ト適當ノ間隔ヲ設ケ距離及其他ノ關係上他ノ建物ニ危險ヲ及ボサヾル地ニ設クベシ

2煉瓦積込木製壁カ又ハ夫レ以上ノ丈夫ナル壁ニナシ屋根ハ耐火性ノ材料ニテ葺クベシ

3穀物小舍ヲ住家又ハ家事向取扱家屋内ニ設クルニハ周壁不燃性ノモノヲ用ヒ入口ニハ鐵戸又ハ鐵板ヲ張リシモノヲ取リ付ケ住室及家事向取扱家屋ヨリ防火壁ヲ以テ分離スベシ

4隣家ノ地面又ハ庭上ニ面シテ穀物小舍ノ側壁又ハ前壁ニ通風口ヲ設クルヲ得ズ

5厩ハ可成獨立ニ建設シ住家ヨリ隔テ住家側ハ耐火壁ニナシ屋根モ同樣耐火物ヲ用ユベシ又尿水ノ排棄ニ付キ其方法ヲ講ズ可シ

貯薪場

第八十九條 簡易建築法ノ許可サレシ貯薪場ハ木造小舍トナスヲ得レトモ耐火屋根トナスベシ

第九十條 簡易建築法ノ許可サレシ庭内ニ木製便所ヲ設ケ得ルハ本建家ガ平屋造リノ時ニ限ル

2簡易建築ノ許可サレシ場所ノ住家ハ二軒ニ付キ少クトモ一ケ所ノ便所ヲ設クベシ

第九章 建築落成後ノ注意規定

道路敷地ヨリ各種材料ノ除却及敷石布置

第九十一條 建築落成後ハ建築主又ハ讓受人ニ於テ溝渠ヲ掃除シ使用セザル溝並ニ放棄シタル穴庫其他ノ凹所ヲ埋メ廢屑木材及一般ニ建築ノタメ散亂シタル道路ノ物体ヲ除キ土又ハ材料積置ノ爲メ出來セル道路ノ凸所ヲ削リ其他道路舖石ノ損シタルモノ及人道ヲ修理シ（第六十一條）且一般ニ其附近ニ於ヲ工事ノタメニ起レル變化又ハ破損ハ自己

ノ費用ヲ以テ直ニ修覆スベシ

住居及使用許可

第九十二條 新築或ハ著シク改築セル住家ハ營業場、小舍、製造所、工業場ハ工事施行ノ適否及乾燥度及健康ニ害ナキヤ否等ニ付キ建築官吏之ヲ檢査シ然ル後居住又ハ使用認可ヲ受クニアラザレバ之ヲ使用スルヲ得ズ

2 右ノ許可ハ內部造作及裝飾ノ完否ニ關セズ只建築自己ノ狀態ニ關スルモノトス

3 現場檢分ハ屆出ノ後八日以內ニ之レヲ行ヒ檢分後八日以內ニ於テ許否ノ指定ヲ與フ

第十章 建築條令ノ違犯及其所罰

第九十三條 普通形法ノ範圍ニ屬スル本令ノ違犯行爲ハ普通刑法ニ依テ處斷ス其他ノ犯違

第九十四條 本令第二十六第二十七及第二十三條ノ違犯行爲ニハ二十五乃至一千「フローリン」ノ罰金ヲ課ス右以外ノ本令規定及ヒ建築署ガ其管轄內ニ發シタル命令ニ犯シタルトキハ五乃至三百「フローリン」ヲ課ス犯罪ノ種類ニ依リ工事擔當人又ハ建築主又ハ兩名ニ對シテ處罰ヲ施スモノトス

(2) 罰金納付不納ノ場合ニアリテハ相當ノ拘留ヲ以テ之ニ代フ但拘留ハ三ケ月以上ニ及ブヿヲ得ズ

規定ニ反スル工事ノ中止

第九十五條 處罰ヲ受ケタルトキハ本令又ハ建築署ノ特別命令ニ反スル行爲ヲ中止シ必要ト認ムル場合ニアリテハ工事ノ除去ヲ命ズ

第十一章 建築條令執行官廳市廳ノ職務

第一 總則

第九十六條 本令ノ執行ハ市廳並ニ其管轄官署ニ於テ之ヲ任ズ市廳ガ市會又ハ市參事會ノ決議ヲ請求スル場合ハ第百五條ニ於テ之ヲ定ム

(2) 特別規定

甲 建築許可

第九十七條 市廳ハ各市人ノ工事ニ付キ許可又ハ禁止ヲ命ズ市ノ所有權（市有不動產又ハ市有財產）又ハ公ノ通行ニ關シ特ニ市ノ利害ニ關スル建築ニアリテハ認可前市參事會ニ提出シテ認可ノ承諾ヲ求ムベシ

(2) 認可証下附ハ本令第二十四條ニ從テ之ヲ取扱フモノトス

乙 委員ノ交涉

第九十八條 市廳市會又ハ市參事會ガ認可スベキ各種ノ建築ニアリテハ第二十一條規定ノ委員ノ交涉ヲ開始ス此場合ニアリテハ市ノ技術機關區長又ハ區長ノ代理權ヲ有スル區內委員ヲ招集ス

(2) 委員交涉ノ場合ニ於テ市廳ハ隣人及其他ノ利害ヲ關係人（第二十三條）ノ異議ヲ聽取リ商議ヲ試ムベシ

(3) 維納市又ハ市會ノ管理下ニアル資本ニ依ル建築物ニアリテハ市廳ハ其職務上製作シタル調書ニ意見ヲ附シテ之ヲ市參事會ニ提出ス

丙 治安及道路警察上ノ處理

第九十九條 各種ノ建築ニアリテ市廳ハ材料置場ノ指示及建築開始ノ爲メニ必要ナル治安及警察上ノ備準一切ヲ處理ス（第三十五條）

丁工事ノ監視

第百條 市廳ハ左ノ事項ニ付キ市ノ技術機關ヲシテ監視セシム

1 許可前又ハ期間内ニ抗告ヲナシタル場合ニハ管轄署建築認可ヲ証明シタル以前ニ於テ工事ヲ開始又ハ實施セサル事

(2)建築線及水準線ノ遵守

(3)認可建築圖案ノ嚴守

(4)無資格者ガ工事ヲ擔當セサル事

2第一、二、三號ノ規定ニ反シ不良材料又ハ良好ナル材料ヲ不當ニ使用シ又ハ缺點アル構造若クハ組立ヲ其マヽ實施スル事ヲ監視機關ニ於テ發見シタルトキハ工事ノ繼續ヲ禁止シ同時ニ之ヲ市廳ニ届出ツベシ此場合ニ於テハ指摘セラレタル缺點ヲ除キ若クハ違反事項ヲ法律上許可セラルベキ樣訂正スルニアラザレバ其繼續ヲ許サズ

3無資格工事擔當者ニ對シテハ工事ノ繼續ヲ禁止ス

4監視官ノナセル右ノ所分ニ異議アルモノハ市廳ノ判決ヲ乞フ事ヲ得

5建築認可書中ニ構造部ノ耐力試驗ヲナスベキ重量ヲ指示スル場合ニアリテハ市技術者ノ面前ニ於テ其試驗ヲナスベシ若クハ當該工場ニ於テ其成績ヲ証明スルモ妨ゲナシ

6建築中又ハ其落成後ニ於テモ必要アル場合ニ於テハ建築署ハ前記ノ試驗ヲ命ズル事ヲ得

7重量試驗施行費ハ建築主ニ於テ之ヲ負擔スベシ

戊住居又ハ使用許可

第百〇一條 市廳ハ豫シメ技師官及衛生官ノ實地見分ヲ遂ケ技術官ニ於テ（百條）工事中ノ監視及落成後ノ檢査ニ於テ認可建築案及規定ヲ遵奉セルモノナル旨証明セル場合ニ於テ私有建物ノ住居又ハ使用ノ許可ヲ與フ

已建物ノ修理狀態ニ關スル監視

第百〇二條 市廳ハ現在建物ノ建築狀態並ニ持主ガ建物ノ維持ニ付キ規定ノ義務ヲ遵奉セルヤ否ヤヲ監視ス

又市廳ハ公共ノ利害及治安警察上必要ナル現在建物ノ著シシキ損所ノ改復ヲ命ジ且ツ必要ノ場合ニ於テハ建物及其附屬部分ノ除却及破毀ヲ命ズ

庚市內普通建築線案明示

第百〇三條 市廳ハ各建物ガ完成セル場合ニ於テハ市內普通建築線圖案ヲ明示スル爲メ之ヲ同設計案中ニ登記ス

辛建築規定及布告違犯事項ノ審案及所罰

第百〇四條 市廳ハ建築規定及本令ニ基キテ發布セル命令ノ違犯事項ニ對シ審案所罰ノ權ヲ有ス

市會及市參事會ノ職務

第百〇五條 市會ハ一般建築規定案及之ニ基ケル一般線設計案ヲ確定シ且右設計案ノ著シキ變更ニ關シ議決スルノ權ヲ有ス

(2)右ノ確定及決議ニ對シテハ抗告スル事ヲ得ズ

(3)市會ハ左ノ權限ヲ保留ス

1一定シタル建築物（第八十二條）ヲ有スベキ市區ノ表示

2殊ニ工場設置ト指定シタル市區及本令第八章ニ從テ建築スベキ區域ノ表示及該管轄ノ變更又ハ取消

3一般建築及水準ノ未ダ確定セザル場

合ニ於テ其都度單獨建築線及水準ヲ指定スル事

4 維納市若クハ市會ノ管理下ニアル資本ニ依テ施行セラルベキ建築ニシテ市會規約ニ從ヘバ市參事會ニ一任スベキ性質ニアラサルモノノ建築認可及ビ之等ノ建物ニアリテハ本令第二十三條ニ依テ隣家又ハ關係人ノ提出シタル異議ガ和解不調トナリタル場合ニ於ケル決定但民事訴訟手續ヲ要スルモノハ此限リニアラズ

(4) 右ニ反シテ市參事會ノ權限左ノ如シ

I 第九十七條ノ場合ニ於ケル市廳ノ請求ニ對スル承認及否決

2 市會ノ確定シタル一般設計案ニ著ルシキ變更ナキ建築線及水準ノ指定

3 建築場地ノ區劃認可

4 共同構內ニ於ケル建物團ノ建築許可

5 各場合ニ於ケル工事ニ關スル輕減ノ承認

6 市又ハ其管理下ニアル資本ニ依ル建物ニシテ市會規約ニ從ヘバ市參事會ニ一任スベキ性質ヲ有スルモノヽ建築許可

帝室政府及公有資產ニ依ル建築物ニ關スル特別規定

第百〇六條 政府ノ建築又ハ政府又ハ國ノ管理下ニアル資本ニ依ル建築設計案ノ審査及承認住居及使用ノ認可並ニ第二十一條規定ノ委員會議ハ知事ノ管理スル所ニシテ知事ハ該會議ノ爲メ常ニ維納市會及市廳ノ代理人ヲ召集シ且會議調書ノ謄本並ニ建築設計案各一通ヲ市參事會ニ提出ノ爲メ市廳ヲシテ取次セシム

(2) 帝室ノ建物ニアリテハ建築設計案ニ付キ知事ヨリ帝王室係リ官維納市會及市廳ノ代理者並ニ隣接者ヲ召致シテ委員會ヲ開クモノトス又知事ハ此會議ニ於テ提出セラレタル異議ガ和解ニ了ハラサル場合ニアリテハ本令ニ從テ之ガ決定ヲ與フ

抗告提起

第百〇七條 本令ノ事件ニ付市廳市會又ハ市參事會ノ與ヘタル決定ニ服セサルモノハ決定書下附ノ日ヨリ十四日以內ニ高等建築署宛ノ抗告書ヲ市廳ニ差出スベシ

(2) 建築事項ニ關シ市廳ガ與ヘタル處罰ニ對シテノ抗告ハ知事宛トナスベシ

高等建築署

第百〇八條 建築事項ニ於ケル市會ノ處分ニ對スル抗告ノ決定ハ市廳ガ關知セル處罰ニ對スル抗告ヲ除キ維納市建築院之ヲ掌トル

(2) 建築院ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

I 議長トシテ帝王國下墺太利知事又ハ其代理者

2 洲參事會員二名

3 帝王國下墺太利洲廳ノ高等官二名

4 下墺利地方參事會員一名

5 帝王國下墺太利洲廳員一名

6 一ケ年ノ期限ヲ以テ維納市會ガ撰定セル同市住ノ建築技師二名

7 帝王國下墺太利洲廳ヨリ撰定セル地方衛生會員一名

(3) 建築院委員ハ何時ニ維納市會員タル事ヲ得ズ

(4) 本院會議ニハ決議權ヲ有スル市廳及市參事會ノ代理者各一名ヲ立會ハシムル可シ

(5) 每會特ニ日程ヲ報告シテ總員ヲ招集

ス議長ヲ除キ五名以上ノ臨席者並ニ臨席者過半數ノ贊同アルニアラザレバ有効ノ議決ヲナス事ヲ得ズ

(6)議長ハ贊否同數ノ場合ニ限リ決議權ヲ有ス

高等審判廳

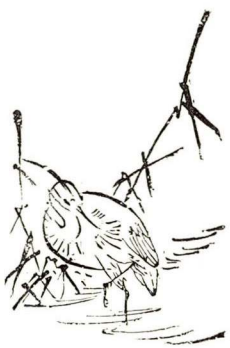
第百〇九條 二回トモ同一ノ判決ヲ受ケタル場合ニアリテハ之レニ對シテ抗告スルコトヲ得ズ

(2)判決ガ同一ナラザル場合又ハ第一審ニ於テ帝王國洲廳ガ判決ヲナシタル場合ニ於テハ四週間以內ニ帝王國內務省ニ宛テ抗告ヲ提起スルコトヲ得

工事ニ關スル市會判決ノ取消

第百十條 知事ガ工事ニ關スル市會ノ處分ヲ法律ニ抵觸スルヲ以テ禁止スベキモノト認メタル場合ニ於テ市會ハ知事ノ決定ニ對シ四週間以內ニ帝王國內務省宛ヲ以テ抗告ヲ提起スルコトヲ得

(2)內務大臣ニ於テ知事ノ命令ヲ正當ト認メ又ハ市會ガ知事ノ決定ニ對シテ抗告ヲ提起セザル場合ニアリテハ市會ハ直チニ相當ノ新處分ヲ施スベキモノトス(了)



●第一集　第九号　掲載広告一覧（掲載順）

村井工業
桜セメント
渡辺建築事務所
横河工務所
河合幾次建築事務所
辰野・片岡建築事務所
木子建築事務所
設楽建築工務所
宗建築事務所
茂・野村建築事務所
池田勘蔵
橋本料左衛門
大倉土木組大阪出張所
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
久保田工務所
山本鑑之進工務所

山中工務店
松村組
鴻池忠三郎
安藤組大阪出張所
木村組
清水組大阪支店
清水福太郎
銭高組
石井定七
濱恒次郎
長谷川勝助
河野忠次郎
加佳美石商会
熊取谷熊次郎
矢橋商店
北脇安蔵
大野正営業所
コルク工業

内外土木建築材料
明正社大阪支店
大阪窯業
須賀商会
松尾和助本店
野澤幸三郎商店
秋山小林商店
巣鴨製作所
大阪煖房商会
みよし組大阪支店
米国貿易会社
浅野スレート大阪出張所
栄進社
高田商会